

# 大阪市立自然史博物館館報

39

(平成 25 年度)



〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1番23号

大阪市立自然史博物館

平成 26 年 6 月 4 日 発行

# 目 次

---

東日本大震災における大阪市立自然史博物館の活動記録と残された課題	1
第44回特別展「いきものいっぱい大阪湾～フナムシからクジラまで～」	5
自然史博物館の研究活動	7
調 査 研 究 事 業	9
資 料 収 集 保 管 事 業	21
展 覧 事 業	30
普 及 教 育 事 業	36
広 報 事 業	45
刊 行 物	48
情 報 シ ス テ ム	48
連 携 (ネ ッ ト ワ ー ク)	49
庶 務	51

---

# 東日本大震災における大阪市立自然史博物館の 活動記録と残された課題

佐久間 大 輔

2011年3月11日の東日本大震災の発生から3年、阪神淡路大震災からは来年で20年の節目となる。東日本大震災の記憶が社会的に風化する前に、今回の震災対応を点検し、将来の大規模災害に備える必要があるだろう。これは博物館においてもあてはまる。

日本学術会議は、「学術の動向」2011年12月号において震災直後の初期段階においての対応を特集としてまとめ、西日本自然史系博物館ネットワークも2012年4月に中間総括のシンポジウムを行っている（佐久間2012a）。美術・歴史系文化財のナショナルセンターとしての役割を担った文化財等救援実行委員会（2012, 2013, 2013b）による報告書や文化芸術による復興推進コンソーシアム（2012）の報告書、東京文化財研究所などから多くの技術情報も発信された。被災地域の中核館であった岩手県立博物館（2014）もまた貴重な経験を報告書としてまとめている。しかし、将来に向けての課題整理や体制の検討はようやく緒についたばかりである。

本稿では被災地から離れた自然史分野の拠点館である大阪市立自然史博物館の活動を総括し、特に自然史分野を中心に将来課題をまとめた。

## 遠隔地で行った自然史標本の修復

ここでは2011年当時、大阪市立自然史博物館が取り組んだ標本のレスキューについてまとめておく。館報37号と重複する内容もあるが、合わせて確認してほしい。当館の活動の特徴は、学芸員が持つ人的ネットワークや西日本自然史系博物館ネットワークなどの組織といった広域の連携をベースに、博物館を取り巻くアマチュアなど博物館のローカルなコミュニティの協力を得て活動を展開したところにある。広域と、ローカルの2つの活動の輪があったから実現できたものであり（佐久間 2012c）、学芸員だけの活動では展開できない、また学芸員のつながりがなくてもできなかった活動ともいえる。以下、当館の関わった活動について時系列的に示す

●現地でのレスキュー作業への支援と助言：（2011年5月）当館より学芸員（植物研佐久間）一名を派遣。状況視察とともに現地での標本トリアージ（損傷程度の判断と必要な処理の見極め）、被災博物館からの搬出支援、隠花植物の処理の助言などを行った。（佐久間2011a）

●植物標本レスキュー：（5月-7月）鳥羽源藏標本をはじめとする20世紀初頭の三陸地方の植物さく葉標本750点の修復作業。津波により潮と泥をかぶったため、洗浄、除塩、再乾燥とデータベース化を行った。作業には友の会や近畿植物同好会の協力をいただいた。（佐久間2011b）

●昆虫標本レスキュー：（4月-7月）陸前高田市立博物館に収蔵され、潮・泥をかぶった蝶蛾類の標本のうち、移送可能な標本について、初期の洗浄技術・条件検討のためドイツ箱10個分の標本を修復した（金沢ら2011）。当館に関係する昆虫研究者らの助力を得た。

●現地での化石修復作業への参加：2011年8月および9月に重量物であり、また破損しているため移送が不可能な化石標本について、全国から学芸員を派遣して修復と破損または散逸したラベルの復元を試みた。（川端2012）

●貝類標本レスキュー：（12月-翌2月）陸前高田市海と貝のミュージアムが所蔵し津波の後回収されていた陸産貝類標本（柵山龍司コレクション）について、現地での洗浄作業が困難なことから当館で洗浄・殺菌と再乾燥を行った。作業には友の会有志の参加をいただいた。（石田2012a）

●文化庁などが行う文化財レスキュー事業の一環として、2012年1月、宮城県にある唐桑漁業センターに学芸員一名（動物研石田）を派遣し、地震により破損した液浸標本の処理を担当した。古くからの漁業地でありホヤ養殖地の、初期の姿を伝える資料が多数保管されていた。（石田2012b）

## 技術交流の試み

今回の震災に関しては全国の博物館が取り組み、その作業手順についても積極的に記録、公開を行っている（例えば布施ら2011）。

そこでこれらの技術の交流を行うことを目的に2012年4月30日に中間総括シンポジウムとして「被災自然史標本の修復技法と博物館救援体制を考える研究集会」を西日本自然史系博物館ネットワークとともに当館で開催した（佐久間2012a [http://www.naturemuseum.net/blog/2012/07/post\\_36.html](http://www.naturemuseum.net/blog/2012/07/post_36.html)）。

その後も2013年1月には総合的な博物館防災をテーマに日本博物館協会による研究集会が大阪歴史博物館で開催され（山西2013）、9月には西日本ネットワークと史料ネットの合同での「水損・津波被災資料の

修復と保存」ワークショップが開かれた。

2014年にも国際生物学連合によるシンポジウム国際シンポジウム「災害と生物多様性」が仙台で開催を予定しており、震災の経験・対応技術の取りまとめは国際的な発信の段階を迎えている。国際的な知見とよく照らしあわせ総合的な取りまとめをしておく必要がある。

#### コミュニティの支援・コミュニティをつなげる

博物館活動は標本の保持だけではない。被災博物館の利用者支援、博物館復興支援を目的に大阪自然史センターやなにわホネホネ団と協力し、自然史博物館で開催しているワークショップの被災博物館での開催を試みた。三陸地方の博物学者として現地の尊敬を集める鳥羽源藏氏の著述をベースに開発した貝遊び(石田2011)、同地方で多産する化石をモチーフにしたものなど、新たに開発、アレンジしたものも実施した。現地の諸団体とも連携し、山田町、大迫町、大船渡市、陸前高田市、一関市、南三陸町、いわき市などで活動を展開している(西澤2012a, b)。2014年現在も、現地からの強い要請、助成金や寄付による支援、西日本自然史系博物館ネットワーク参加学芸員有志などの協力を得て大阪自然史センターを中心に継続して事業実施している。現在はワークショップの担い手を現地に育成すべく東北の各大学の学生を交えてとりくんでいるところである。

現地での事業展開だけではない。大阪と被災地を結ぶことも試みた。2011年6月の友の会チャリティバザーにはじまり、遠征団ワークショップの「里帰り公演」、企画展示などにより、震災への思いを新たにしてもらう機会としている。

企画展示は地震と被災資料を中心に2011年夏にパネル展「今 地震・津波を考える」を開催、2012年は大阪歴史博物館での「大阪を襲った地震と津波」展に出展した。2013年はミニ企画展「平成の大津波被害と博物館巡回展 ナチュラリスト鳥羽源藏と後継者たちの残したもの」を開催した(本誌33ページ参照)。博物館は活動によって被災地と大阪の市民の思いを伝え合う場所にもなれるのである。

#### 基盤情報の整備と共有

ここからは、個々の博物館単独では解決できない課題についてのべてみたい。

災害発生時の初動には、まず情報の収集が必要である。今回の震災発生時に、どこに博物館があるのか、どの博物館にどのような資料があるのか、把握されていなかったことが課題となった。社会教育調査の調査対象館データ、日本博物館協会の博物館調査のデータなどは存在していたが、迅速な公開ができなかった。有志の集まりであり、博物館、図書館、公文書館、公民館のレスキューを目指したsaveMLAK (<http://savemlak.jp/>) やインターネットミュージアムの活動がこれを補うことになったが、情報を持つものと、活動の担い手との協働に課題が残ったとも言える。震災発生時に東京も交通機関の停止、停電、など多くの混乱に見まわれ、中核的機関が情報の開示と初動体制構築が困難であったことも一因である。情報が皆に公開・共有されていれば、被災を免れた各館が自律的に初動時に機能できることもある。ツリーではなくウェブ構造の相互補完が必要なのではないだろうか。

今回の震災では発生直後から陸前高田博物館に相当の自然史系コレクションがあること、陸前高田海と貝のミュージアムに貝のタイプ標本が相当数あることを複数の関係者が懸念していた。どの博物館にどのような標本がどのくらいあるのか、いわば標本のメタ情報の把握は初動の体制づくりに欠かせない。地理的なアクセスの問題も有り地方博物館の標本情報は埋もれてしまう場合も少なくない。現在分類学会連合でも同様の危機感から各博物館のコレクション収蔵状況調査が行われているが、このような試みが学会での共有とともに、博物館界で相互フォローアップの体制とともに議論されることが重要である。

自然史系標本の場合には、「文化財保護法」に天然記念物を除き自然史系標本を位置づけることができず、実質的には文化財制度では把握されていない。行政がコレクションのメタ情報を把握するシステムが地方・国ともに存在しないことは災害時に行政を動かす難所であった。究極には自然史標本を含めた博物館標本を社会の財産としてどのように保持していくのかという大きな課題であるが、まずは自然史博物館界の自助努力としてメタ標本データの集約と共有は重要な一歩となるだろう。

この基礎には個々の博物館の学芸員による研究による発信や、収蔵資料目録、データベース公開などを通じた標本情報の提供・流通の努力があることはいまでもない。外部研究者(アマチュアを含む)による標本活用を促す努力も必要である。利用者の拡大と情報発信が災害時対策にもつながる。

#### 分野間の連携

活動の初期にsaveMLAKが主体となり、また被災文化財等救援委員会という分野横断的な組織が機能したことの利点もあった。自然史資料は専門館ばかりでなく、地域の歴史民俗系の資料館や公民館、あるいは図書館が地域資料として保持している場合も少なくない。公民館や資料館など、地域機関には歴史資料分野のつながりが圧倒的に強い。上記の唐桑公民館の例のように人文系中心の救援作業の中で自然史的な取

り扱い技術が必要な標本もある。歴史資料・美術系の動きに連動しつつ、自然史の独自技術を求められた時には対応できるネットワークとしての連携が有効であろう。特に、初動体制ではこうした連携は重要である。文化財審議委員など、文化財関係者のネットワークは地域行政にしっかりと構築されている。つてを頼った災害発生直後の現地での初動体制確立は文化財関係者ならではともいえる。なによりも、阪神淡路、中越など、様々な震災や水害の現場で未指定・未収集の文化財のレスキューを展開してきた経験とノウハウは重要である。分野を超えた博物館界の連携を進める努力は欠かせないだろう。

### 自然史系標本と未指定文化財

標本を持っているのは博物館だけではない。社会の中でどこに、どのような標本があるのかは学芸員の日常的意識の中にある。地域博物館の学芸員はアマチュアや地域研究者のネットワークに身をおき、保全すべき自然環境同様、博物館外にある重要標本を把握している。大学から引退した研究者の自宅へ移った研究資料、アマチュア・コレクターの自宅に保管された標本などについての情報は、残念ながら行政的に位置づけられていない。情報把握は学芸員の個人的努力により支えられている。文化財制度は民間の重要資料を公的に認知し位置づける機能があるが、前述のように自然史分野にはその制度がない。さらに歴史・史料研究者は博物館外にあり未登録の史料をも「未指定文化財」として調査対象にし、積極的な把握に努めている。自然史系でも民間にある重要標本を把握する努力が公的に必要ではないだろうか。日常からの情報収集活動は災害などの発生時のみならず、コレクターの退職や死亡に伴う破棄の可能性を低減させるためにも重要な取り組みである。個人コレクターの標本の行き場がなく破棄されるといった事態を避けることを目的に、西日本自然史系博物館ネットワークによる標本救済ネットワーク (<http://www.naturemuseum.net/blog/cat11/> 2014年4月15日確認) などの取り組みも始まっている。現状では相談を待っている受け身の体制であるが、今後は積極的な働きかけ、あるいは情報収集が必要かもしれない。

文化財保護法の中で自然史系資料への言及がないことも大きな課題であるが、博物館法の中で資料の保全義務の明文規定がないことなども課題である。自然史系資料が社会の資産であり、保全の必要があることをまずは社会的な合意を図りつつ、制度化をはかりたい(佐久間 2011c)。こうした認識は日本分類学会連合が2012年1月12日に開催した公開シンポジウム「自然史標本の公的保護をめざして」などの取り組みや、馬渡駿介氏を中心にすすむ『『自然史財』認定・登録システムの研究』などのプロジェクトにもみられる。博物館法の改定の動きなども睨みつつ、粘り強く取り組んでいく必要があるだろう。

### 地域内のネットワーク

災害時には自然史博物館関係者でなければ集められない情報は確かに含まれている。東日本大震災においても実際に地域の標本の状況をよく把握する岩手県の各博物館の学芸員ネットワークが重要な役割を担った。地域の未指定文化財のレスキューに関しては岩手県立博物館(鈴木・大石2011)や福島県立博物館(竹谷2011)などやはり地域の拠点館が担っていた。宮城においては文化財系の活動が活発であった一方、自然系の拠点館がなかったために、東北大学などが一定の役割を果たしていた(佐々木2011)。被災文化財救援事業全体としては都道府県ごとに委員会を組織して情報共有をしながら事業を進めていた。このように、地域の中核館の担う役割は大きい。しかし、文化財・美術を交えたネットワークが主体となり、自然史系はその一部に組み込まれることが基本となることが予想される。このため近隣の異分野館のネットワークの中で機能しつつ、広域の自然史系ネットワークの助力を得て調整を行い活動する、ということが当館のような自然系中核館に求められる役割になるだろう。京都府域では震災を想定した文化財ネットワークが既に作られている。例えば文化財系が中心のこうしたネットワークと西日本自然史ネットなどの自然史系団体がどのように提携できるのか、今後のモデルともなり得る検討課題だろう。

大阪府下には北摂ミュージアムネットワークや泉州ミュージアムネットなどの地域ネットワークや、大阪市域の博物館連携があるが、府域をカバーする博物館ネットワークがなく博物館の基本情報の共有すら進んでいない状況にある。標本情報も小規模施設の内容となると課題がある。隣県の和歌山や京都となると小規模施設の状況把握は大阪からは困難、という現状にあるように思う。南海・東南海地震クラスの災害となった場合には府県レベルを超え、関西広域連合レベルの取り組みが必要とおもわれるが、博物館の情報共有は未着手な課題ともいえる。

標本資料の保全をすべて行政任せにはできない現状がある以上、博物館界のセルフガバナンスとしてどこまで出来るかも重要になる。大きな課題がつけつけられている状態であるとも言える。

### 終わりに

2012年本誌37巻に遠隔地からの支援メニューは

## 0. バックアップ機能としての標本、研究資料の交換や情報共有

1. 情報の収集
2. 被災標本の修復、検討
3. 被災博物館周辺コミュニティへの支援
4. 現地学芸員への支援派遣
5. 隔地の博物館コミュニティから被災地への連帯
6. 記録・今後の検討課題の抽出、
7. 復興への支援

の8項目に集約されると書いた。2014年現在の活動はこのメニューで言えば5から7に当たるだろう。しかしこれからの長くかかるステージでもある。支援メニューの最初の項目は被災以前の日常活動だから、「0.」とした。復興と同様長い時間をかけて構築しなければいけないのが日常活動であり、日常活動こそが重要だという思いは更に増している。そこには例えば「自館での防災対策」や「自然史博物館の重要性についての社会へ働きかけ」などを書き加えなければいけないだろう。自館が来館者、コレクション、学芸員、コミュニティ共に無事でなければ、また社会が背中を押してくれなければ、救援を進めることは難しい。

南海地震はいずれ起こる、そう想定をして「わが事として」連携のあり方を検討していかなければならない。

## 参考文献

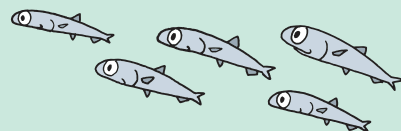
\*を付したものは大阪市立自然史博物館友の会のサイトwww.omnh.netに公開されている

- 石田 惣\* (2011) 80年前の岩手の子どもの貝遊び NatureStudy 57(11): 6-7
- 石田 惣 (2012a) 陸前高田市海と貝のミュージアム所蔵の貝類標本レスキューNatureStudy 58(4): 5-6
- 石田 惣 (2012b) 気仙沼市唐桑町で保管されていた60年前の養殖マボヤ標本NatureStudy 58(10): 2-4
- 岩手県立博物館 (2014) 岩手県における東北地方太平洋沖地震被災文化財等の再生に向けた取り組み 被災から3年目における成果と課題 岩手県立博物館調査研究報告書 第30冊
- 大阪市立自然史博物館友の会\* (2011) 友の会による東日本大震災復興支援イベントの報告 NatureStudy 57(9): 12
- 川端清司\* (2012) 『東北地方太平洋沖地震及び津波』で被災した陸前高田市立博物館の地質資料レスキュー NatureStudy 58(3): 6-7
- 金沢 至・宮武頼夫・河合正人・梅崎裕久\* (2011) 大震災・津波で被災した昆虫関係施設への支援と標本救済 NatureStudy 57(8): 5-6
- 佐久間大輔\* (2011a) 陸前高田市立博物館の植物標本レスキュー NatureStudy 57(7)5-6
- 佐久間大輔 (2011b) 自然史標本のレスキュー 自然史系博物館の取り組みから ミュゼ97: 12-14
- 佐久間大輔 (2011c) 自然史系資料の文化財的価値: 標本を維持し保全する理由 日本生態学会誌 61(3): 349-353
- 佐久間大輔 (2012a) 自然史標本修復の経験を今後につなぐために「東北大震災と自然史系博物館～被災自然史標本の修復技法と博物館救援体制を考える研究集会」からの報告. ミュゼ 100 24-26
- 佐久間大輔 (2012b) 東日本大震災に直面した遠隔地の博物館として. 大阪市立自然史博物館館報37: 6-8
- 佐久間大輔 (2012c) 広域連携組織は博物館発展のパートナーとなり得るかー西日本自然史系博物館ネットワークを例に. 博物館研究47(9): 10-12
- 佐々木 理 (2011) 宮城県自然史標本レスキュー活動報告. 学術の動向 16(12): 42-43
- 鈴木まほろ・大石雅之 (2011) 津波被災標本を救う一つながる博物館をめざして 遺伝65(6)2-6
- 竹谷 陽二郎 (2011) 福島県における自然標本の被災状況とレスキューの必要性. 学術の動向16(12): 44-45
- 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会 (2012) 平成23年度活動報告書. 東北太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局
- 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会 (2013) 平成24年度活動報告書. 東北太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局
- 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会 (2013) 公開討論会報告書. 東北太平洋沖地震被災文化財等救援委員会事務局
- 西澤真樹子\* (2012a) 被災地岩手県での子どもワークショップ報告Nature Study 58(1): 2-4
- 西澤真樹子 (2012b) なにわホネホネ団の東北キャラバン実践報告「きょうは1日、化石であそぼ!」～博物館コミュニティによる被災園館支援の可能性をさぐる～ ミュゼ99: 20-21
- 西田 治文編 (2011) 被災した自然史標本と博物館の復旧・復興に向けて 学術の動向16(12): 34-59
- 布施静香・山本伸子・高橋 晃 (2011) 東日本大震災により被災した植物標本のレスキューー兵庫県立人と自然の博物館が果たした役割ー. 人と自然 22: 53-60(2011)
- 文化芸術による復興推進コンソーシアム設立準備事務局 (2012) 東日本大震災、文化芸術の復興・再生の取り組みー被災と支援の実態調査と事例からこれからのを考えるー. 文化芸術による復興推進コンソーシアム
- 山西良平 (2013) 平成24年度研究協議会テーマ2「博物館の災害対策ー防災からポスト災害まで」について 博物館研究48(6): 16-19

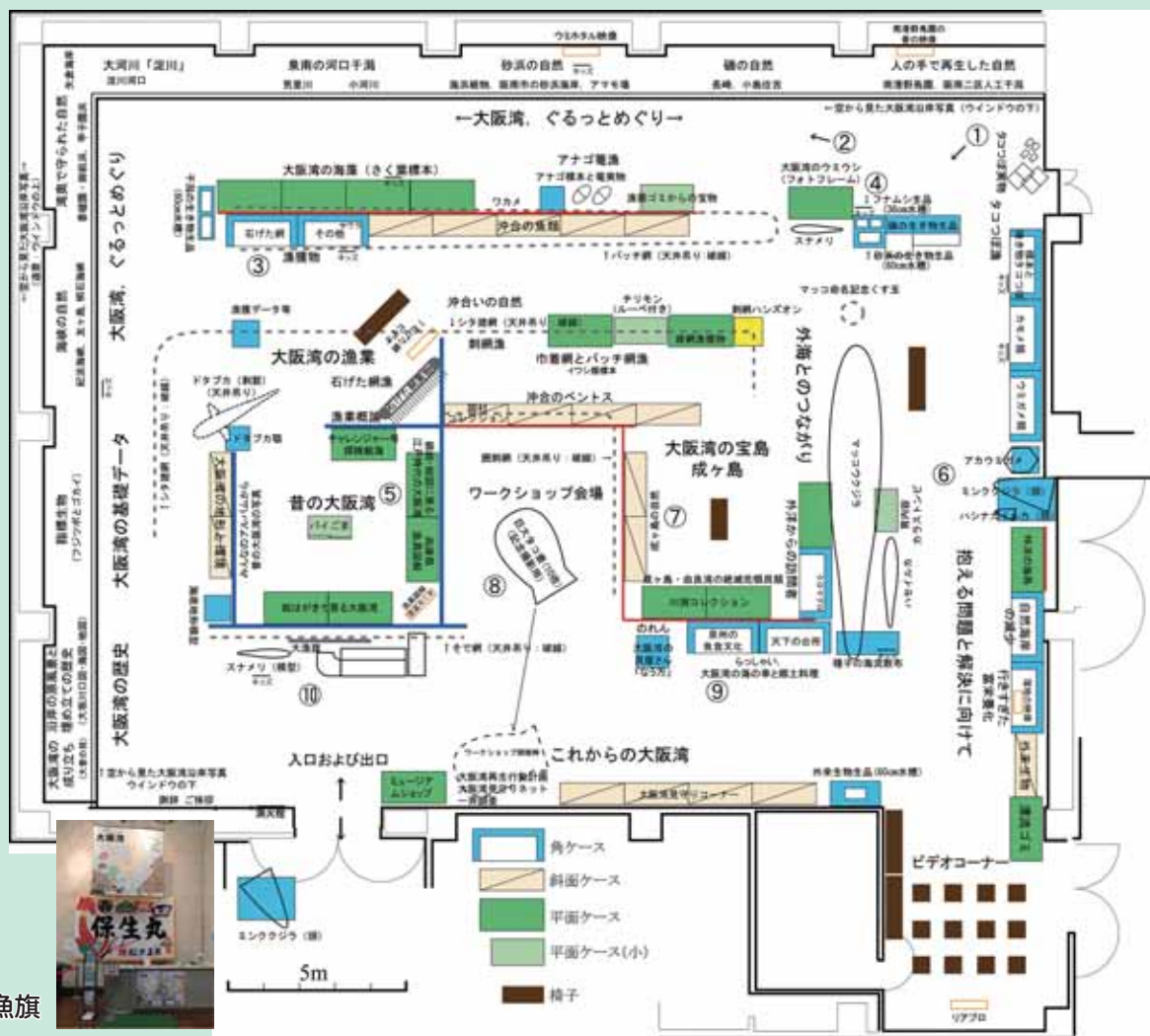
# 第44回特別展

# 「いきものいっぱい大阪湾～ フナムシからクジラまで～」

平成25年7月20(土)～10月14日(月・祝)



①: 全景。手前が水槽展示、左はマッコウクジラ、天井からバッチ網、刺し網が吊るされている。右に少し見えるのはワカメの標本。



⑩大漁旗





②：沿岸の自然。手前は磯の自然の展示



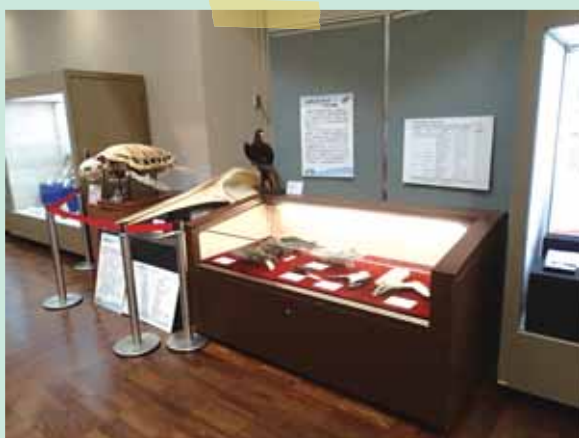
③：石げた網の漁獲物。ウシノシタ類やハゼ類が中心。



④：キタフナムシとフナムシ。生きた個体の展示。



⑤：錦絵や絵図にみる昔の大阪湾。



⑥：アカウミガメ、ミンククジラ、海鳥。



⑦：大阪湾の「宝島」- 成ヶ島。貴重な生き物の宝庫。



⑧：巨大タコ壺。博物館友の会のご協力で作成。



⑨：大阪湾の漁獲物を使った郷土料理(レプリカ)。

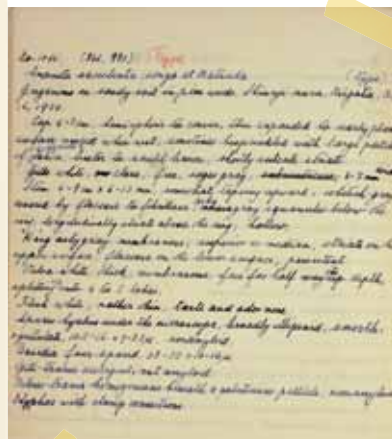


# 自然史博物館の研究活動

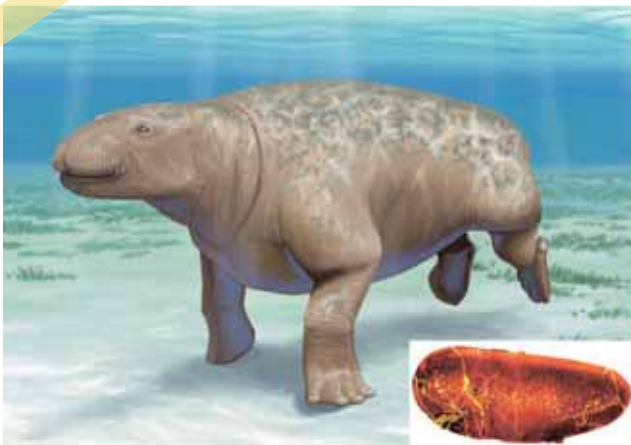
博物館における調査研究は、博物館活動の根幹をなすものである。展示や資料収集、普及教育活動も調査研究との双輪をなしてこそ、その意義や効果が高まる。

自然史博物館では開館当初から学芸員の調査研究の推奨し、その活動に反映している。また、科研費申請機関としての指定や国内外の研究者・機関との共同研

究、外来研究員制度など、研究活動を充実させるべく館内の体制を整えている。個々の学芸員の研究成果や科研費などの競争的研究資金の状況については、10ページ以降の「調査研究事業」に譲るが、ここでは2013年度に論文公表された研究および科研費研究について、そのいくつかを紹介する。



ドウシタケ *Amanita esculenta* の彩色図(左)と標本ノートに記載(右)。本郷次雄菌類図譜は日本の菌類研究上極めて重要な資料である。この資料を整理、公開し、また分子的手法を用いたDNAバーコーディングなどの情報提供などを行なうことでアマチュア菌学の活性化を図るのが本研究の要点である。本種は松田一郎・本郷次雄(1955)新潟県砂丘地帯の高等菌類(1)植物研究雑誌 Vol. 30 No. 5, 20-25 で新種記載された。科研費基盤研究(B)「アマチュア菌類学のための支援情報基盤と遺伝情報つき地域工キシカータ作成の試み」(研究代表者:佐久間大輔;研究課題番号:23300333)から。



陸か海の動物かわかっていなかった、絶滅哺乳類 束柱類の骨の微細構造を世界で初めて分析し、現在の哺乳類の骨構造と比較した。その結果、束柱類が水中での生活に適応し、さらにその進化の過程で、現在のマナティなどのように緻密で重い骨をもち、水中でからだを安定させるのに役立つ「安定型」(左)、そして現在のゾウアザラシなどのように海綿状の骨をもち、海中で活発に泳ぐことに適している、「活発型」(右)の2つの生活様式を獲得していたことがわかった。復元画は新村龍也氏・足寄動物化石博物館が作成・提供。それぞれの写真右下は、肋骨の断面を示したもの。

Hayashi, S., Houssaye, A., Nakajima, Y., Chiba, K., Ando, T., Sawamura, H., Kaneko, N., Inuzuka, N. and Osaki, T. (2013) Bone inner structure suggests increasing aquatic adaptations in Desmostylia (Mammalia, Afrotheria). PLOS ONE 8(4), e59146. doi:10.1371/journal.pone.0059146.

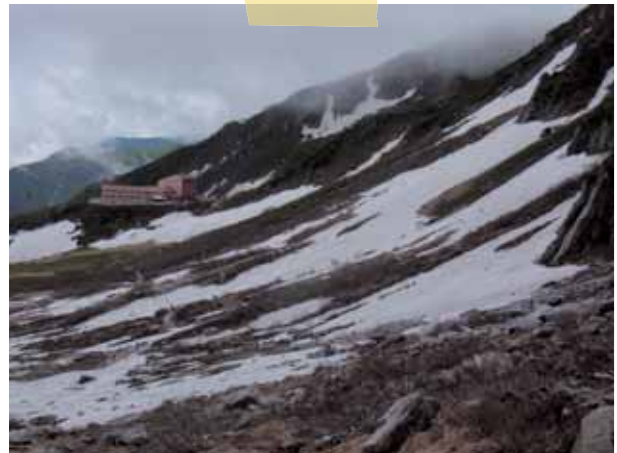


オオママコナ（左）と近縁なシコクママコナの花（右）。オオママコナは紀伊半島南部の固有種で、近縁なシコクママコナの2倍近い長さの花筒を持つ。これまで知られているママコナの仲間は、主にマルハナバチなどのハナバチ類によって受粉されるが、本種は昼行性のスズメガによって受粉されることが2年間の調査により明らかになってきた。科研費若手研究(B)「ママコナ属における花筒長の多様化と送粉者を介した生態的種分化過程の解明」(研究代表者：長谷川匡弘；課題番号：24770085)より。



大阪市立自然史博物館と金沢大学によるマツの化石の共同研究により、クロマツの祖先が約1700万年前頃にユーラシア大陸から日本へ移入し、クロマツは270万年前に起源したことを明らかにした。この研究には、大阪市立自然史博物館に所蔵されている、三木茂コレクションが用いられた。三木茂博士(1901-1974)は、大阪市立大学理学部教授で、メタセコイアの発見で有名な植物化石研究者である。博物館に収蔵された標本は既に出版された論文の証拠となるだけでなく、この例のように新しい研究の入り口にもなり得る点で非常に重要である。写真右はフジイマツ(約1000万年前、岐阜県多治見市産)、左はクロマツ(約290-170万年前、島根県江津市産)。

Yamada T, Yamada M, Tsukagoshi M. Fossil records of subsection *Pinus* (genus *Pinus*, Pinaceae) from the Cenozoic in Japan. *J Plant Res*, 127, 193-208.



日本列島に人々が住みはじめた2~3万年前ほど前は、気候はたいへん寒かったことが知られており、具体的に何度くらい低かったのかについて、甲虫化石を用いて調べている。甲虫類は翅があるため気候に合わせて南北に敏感に移動できること、固い殻に覆われているので、化石で比較的見つけやすい特長がある。産出した種から当時の気候を解析するためには、その種の現在の分布とその気候をくわしく調べる必要がある。そのため、7月でも雪の多く残る中央アルプスの標高3000m近いところで、コップを埋めて甲虫類の調査を行った。科研費基盤研究(C)「甲虫化石を用いた最終氷期最寒冷期における気温低下の推定」(研究代表者：初宿成彦；研究課題番号：24570120)より。

# 調査研究事業

本格的な調査研究を通じてこそ、質の高い博物館活動が可能となるから、博物館活動の根底に調査研究が位置づけられなければならない。自然史博物館はその50年余に及ぶ活動から、公立博物館としては群を抜く標本や資料の蓄積をもつ。基礎科学分野の研究機関として、これらは重要な社会的使命を帯びるものである。さらに、文部科学省指定の研究機関であり、科研費の申請資格や日本育英会（現：独立行政法人日本学生支援機構）の免除職の適用など、研究機関として一定の地位を確立している。自然史科学研究者が横断的にそろって博物館施設として中核的な使命を持つ博物館でもあり、自然史科学分野の発展のためにも調査研究面での競争力強化とその推進体制の整備が急務となっている。

今年度は、来年度の特別展準備を兼ねた、市民と協同で進める「大阪を中心とした都市の自然プロジェクト調査」を実施してきた。その成果は館で刊行する研究報告や学会誌で公表するとともに、講演会を通じて市民に普及した。

## I. 研究体制

学芸員は、館長を除き全員が学芸課に所属し、5部門の研究室で研究業務に携わっている。

館長 山西 良平(Ryohei YAMANISHI)

動物研究室 波戸岡清峰(Kiyotaka HATOOKA) 主任学芸員  
和田 岳(Takeshi WADA) 主任学芸員  
石田 惣(So ISHIDA) 学芸員

昆虫研究室 金沢 至(Itaru KANAZAWA) 学芸課長代理  
初宿 成彦(Shigehiko SHIYAKE) 主任学芸員  
松本 吏樹郎(Rikio MATSUMOTO) 学芸員

植物研究室 佐久間大輔(Daisuke SAKUMA) 主任学芸員  
長谷川匡弘(Masahiro HASEGAWA) 学芸員  
横川 昌史(Masashi YOKOGAWA) 学芸員

地史研究室 川端 清司(Kiyoshi KAWABATA) 学芸課長  
塚腰 実(Minoru TSUKAGOSHI) 主任学芸員  
林 昭次(Shoji HAYASHI) 学芸員

第四紀研究室 石井 陽子(Yoko ISHII) 学芸員  
中条 武司(Takeshi NAKAJO) 学芸員

平成26年3月31日現在

## II. 研究テーマ

### ■山西 良平（館長）

- (1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究
- (2) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相の調査研究
- (3) フナムシの分類学的研究

### ■波戸岡 清峰（動物研究室）

- (1) ウナギ目魚類各科の系統分類学的研究
- (2) 大阪湾周辺および瀬戸内海海域の魚類相の調査

### ■和田 岳（動物研究室）

- (1) ヒヨドリの採食生態に関する研究
- (2) 大阪の都市周辺の鳥類相及び哺乳類・両生爬虫類の調査
- (3) 大和川下流域及び周辺ため池の水鳥の個体数調査
- (4) 大阪湾岸・播磨灘岸の水鳥の分布調査
- (5) キンバトの食性などに関する研究

### ■石田 惣（動物研究室）

- (1) 軟体動物の生態学・行動学的研究
- (2) 博物館標本から推定する生物相の変遷
- (3) 生物映像のアーカイビングとその活用
- (4) 都市公園の無脊椎動物相と分布
- (5) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相

### ■金沢 至（昆虫研究室）

- (1) 日本及び東アジア産キバガの系統分類学的研究
- (2) 近畿地方の蛾類記録の整理
- (3) アサギマダラの移動の調査
- (4) 昆虫・クモの光周性の研究
- (5) ゴケグモ類の生活史

### ■初宿 成彦（昆虫研究室）

- (1) 新生代の昆虫化石の研究（遺跡の昆虫遺体も含む）
- (2) 大阪府および周辺の甲虫類の分布調査
- (3) セミに関する研究

### ■松本 吏樹郎（昆虫研究室）

- (1) ヒメバチ科昆虫の寄生習性、分類、系統学的研究（特にクモヒメバチについて）
- (2) マレーゼトラップによるハチ目昆虫ファウナと季節消長
- (3) 近畿地方におけるハチ目昆虫相
- (4) 移入種アカハネオンブバッタの分布・由来に関する研究
- (5) ウスバカゲロウ科の分類学的研究

### ■佐久間 大輔（植物研究室）

- (1) 本郷次雄菌類関連資料のアーカイブ化及び分子生物学的利用
- (2) 里山利用の民俗生態学的研究
- (3) 丘陵地植物群集の景観生態学的研究
- (4) 博物館利用者コミュニティの発達に関する教育学

## 調査研究事業

的研究

(5) 自然史標本の文化財制度及び保存科学

### ■長谷川 匡弘 (植物研究室)

- (1) 顕花植物の花形態とポリネーターの共進化に関する研究
- (2) 里山環境における開花フェノロジーと訪花昆虫相の特徴
- (3) 希少植物種の保全生物学的研究

### ■横川 昌史 (植物研究室)

- (1) 希少植物ハナシノブの遺伝構造と繁殖生態
- (2) 絶滅危惧種の保全遺伝生態学
- (3) マイクロサテライトマーカーの開発
- (4) 半自然草原の植生管理

### ■川端 清司 (地史研究室)

- (1) 四万十帯・日高帯の緑色岩類の産状と構造発達史上の意義に関する研究
- (2) 白亜紀・古第三紀放散虫化石に関する研究
- (3) 現生放散虫に関する研究
- (4) 地質現象の「見える化」実演実験の開発とその博物館学的研究

### ■塚腰 実 (地史研究室)

- (1) 新生代古植物相の研究
- (2) ヒシ科化石の分類学的研究
- (3) バシヨウ科果実化石の分類学的研究

### ■林 昭次 (地史研究室)

- (1) 装楯類恐竜類における装飾物の進化
- (2) 恐竜類の成長様式と生理の進化と多様性
- (3) モンゴル産恐竜類の骨組織学的研究
- (4) 陸生脊椎動物の大型化と小型化
- (5) 組織学的アプローチから復元する首長竜類の水生適応と進化

### ■石井 陽子 (第四紀研究室)

- (1) 大阪平野の第四系の層序と地質構造に関する研究
- (2) 大阪平野ボーリング試料を用いた中・上部更新統の火山灰層序に関する研究

### ■中条 武司 (第四紀研究室)

- (1) 干潟・汀線などの沿岸域の微地形および地層形成に関する研究
- (2) 都市域の微地形に関する研究
- (3) 再堆積性火砕堆積物に関する研究

## Ⅲ. 文部科学省科学研究費補助金を受けて行った研究

1. 当館研究者が研究代表者となったもの

### ■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
------	-------

ママコナ属における花筒長の多様化と送粉者を介した生態的種分化過程の解明	長谷川匡弘
-------------------------------------	-------

(3年間継続の2年目) (課題番号: 24770085)

○8月16-24日 福岡県、屋久島においてママコナ属の送粉昆虫調査、サンプル採集を行った。

○9月3-5日、23-26日 和歌山県田辺市においてシコクママコナの送粉昆虫調査、サンプル採集を行った。

○9月16-18日 広島県東広島市においてシコクママコナの送粉昆虫調査、サンプル採集を行った。

○10月7-11日 韓国Somaemuldoにおいて*M. koreanum*の送粉昆虫調査、サンプル採集を行った。

○10月2日、26-28日、11月5-6日 和歌山県串本町においてオオママコナの送粉昆虫調査、サンプル採集を行った。

○日本生態学会第61回全国大会において成果を発表した。

### ■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
------	-------

クモヒメバチにおける寄主操作の多様性とその進化史に関する研究	松本吏樹郎
--------------------------------	-------

(3年間継続の3年目) (課題番号23770099)

○日本産の全種と、主にアメリカ、ヨーロッパ産のサンプルに関して、3つの分子マーカー (EF1 $\alpha$ 、COI、28S) を用いて、系統解析を行い、信頼性が比較的高いと考えられる系統仮説を得た。

○各種で記録されている寄主、行動、寄主操作をこの系統樹にマッピングし、その進化について考察した。本研究の成果について現在投稿準備中である。

○日本昆虫学会第73回大会において成果を発表した。

○用いたサンプルに関して、種の同定の確認を行うため、北海道大学を訪れ、収蔵されているタイプ標本と比較を行った。

### ■若手研究 (B)

研究課題	研究代表者
------	-------

博物館標本から再構築する日本の干潟生物相の変遷とその保全への活用	石田 惣
----------------------------------	------

(4年間継続の3年目) (課題番号: 23701025)

○京都大学総合研究博物館、ロンドン自然史博物館 (チャレンジャー号航海コレクション) 等が所蔵する無脊椎動物標本の調査を行った。

- 大阪湾、兵庫県播磨灘、岡山県水島灘沿岸干潟等で地形環境及び生物相の調査を行った。
- 国内各地の干潟における過去の生物相及び地形環境に関する文献調査を行った。
- 大阪湾及び東京湾における明治～昭和初期の干潟生物相について、標本記録からの復元作業を行った。
- 大阪湾における沿岸環境の変遷を標本及び文献記録から再現し、その内容を特別展の展示として作成した。
- 過去の文献及び標本記録の集約により、大阪府の汽水域・砂浜域における生物相記録をとりまとめ、大阪府レッドリスト(海岸生物)の選定の基礎資料とした。

■基盤研究(A)

研究課題	研究代表者
自然史系博物館等の広域連携による「瀬戸内海の自然探求」事業の実践と連携効果の実証	波戸岡清峰
(5年間継続の2年目)	(課題番号:24240113)

- 大阪市立自然史博物館第44回特別展「いきものいっぱい大阪湾～フナムシからクジラまで～」を開催し、西日本自然史系博物館ネットワークの研究会で、連携の有用性の検証を含む特別展の報告を行った。
- 瀬戸内海全体の調査の為に連携機関による今後の方針の検討、標本や資料に関する情報交換を行った。
- 福山大学因島臨海キャンパス、広島大学向島臨海実験所を訪れ、所蔵標本や文献の調査を行った。笠岡市立カブトガニ博物館を訪れ、事業連携の可能性の打ち合わせを行った。
- 岡山県から広島県にかけての水島灘および兵庫県千種川河口において魚類相の調査を行った。
- ロンドン自然史博物館のチャレンジャー号魚類コレクションを研究分担者(石田惣)によって得られた調査データをもとに再同定した。

■基盤研究(B)

研究課題	研究代表者
アマチュア菌類学のための支援情報基盤と遺伝情報つき地域エキシカータ作成の試み	佐久間大輔
(4年間継続の3年目)	(課題番号:23300333)

- 本郷次雄菌類図譜は日本の菌類研究上極めて重要な資料である。この資料を整理、公開し、また分子的手法を用いたDNAバーコーディングなどの情報提供などを行なうことでアマチュア菌学の活性化を図るのが本研究の要点である。

- 今年度は画像のデータベース化を終えたが、6000点の標本の7割のデータベース化、ノートのすべてをデータベース化した。また、本郷文献により引用されている標本についての情報集約を進め、これらの情報は学会発表などで順次公開している。
- 本郷標本はパラホルムアルデヒドによる燻蒸が繰り返されDNAの断片化が進んでいるが、これを1)短鎖DNAの分析で利用2)同一産地からの標本でシーケンスするなど、DNAバーコーディングのリファレンス資料整備を進めている。
- その他現生標本についてのDNAバーコーディング法の適用も進め、アマチュア向けの適用の可能性も検討している。

■基盤研究(C)

研究課題	研究代表者
現世および考古遺跡における高潮・越波堆積物の認定と津波堆積物との比較	中条 武司
(3年間継続の1年目)	(課題番号:25400494)

- 三重県松名瀬海岸において、越波堆積物の微地形を中心に検討を行った。
- 大阪市内(西大阪平野)の遺跡において、縄文～古墳時代の沿岸部の堆積物を中心に検討を行い、高潮・越波堆積物および台風起源の堆積物を認定した。

■基盤研究(C)

研究課題	研究代表者
甲虫化石を用いた最終氷期最寒冷期における気温低下の推定	初宿 成彦
(3年間継続の2年目)	(課題番号:24570120)

- 東日本各地の湿地などで野外調査を行った。
- 昆虫化石の発掘調査を行った。
- 甲虫類の分布データやその気象データをまとめ、古気候解析を行った。

■基盤研究(C)

研究課題	研究代表者
教科書を基本とした理科以外の教科での自然史博物館活用と学校向けツールの調査・開発	釋 知恵子
(3年間継続の1年目)	(課題番号:25350411)

- 全国科学系博物館協議会加盟館リスト約220館を対

## 調査研究事業

象に、学校に提供している貸し出し資料やプログラムなどの学校向け事業や、博物館の専門分野外の教科での事例を集めるなど、基本的な情報を集めるアンケート調査を実施した。

- 大阪市内の小中学校に採用されている教科書と、自然史博物館の展示や貸し出し資料等との対応表を作成し、ホームページ掲載に向け準備を進めた。
- 8月7日に教員のための博物館の日を開催し、博物館の専門分野と違う学校の活用事例の調査を行い、また、教員に見学してもらえるように、特別展「いきものいっぱい 大阪湾」と学校の教科書との関連を紹介するコーナー展示を作った。
- 小学校の国語の題材とつながる貸し出しキットの企画会議を行い、学校で使いやすい形態等の意見を出し合い、貸し出しキットの企画にとりかかった。

### ■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者
カビの勝者と敗者を分ける要因は何か？ (3年間継続の2年目)	浜田 信夫 (課題番号：24500936)

- 石鹼を使っている浴室で生育しているカビのルーツを求めて、アルカリ性の土壌である伊吹山や藤原岳などの石灰岩帯のカビ相の調査を行った。その結果、石灰岩帯で、浴室に特有であるScolecobasidium属のカビの近縁種を4種分離することに成功した。それらのカビの遺伝的、生理的特性の調べ、浴室のカビとの関連性を検討した。

## 2. 当館学芸員が研究分担者となったもの

### ■基盤研究 (B)

研究課題	研究代表者	当館分担者
日本の博物館総合調査研究 (課題番号：80068915)	篠原 徹	佐久間大輔

- 『博物館総合調査』を活用した博物館の「調査研究事業」、「資料収集」、「友の会、ボランティアなど市民連携」の調査研究を分担した。

### ■基盤研究 (C)

研究課題	研究代表者	当館分担者
博物館と連携したPISA型 学力養成に関する方法論の 実証的研究 (課題番号：00615172)	広瀬 祐司	石田 惣 佐久間大輔 釋 知恵子

- 博物館での展示ワークシートを活用した教育に関する

調査研究を分担した。

## IV. 財団等の助成を受けて行った研究

### ■厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金

研究課題	研究代表者
道東産ヒメバチのDNAバーコーディング ～多様性・系統関係の理解にむけて～	松本吏樹郎

- 厚岸町の別寒辺牛湿原でマレーゼトラップおよびハンドネットによってヒメバチ科昆虫を採集し、そのうち約60種80個体についてDNAバーコード領域の塩基配列を決定した。

### ■公益財団法人日本科学財団平成25年度笹川科学研究助成実践研究部門

研究課題	研究代表者
博物館所蔵のボーリングコアをつかって 大阪平野地下の地層をさぐる —地学分野の学校向け貸し出し教材の 開発・運用と防災教育への展開— (研究番号：25-821)	石井 陽子

- 大阪市立自然史博物館所蔵ボーリングコアを用いて大阪平野地下の地質を明らかにするとともに、小中学校向け貸し出し教材として地学分野の授業での有効な活用方法を探った。

## V. 海外派遣

### ■科研費 (若手研究B) による出張

氏名：長谷川匡弘・横川 昌史  
日程：10月7日～11日 (5日間)  
出張先：韓国  
目的：ママコナ類の送粉昆虫及び花形態調査。

### ■科研費 (基盤研究A) による出張

氏名：石田 惣  
日程：2月4日～15日 (11日間)  
出張先：イギリス  
目的：チャレンジャー号航海標本調査。

## VI. 著作活動

### ■研究室別報文一覧

大阪市立自然史博物館友の会発行のNature Study誌は、ns.と略記した。当館職員以外の著者には氏名に\*を付した。

## 【館長】

- 山西良平 (2013. 5) 大阪湾Years2013-2013. 都市と自然 (446):3.
- 山西良平 (2013. 6) 大阪湾におけるキタフナムシの分布と生息場所. 南紀生物 55(1):3-5.
- 山西良平 (2013. 6) 平成24年度研究協議会テーマ2「博物館の災害対策—防災からポスト災害まで」について. 博物館研究 48(6):16-19.
- 山西良平 (2013. 8) 市民の手で広がる「大阪湾生き物一斉調査」. ns. 59(8):98-100.
- 山西良平 (2014. 1) 3. 2. 4 汽水域の生物. 小倉紀雄他(編)「水辺と人の環境学 下川から海へ」. 朝倉書店, pp. 59-61.

## 【動物研究室】

- 波戸岡清峰・辻村浩隆\* (2013. 4) 大阪湾のウミヘビ類. ns. 59(4):49.
- 日比野友亮\*・木村清志\*・波戸岡清峰 (2013. 4) 鹿児島喜界島から得られた日本初記録のウミヘビ科フトミミズアナゴ (新称) *Scolecenchelys laticaudata*. 魚類学雑誌 60(1):35-41.
- 波戸岡清峰 (分担執筆) (2013. 7) 大阪市立自然史博物館第44回特別展「いきもの いっぱい 大阪湾」解説書「大阪湾本」. 大阪市立自然史博物館, 112pp.
- 波戸岡清峰 (2013. 7) フィールド版写真でわかる磯の生き物図鑑: (今原幸光編著), 条鱈亜綱 (pp. 168-175). トンボ出版, 大阪.
- 波戸岡清峰 (2013. 8) 大阪湾メバル図鑑. ns. 59(8):114-117.
- 波戸岡清峰 (2013. 12) 長居公園の池の魚. ns. 59(12):162-163.
- 和田岳 (2013. 4) 関西の駅のツバメの巣. 近畿化学工業界 (720):1-4.
- 和田岳 (2013. 5) 身近な鳥から鳥類学 第14回 都市公園で繁殖する鳥の種数. むくどり通信 (225):10.
- 和田岳 (2013. 5) ツバメの巣をさがそう! 大阪市内の巣、関西の駅の巣. ns. 59:58-60.
- 和田岳 (2013. 7) 身近な鳥から鳥類学 第15回 大阪湾の夏のカモメ類. むくどり通信 (226):10.
- 和田岳 (2013. 7) 大阪に外来鳥ハッカチョウ分布拡大中. ns. 59:88.
- 和田岳 (分担執筆) (2013. 7) 大阪市立自然史博物館第44回特別展「いきもの いっぱい 大阪湾」解説書「大阪湾本」. 大阪市立自然史博物館, 112pp.
- 和田岳 (2013. 9) 身近な鳥から鳥類学 第16回 果実と秋の渡り鳥. むくどり通信 (227):10.
- 和田岳 (2013. 9) 大阪湾の漁港の鳥ガイド. ns. 59:119.
- 和田岳 (2013. 10) 阪南2区人工干潟周辺の鳥類.

Melange, 12(5):3-5.

- 和田岳 (分担執筆) (2013. 10) 図鑑と探鳥地ガイドでまるごとわかるバードウォッチング. JTBパブリッシング. 191pp.
- 和田岳 (2013. 11) 皮を剥いで、骨を愛でる なにわホネホネ団の活動. むくどり通信 (228):11.
- 和田岳 (2013. 11) 身近な鳥から鳥類学 第17回 カモのいる池、いない池. むくどり通信 (228):13.
- 和田岳 (2014. 1) 身近な鳥から鳥類学 第18回 数を数えて分布を調べる. むくどり通信 (229):9.
- 和田岳 (2014. 3) 身近な鳥から鳥類学 第19回 カラスと針金ハンガー. むくどり通信 (230):15.
- 石田惣 (2013. 7) 大阪湾の湾奥の原風景. ns. 59(7):1-4, 12.
- 石田惣 (分担執筆) (2013. 7) 大阪市立自然史博物館第44回特別展「いきもの いっぱい 大阪湾」解説書「大阪湾本」. 大阪市立自然史博物館, 112pp.
- 石田惣 (分担執筆) (2013. 7) フィールド版写真でわかる磯の生き物図鑑 (今原幸光編著). トンボ出版, 大阪, 279pp.
- 石田惣・栗原健夫\*・飯島明子\*・野田隆史\*・山本智子\*・村田明久\*・森敬介\* (2013. 10) 第二章 各生態系における生物多様性の状況 1. 磯生態系. In. モニタリングサイト1000沿岸域調査(磯・干潟・アマモ場・藻場)2008-2012年度とりまとめ報告書, 環境省自然環境局生物多様性センター, 山梨, pp. 9-18.
- 石田惣 (2013. 12) イソカニダマシにだまされていた話. ns. 59(12):5, 16.
- 石田惣 (2014. 2) プロジェクトU調査レポート コウガイビルとその分布. ns. 60(2):15-16.
- 石田惣・釋知恵子・佐久間大輔・広瀬祐司\* (2014. 1) 大阪市立自然史博物館の特別展における中高生向け展示見学ワークシートの事例紹介. 日本生物教育学会第96回全国大会研究発表予稿集:31.
- 大垣俊一\*・石田惣 (2014. 3) 海水温暖化傾向にともなう岩礁潮間帯の貝類群集の長期変化-1985~2010年の25年間の連続定点調査からの解析. 日本生態学会第61回全国大会講演要旨, <http://www.esj.ne.jp/meeting/abst/61-/H1-11.html>

## 【昆虫研究室】

- 金沢至 (2013. 7) ウスバキトンボの旅行の謎. ns. 59(7):6.
- 金沢至・清水裕行\*・西川喜朗\*・杉本央\*・小林睦生\*・富永修\*・乾公正\*・上村清\* (2013. 9) 日本のゴケグモ類の現状と問題. 日本昆虫学会第73回大会講演要旨:50.
- 金沢至 (2013. 10) 伊勢湾周辺における移動昆虫調査

- の報告 (2010年). Gracile (73):20-21.
- 金沢至 (2013.10) 伊勢湾周辺における移動昆虫調査の報告 (2011年). Gracile (73):30-32.
- 金沢至 (2013.11) アサギマダラなどの移動蝶の最新情報. 日本鱗翅学会第60回大会講演要旨.
- 中塚久美子\*・広渡俊哉\*・池内健\*・長田庸平\*・金沢至 (2013.12) 大阪府内のさまざまな緑地における腐食植性ガ類の種多様性. 蝶と蛾 64(4):154-167.
- 金沢至 (2013.12) セアゴケグモなどのゴケグモ類の現状と問題. 環境管理技術 31(6):35-42.
- 金沢至 (2013.12) 秋に南下移動するチョウの特徴. 巻頭エッセイ. 渡りチョウを調べる会ニュース 7(2):2-4.
- 金沢至 (2013.12) 11. 三重県鳥羽市神島. アサギマダラマーキングポイント100. 渡りチョウを調べる会ニュース 7(2):6-7.
- 金沢至・陳建志\*・久保田義則\* (2013.12) 屋久島から台湾・蘭嶼島への移動. 報告. 渡りチョウを調べる会ニュース 7(2):8.
- 金沢至・崎山孝也\*・土居敬典\*・潘瑞輝\* (2013.12) 和歌山県から高知県を経て香港へ移動したアサギマダラ. 報告. 渡りチョウを調べる会ニュース 7(2):9.
- 金沢至 (2013.12) アサギマダラなどの移動蝶の最新情報. 渡りチョウを調べる会ニュース 7(2):14.
- 金沢至・橋本定雄\*・福村拓己\*・伊藤雅男\*・アサギマダラを調べる会 (2014.1) アサギマダラの移動における日本海ルートの可能性. ns. 60(1):3-6.
- 金沢至 (2014.3) セアカゴケグモの分布拡大. ns. 60(3):6
- 金沢至 (2014.3) 各館の特徴あるコレクション・大阪市立自然史博物館. 平成25年度国際博物館の日記念シンポジウム「ミュージアムとコレクションー未来へ成長するたからものー」記録集:18-21.
- 清水裕行\*・金沢至・西川喜朗\* (2014.3) 日本のゴケグモ類5種の分布状況とセアカゴケグモの分散方法に関する考察. 大阪市立自然史博物館研究報告 (68):41-51.
- 初宿成彦 (監修) (2013.5) 日本環境動物昆虫学会編、絵解きで調べる昆虫. 文教出版, 大阪. 348pp.
- 初宿成彦 (2013.7). 先のことはわからない Loupe. シニア自然大学校.
- 初宿成彦 (2013.8) 海岸の昆虫. 大阪湾本. 大阪市立自然史博物館, 112pp.
- 初宿成彦 (2013.8) 偶数年で、やや増加 鞆公園セミのぬけがらしらべ2012の結果. ns. 59(8):4.
- 初宿成彦 (2013.8) 小難しい学芸員のやさしい小咄 アラスカの昆虫と氷期の自然環境. ns. 59(8):7-8.
- 初宿成彦 (2013.8). [P-06] 甲虫化石を用いたMCR法による古気候解析の日本における適用. 日本第四紀学会講演要旨集 (43):96-97.
- 初宿成彦 (2013.8). 第5節 瓜破北遺跡の昆虫遺体. (公) 大阪府文化財センター調査報告書 第238集 大阪市瓜破北遺跡:119-124.
- 初宿成彦 (2013.9). 横山岳のコエゾゼミ (参考記録). Came虫 (174):1.
- 初宿成彦 (編) (2014.3). 大阪市立自然史博物館 所蔵甲虫類目録 (3)ーシデムシ科、コガネムシ科食糞群、ヨーロッパ東部産オサムシ科、コメツキムシ科 (1)ー. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第46集. 200pp.
- 松本吏樹郎・高須賀圭三 (2013.9) *Acrodactyla de-gener*のユノハマサラグモへの寄生 (Ichneumonidae, *Polysphincta* group). 日本昆虫学会第73回大会講演要旨:71.
- 松本吏樹郎 (2013.2) 小難しい学芸員のやさしい小咄 ムモンオオハナノミの産卵. ns. 59(2):4, 16.
- 松本吏樹郎 (2013.8) タカチホヘビの幼蛇. ns. 59(8):16.
- 松本吏樹郎 (2013.5) ハチ目昆虫の検索と解説. In: 初宿成彦編 絵解きで調べる昆虫 日本環境動物昆虫学会. 33-78.
- 【植物研究室】**
- 佐久間大輔・今村彰生\* (2013.6) 京都府・大阪府レッドリスト改訂のための基礎資料ー大型菌類多様性の構造. 日本菌学会第57回大会要旨:P03.
- 今村彰生\*・乾美浪\*・佐久間大輔 (2013.6) 本郷次雄標本の断片化したDNA増幅の試み. 日本菌学会第57回大会要旨:29.
- 佐久間大輔ほか (2013.7) セッション 5-2) 全国レベルの救援体制「語ろう! 文化財レスキュー」公開討論会報告書:233-266.
- 佐久間大輔 (2013.8) 本山寺でマツカサチャワンタケを採取 ns. 59(8):12, 16.
- 佐久間大輔 (2013.9) 本郷次雄氏関連菌類資料活用による博物館アマチュアの連携. 全科協ニュース 43(5):5.
- 長谷川匡弘 (2013) 住吉大社御田に息づく植物たち 住吉っさん 21:5-6.
- 佐久間大輔 (2013.10) 「SNSで何を伝えるのかー博物館活動をネット社会に送り込むツールとしての活用ー」日本ミュージアム・マネジメント学会会報 67(18-2):13-15.
- 井上敏\*・井上重義\*・清家三智\*・佐久間大輔他 (2013.11) 座談会「今、博物館団体に求められる底力 (1)ー大阪会場から」博物館研究 48(12):6-17.



- 佐久間大輔 (2013. 11) 東日本大震災情報 ミニ企画展「平成の大津波被害と博物館巡回展 ナチュラリスト鳥羽源藏と後継者たちの遺したもの」博物館研究 48(12):5.
- 佐久間大輔 (分担執筆) (2013. 11) 菌類の事典. 菌類のレッドデータブックとインベントリー.
- 長谷川匡弘 (2013. 11) 住吉大社のウツギとコガタウツギヒメハナバチ ns. 59(11):2-4.
- 佐久間大輔・長谷川匡弘 (2013. 11) 27; 大阪府 追補 (特集各都道府県別の植物自然史研究の現状 追補) 植物地理・分類研究 60(2):28.
- 平澤優輝\*・港翼\*・長谷川匡弘・志賀隆\* (2013. 11) 標本種子の発芽・生存率と標本作製・管理方法の関係 日本陸水学会甲信越支部会報 (39):40-41.
- 藤井俊夫\*・長谷川匡弘 (2013. 12) 都市にハマツメクサが侵入?—アンケート調査結果—日本生態学会近畿地区会2013年度第2回例会.
- Daisuke SAKUMA (2013.12) Museum cafe can be a lecture room - Delicious dishes are starting point for Biodiversity Education. Asian Zoo Educators' Conference 2013 abstract.
- 釋知恵子・佐久間大輔・塚腰実 (2014. 1) 博学連携ワークショップの取り組み—教科間連携による自然史博物館の活用—日本生物教育学会2014第96回全国大会研究発表予稿集.
- 石田惣・釋知恵子・佐久間大輔・広瀬祐司\* (2014. 1) 大阪市立自然史博物館の特別展における中高生向け展示見学ワークシートの事例紹介. 日本生物教育学会2014第96回全国大会研究発表予稿集.
- 長谷川匡弘・井内由美\* (2013. 1) プロジェクトU調査レポート 街なかの水田の植物 ns. 60(1):7.
- 今村彰生\*・乾美浪\*・菊地淳一・佐久間大輔 (2014. 3) 本郷次雄菌類標本の断片化したDNA増幅の試み. 日本生態学会第61回大会要旨PA1-151.
- 佐久間大輔・今村彰生\*・橋屋誠\* (2014. 3) 本郷次雄菌類コレクションから読み取る滋賀県南部の里山環境. 日本生態学会第61回大会要旨PA1-145.
- 長谷川匡弘・横川昌史 (2014. 3) ハナバチ媒花からガ媒花へ: ママコナ属におけるポリネーターシフトによる花形質の多様化. 日本生態学会第61回大会要旨PA1-114.
- 佐久間大輔 (2014. 3) 博物館を支えるサポーター 友の会・ボランティア. 北海道の地域住民と博物館をつなぐミュージアムエージェント育成事業実施報告書:81-89. 北海道博物館友の会設立実行委員会.
- 佐久間大輔・長谷川匡弘・横川昌史・塚腰実 (2014. 3) 大阪市立自然史博物館 ミニガイド26. 長居植物園 植物観察ネタ帖. 32pp.
- 大崩貴之・木村全邦\*・道盛正樹\*・佐久間大輔 (2014. 3) ツブツブヘチマゴケの新産地. 蘚苔類研究 (Bryol. Res.) 11(1):11-12.
- Choi HJ\*, Kaneko S\*, Yokogawa M, Song GP\*, Kim DS\*, Kang SH\*, Suyama Y\*, Isagi Y\* (2013) Population and genetic status of a critically endangered species in Korea, *Euchresta japonica* (Leguminosae), and their implications for conservation. Journal of Plant Biology 56:251-257.
- 佐伯いく代\*・横川昌史・指村奈穂子\*・芦澤和也\*・大谷雅人\*・河野円樹\*・明石浩司\*・古本良\* (2013) 絶滅危惧生態系: 種を越えた保全のアプローチ. 保全生態学研究 18:187-201.
- 長池卓男\*・西川浩己\*・飯島勇人\*・北原正彦\*・杉田幹夫\*・中野隆志\*・伊藤和彦\*・亀井忠文\*・横川昌史・井鷲裕司\*・中村健一\*・会田秀樹\*・竹田謙一\* (2013) 南アルプスにおけるニホンジカによる高山植物への影響と保護対策および個体数管理に関する研究. 山梨県総合理工学研究機構研究報告書 8:7-11.
- 横川昌史・長池卓男\*・西川浩己\*・井鷲裕司\* (2013) 北岳に生育するミヤマハナシノブにおける野生集団の遺伝構造と組織培養サンプルの遺伝子型. 山梨県総合理工学研究機構研究報告書 8:29-35.
- 横川昌史 (2014. 1) 対州馬: 日本の在来馬と草原を支えた家畜の話. ns. 60(1):1-2.
- 横川昌史 (2013. 10) 海に流されどんぶらこ: 海流で運ばれるタネの話. ns. 59(10):4-7.
- 横川昌史 (2013. 5) 半自然草原ってな〜に?. ns. 59(5):6.
- 横川昌史 (2013) 阿蘇地域の牧野カルテ作成のための植生調査に参加しました (2013年度版). 全国草原再生ネットワーク ニュースレター 16:6.
- 横川昌史 (2013) 阿蘇で草原再生のモニタリングを行っています. 全国草原再生ネットワーク ニュースレター 15:8-9.
- 横川昌史・長谷川匡弘 (2014. 3) 大阪府千里ニュータウンに残された小っちゃい半自然草原の植生とその維持メカニズム. 第61回日本生態学会広島大会・講演要旨.
- 指村奈穂子\*・澤田佳宏\*・大谷雅人\*・横川昌史・古本良\* (2014. 3) 海岸生の希少植物バシクルモンの新潟県における個体群構造と生育特性. 第61回日本生態学会広島大会・講演要旨.
- 横川昌史・長谷川匡弘 (2014. 2) 吹田市のニュータウンに残された小っちゃい草原の植物相と植生. 関西自然保護機構2014年度大会・講演要旨.

指村奈穂子\*・大谷雅人\*・古本良\*・横川昌史・澤田佳宏\* (2013.10) 海岸の希少種バシクルモンの新潟県における生育地の植生. 第18回植生学会仙台大会・講演要旨.

藤井紀行\*・山崎高志\*・小関圭一\*・竹原真理\*・横川昌史・兼子伸吾\*・井鷲裕司\* (2013.9) 岡山県鯉ヶ窪湿原のオグラセンノウの遺伝的多様性と遺伝構造. 第77回日本植物学会札幌大会・講演要旨.

【地史研究室】

川端清司 (2013.4) タルボサウルスの全身骨格 (実物). ns. 59(4):1.

川端清司 (2013.4) ノジュール. ns. 59(4):5.

川端清司 (2013.9) 市民公開ワークショップ「ジオラボ」で、断層・褶曲モデル実験を体験. 日本地質学会第120年学術大会 (仙台) 講演要旨:306.

塚腰実 (2013.10) 小難しい学芸員のやさしい小咄. ソラマメのヘソと珠孔. Nature Study, 59(10),8-9.

塚腰実 (2013.10) コレクション・コレクター物語 粉川昭平コレクション 植物化石研究の実物教科書. 大阪てくてくミュージアムGUIDE 2013, 20-21.

釋知恵子・佐久間大輔・塚腰実 (2014.1) 博学連携ワークショップの取り組み -教科間連携による自然史博物館の活用-日本生物教育学会 2014第96回全国大会研究発表予稿集.

Yamada T\*, Yamada M\*, Tsukagoshi M. (2014.2) Fossil records of subsection *Pinus* (genus *Pinus*, Pinaceae) from the Cenozoic in Japan. J. Plant Res. (127):193-208.

塚腰実 (共同編集・分担執筆) (2014.3) 特別展「恐竜戦国時代の覇者! トリケラトプス~知られざる大陸ララミディアでの攻防~」展示解説書. 読売新聞社. 中生代の植物と植物食恐竜. 白亜紀後期の北アメリカ大陸の植生. トリケラトプスとともに生きた植物.

塚腰実 (分担執筆) (2014.3) ミニガイドNo.26「長居植物園 植物観察ネタ帖」大阪市立自然史博物館発行.

Hayashi, S., Houssaye, A.\*, Nakajima, Y.\*, Chiba, K.\*, Ando, T.\*, Sawamura, H.\*, Kaneko, N.\*, Inuzuka, N.\* and Osaki, T.\* (2013.4) Bone inner structure suggests increasing aquatic adaptations in Desmostylia (Mammalia, Afrotheria). PLOS ONE 8(4), e59146. doi:10.1371/journal.pone.0059146.

林昭次 (2013.5) よろい竜恐竜の装甲は軽くて丈夫だった. ns. 59(5):12.

林昭次 (2013.6) いま、古生物学がおもしろい~剣竜類の板と棘の機能と進化を例として~. 地学団体研

究会 大阪支部 2013年度総会 記念講演. 講演要旨.

Stein, M.\*, Hayashi, S. and Sander, P. M.\* (2013.7) Long bone histology and growth patterns in ankylosaurs: implications for life history and evolution. PLOS ONE 8(4), e59146. doi:10.1371/journal.pone.0059146. 林がCorresponding author Hayashi, S., M. Stein\* and P. M. Sander\* (2013.7) Long bone histology and growth patterns in ankylosaurs: implications for life history and evolution. 10th International Congress of Vertebrate Morphology. Barcelona, Spain, 講演要旨.

Redelstorff, R.\*, S. Hayashi and A. Chinsamy\* (2013.7) Evidence of metastatic cancer in a stegosaur tibia. 10th International Congress of Vertebrate Morphology. Barcelona, Spain, 講演要旨.

Burns, M.\*, S. Hayashi, P. Currie\* and M. Watabe\* (2013.7) Different developmental processes of ankylosaur armor. The 2nd International Symposium on Paleohistology. Montana, USA, 講演要旨.

Hayashi, S., M. Stein\*, M. Burns\*, M. Watabe\* and P. M. Sander\* (2013.7) Bone histology of ankylosaur long bones; implications for life history and evolution. The 2nd International Symposium on Paleohistology. Montana, USA, 講演要旨.

林昭次 (2013.8) 現生哺乳類の骨組織と水生適応: 絶滅動物の生態復元への応用. 第3回Tokyo Vertebrate Morphology Meeting. 講演要旨.

広瀬祐司\*・引馬淳\*・釋知恵子・林昭次 (2013.8) モンゴル恐竜化石展を活用した博物館実習. 日本理科教育学会. 講演要旨.

林昭次 (監修) (2013.10) 恐竜のヨロイの作り方. Graphic Science Magazine ニュートン, 10月号; pp13.

林昭次 (分担執筆) (2013.10) 大恐竜展 ゴビ砂漠の驚異図録, 国立科学博物館, 読売新聞社. 140p.

Burns, M.\*, S. Hayashi, P. Currie\* and M. Watabe\* (2013.11) Growth, development, and the problem of ankylosaurs. 73rd Annual Meeting Society of Vertebrate Paleontology. LA, USA, 講演要旨.

林昭次 (監修) (2013.11) 絶滅哺乳類 デスモスチルスは泳ぎが上手だった? -新研究法で解き明かされる、古生物の生態-. ジオルジュ (日本地質学会 編集), 日本地質学会. 4号; 4-6

林昭次 (2013.11) 骨組織学から読み解く絶滅動物の

生理と生態. 化石研究会例会. 講演要旨.

林昭次・渡部真人\*・Michael Burns\*・Martina Stein\*・P. Martin Sander\* (2014.1) 骨組織学的アプローチから復元する鎧竜類恐竜の成長様式. 日本古生物学会第163回例会. 講演要旨.

広瀬祐司\*・引馬淳\*・釋知恵子・林昭次・松本吏樹郎 (2014.1) 博物館と連携したPISA型学力養成に関する方法論の実証的研究. 日本生物教育学会. 講演要旨.

林昭次 (2014.3) 表紙イラスト解説. ns.60(3):11.

Hayashi, S., M. Burns\*, Q. Zhao\*, M. Watabe\*, K. Carpenter\*, K. Tsogtbaatar\*, R. Barsbold\*, G. Peng\*, Y. Ye\*, S. Jiang\*, and X. Xu\* (2014.3) Bone histology of thyreophoran osteoderms; histological difference between stegosaur and ankylosaur osteoderms. International Symposium on Asian Dinosaurs in Fukui, 講演要旨.

林昭次 (分担執筆) (2014.3) 発掘! モンゴル大恐竜展図録, 林原自然科学博物館, 読売新聞社. 180p.

林昭次 (共著・監修・編集) (2014.3) 特別展 恐竜 戦国時代の覇者! トリケラトプス図録, 大阪市立自然史博物館 読売新聞社. 192p.

**【第四紀研究室】**

中条武司 (2013.6) 日本海の“はじまり”を探せ! —九州北部の中新世の地層—. ns.59(6):70-73, 84.

中条武司 (2013.7) コラム ビワクンショウモ遺骸から探る淀川の土砂の拡散. 第44回特別展「いきものいっぱい 大阪湾 ～フナムシからクジラまで～」解説書「大阪湾本」. 大阪市立自然史博物館:10-11.

中条武司 (2013.10) プロジェクトU都市の自然調査レポート この坂、何の坂? ns.59(10):134.

中条武司 (2013.11) 地形図から作る自分の防災マップ. ns.59(11):145.

中条武司 (2013.12) 友の会合宿「兵庫県赤穂、千種川河口干潟」報告. ns.59(12):160, 168.

中条武司 (2014.3) 伊勢湾南西部櫛田川河口におけるウォッシュオーバー・ファンとその形態. 日本堆積学会2014年山口大会プログラム・講演要旨:66.

石井陽子 (2013.4) 平野の地下の地層の調べ方～プロジェクトU ボーリング標本調査へのお誘い～. ns.59(4):42-44.

石井陽子 (2013.9) 市民との共同研究による博物館所蔵ボーリング標本の活用: 大阪平野の地下地質を対象として. 日本地質学会第120年学術大会講演(仙台) 要旨:157.

石井陽子 (2014.2) 岸和田市で観察できる大阪層群の火山灰層 野外観察編. fromM, 54, 1-2. (岸和田

市郷土文化室)

石井陽子 (2014.2) 小難しい学芸員のやさしい小咄 氷河性海面変動. ns.(60):18-19.

#### 【総務課】

広瀬祐司\*・上田信雄\*・佐久間大輔・石田惣・釋知恵子 (2013.4) 博物館と連携したPISA型学力の実証的研究, 生物教育 53(4):236.

広瀬祐司\*・引馬淳\*・釋知恵子・林昭次 (2013.8) モンゴル恐竜化石展を活用した博物館実習. 日本理科教育学会第63回全国大会要旨集:389.

釋知恵子・佐久間大輔・塚腰実 (2014.1) 博学連携ワークショップの取り組み—教科間連携による自然史博物館の活用—. 日本生物教育学会第96回全国大会研究発表予稿集:34.

石田惣・釋知恵子・佐久間大輔・広瀬祐司\* (2014.1) 大阪市立自然史博物館の特別展における中高生向け展示見学ワークシートの事例紹介. 日本生物教育学会第96回全国大会研究発表予稿集:31.

広瀬祐司\*・引馬淳\*・釋知恵子・林昭次・松本吏樹郎 (2014.1) 博物館と連携したPISA型学力養成に関する研究: 続報. 日本生物教育学会第96回全国大会研究発表予稿集:35.

釋知恵子 (2014.3) 教員のための博物館の日 in 大阪市立自然史博物館. 「教員のための博物館の日」開催ガイド:59-62, 国立科学博物館.

## VII. 講演・館外活動・社会貢献など

報文一覧に含まれない講演などの館外活動をここに採録した。

波戸岡

日本魚類学会評議員

大阪市立大学非常勤講師「博物館資料保存論」

石田

日本貝類学会評議員

日本貝類学会研究連絡誌「ちりぼたん」編集幹事

日本ベントス学会自然史学会連合派遣委員

軟体動物多様性学会「Molluscan Diversity」編集委員

環境省モニタリングサイト1000沿岸域部会委員(磯分科会代表)

大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

金沢

金沢 至 (2013.5) 2012年のアサギマダラの調査成果

## 調査研究事業

報告. 日本鱗翅学会アサギマダラプロジェクト公開シンポジウム (大阪市)

金沢 至 (2013.10) セアカゴケグモ騒動とマスコミ報道の真実. 第8回日本衛生動物学会西日本支部例会「衛生動物とマスコミ報道」(越前市)

金沢 至 (2013.11) 長距離を移動するチョウ類の生態—アサギマダラ・オオカバマダラなど—. 博学連携講座『昆虫「超」能力—博物学・理学から眺めた虫たちの不思議』(大阪市)

金沢 至・橋本定雄・福村拓己・伊藤雅男・陳 建志・黄 龍椿・潘 瑞輝 (2013.11) アサギマダラ等の移動昆虫における日本海ルートの可能性. 日本昆虫学会近畿支部2013年度大会・日本鱗翅学会近畿支部148回例会 (大阪市)

日本昆虫学会評議員  
日本昆虫学会電子化推進委員長  
日本環境動物昆虫学会評議員  
日本鱗翅学会近畿支部幹事  
渡りチョウを調べる会HP担当  
大阪市立大学非常勤講師「博物館資料保存論」

初宿  
日本甲虫学会評議員  
日本環境動物昆虫学会 生物保護とアセスメント手法研究部会運営委員

松本  
日本昆虫学会評議員  
日本昆虫学会近畿支部幹事  
大阪市立大学非常勤講師「生物学実験B」  
奈良県レッドリスト改定検討委員会委員  
滋賀県生き物総合調査委員

佐久間  
佐久間大輔 (2013.11) 自然史系博物館の使い方. モニタリングサイト1000調査技術向上研修会 (大阪市)

佐久間大輔 (2013.12) 「京文化を支える生物多様性の保全と活用に向けて」コーディネーター. 生物多様性協働フォーラム (京都市)

佐久間大輔 (2013.12) ミュージアムにおけるファンディング戦略. 文化庁 ミュージアムマネジメント研修 (東京)

佐久間大輔 (2014.1) 博物館を活用した生物多様性の普及・活動・施策. にじゅうまるプロジェクトCOP1 (大阪市)

日本菌学会評議員  
大阪市立大学非常勤講師「博物館経営論」

全国科学系博物館協議会WG委員・編集委員  
岸和田市環境審議会委員  
吹田市文化財審議会委員  
大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

長谷川  
大阪府レッドリスト選定ワーキンググループ委員

横川  
横川昌史 (2014.2) 半自然草原ってな～に? : 日本の草原の植物とその保全について. 大阪自然環境保全協会研修会 (大阪市)

横川昌史 (2013.10) 半自然草原ってどんな場所? : その成り立ちと保全を考える. 2013年度新琵琶湖学セミナー「湖国、世界から学ぶ生物多様性」(草津市)

大阪府レッドリスト選定ワーキンググループ委員

川端  
日本地質学会理事・各賞選考委員会委員  
日本地質学会第120年学術大会夜間小集会「東日本大震災と博物館; 標本レスキューから復興に向けて」東北大学(仙台)を主催  
地学団体研究会大阪支部運営委員  
大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」

塚腰  
塚腰 実 (2013.7) 御堂筋は恐竜時代の並木道—イチョウは中生代の生きている化石—. グランフロント大阪「THE世界一展」恐竜ウィーク (大阪市)

塚腰 実 (2013.7) 植物化石の世界. 愛媛大学ミュージアム (松山市)

塚腰 実 (2013.11) 化石から見出されたメタセコイア—三木茂博士が観察した特徴—. 佛教大学市民向け講座「自然に目を開く講座」(京都市)

地学団体研究会大阪支部運営委員  
化石研究会運営委員  
大阪市立大学非常勤講師「大阪の自然」  
愛媛大学非常勤講師集中講義「古植物学」

林  
大阪大学大学院工学研究科招聘研究員

中条  
日本地質学会行事委員 (堆積地質部会)  
地学団体研究会大阪支部委員  
大阪府レッドリスト改定検討委員会委員

大阪市立大学非常勤講師「博物館展示論」

## VIII. 外部研究者の受け入れ

外部研究者の受け入れに関する要項により、平成25年度に受け入れた外部研究者は次表のようである。期間中に外部研究者が公表した業績は次の通り。

野尻湖貝類グループ (2014) 野尻湖層産の淡水貝類化石 (その9) - 第16次~第19次野尻湖発掘の成果とIII区F列のまとめ - 野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告 (22):89-97. (石井久夫責任執筆)

小郷一三・藤田敏彦 (2014) 相模湾産ウミシダ類. 東海大学出版会. 2014. 3. 176p.

Kawakami, Y., Yamazaki, K., and K. Ohashi (2013) Geographical variations of elytral color polymorphism in *Cheilomenes sexmaculata* (Fabricius) (Coleoptera: Coccinellidae). *Entomological Science*, 16:235-242.

Kawakami, Y., Yamazaki, K., and K. Ohashi (2014) Northward expansion and climatic factors affecting the distribution limits of *Cheilomenes sexmaculata* (Coleoptera: Coccinellidae) in Japan. *Applied Entomology and Zoology* 49:59-66.

河上康子・山崎一夫・大橋和典 (2013) ダンダラテントウの鞘翅斑紋多型における地理的変異. *昆虫と自然*. 48(11):25-27.

佐藤隆春 (2014) カルデラのモデル実験となったマッコウクジラ. *ns*. 60(2):16-17.

小室裕明・亀井淳志・大平寛人・三好未稀子・田結庄良昭・引原団体研究グループ (田結庄良昭・木村一成・三木武行・南場敏郎・佐藤隆春・清水大吉郎・田崎正和・都築宏・湯川正敏) (2014) 兵庫県宍粟市引原に分布する火山岩類および深成岩岩類の放射年代. *地球科学* 68(2):81-88.

清水裕行 (2013) ゴケグモ類とはどのようなクモか. *環境管理技術* 31(6):23-34.

清水裕行・金沢至・西川喜朗 (2014) 日本のゴケグモ類5種の分布状況とセアカゴケグモの分散方法に関する考察. *大阪市立自然史博物館研究報告* (68):41-51.

鈴木寿之 (2013) ハゼ科. 鹿児島県三島村硫黄島と竹島の魚類:317-339. 鹿児島大学総合研究博物館.

Suzuki, T. and H. Senou (2013) Review of the sand-diving goby genus *Parkraemeria* (Perciformes: Gobiidae), with descriptions of two new species from the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin*

of the National Museum of Nature and Science (Ser. A), Suppl. 7:53-66.

Greenfield, D. W. and T. Suzuki (2013) *Eviota nigramembrana*, a new dwarfgoby from the Western Pacific (Teleostei: Gobiidae). *Zootaxa* 3637 (2): 169-175.

Shibukawa, K., T. Suzuki and M. Aizawa (2013) *Gobiodon aoyagii*, a New Coral Goby (Actinopterygii, Gobiidae, Gobiinae) from the West Pacific, with Redescription of a Similarly-colored Congener *Gobiodon erythrosphilus* Bleeker, 1875. *Bulletin of the National Museum of Nature and Science, Series A (Zoology)*, 39(3):143-165.

Herler J., S. V. Bogorodsky and T. Suzuki (2013) Four new species of coral gobies (Teleostei Gobiidae *Gobiodon*), with comments on their relationships within the genus. *Zootaxa*, 3709 (4):301-329

Suzuki, T. and I.S.Chen (2013) Two new marine gobies of *Vanderhorstia* from Japan. *Journal of Marine Science and Technology*, 21, Suppl:207-212.

Suzuki, T. and J.E. Randall (2014) Four new gobiid fishes of the genus *Bryaninops* from the East Indies. *aqua, International Journal of Ichthyology*, 20(1):11-26.

Greenfield, D.W., R.Winterbottom and T.Suzuki (2014) *Eviota occasa*, a new species of dwarfgoby from Palau and the Ryukyu Islands, Japan (Teleostei: Gobiidae). *Journal of the Ocean Science Foundation* No.10:11-19.

Greenfield, D. W., T. Suzuki and K. Shibukawa (2014) Two new dwarfgobies of the genus *Eviota* from the Ryukyu Islands, Japan (Teleostei: Gobiidae), *Zootaxa*, 3774(5):481-488.

鈴木寿之 (2014) 奄美群島最南端の島と論島の魚類: クモハゼ属, 495-497; イソハゼ属, 507-517; コバンハゼ属, 522-527; ダルマハゼ属, 530-531; ベニハゼ属・シマイソハゼ属, 536-541. 鹿児島大学総合研究博物館.

石井実・谷川哲朗・天満和久・天満奈央・平井規央 (2013) ギフチョウは気候温暖化により衰退するか?. *日本鱗翅学会第60回大会講演要旨集*:30.

天満和久・石井実・石田惣・上原一彦・梅原徹・木村全邦・佐久間大輔・中条武司・平井規央・平田慎一郎・道盛正樹・和田岳 (2014) 大阪府レッドリスト2013について. 関西自然保護機構 (KONC) 2014年大

## 調査研究事業

会ポスター発表講演要旨:5.  
 平井規央・天満和久・市川顕彦・河合正人・坂井誠・  
 初宿成彦・長島聖大・平田慎一郎・平松和也・松本  
 吏樹郎・宮武頼夫・森康貴・山本哲央(2014)昆虫  
 類における大阪府レッドリスト見直し. 関西自然保  
 護機構2014年大会ポスター発表講演要旨:6.  
 花崎勝司・三宅壽一(2013)大阪府泉州地域における  
 河川魚類 追補. 南紀生物 55(1):59-62.  
 花崎勝司・三宅壽一(2013)大阪府阪南市の潮間帯で  
 採集されたヒガシナメクジウオ. 南紀生物 55(1):  
 31-32.  
 花崎勝司(2013)大阪湾の魚類 増補改訂版. 61pp.  
 きしわだ自然資料館.  
 長澤和也・花崎勝司・森本静子(2013)京都府と大阪  
 府で採集されたチョウ属エラオ類. 生物圏科学52,  
 59-64.  
 浜田信夫(2013)食器洗浄機のカビ汚染の特徴と対策.  
 環境管理技術(31):47-58.  
 浜田信夫(2013.6)人類とカビの歴史. 朝日選書  
 浜田信夫・阿部仁一郎(2013)食器洗い乾燥機のカビ  
 汚染の現状. 日本防菌防黴学会誌 41:527-534.  
 浜田信夫・阿部仁一郎(2013)食器洗い乾燥機のカビ  
 汚染に影響する要因. 日本防菌防黴学会誌 41:585-  
 593.  
 林寿一(2013)マノボユメドリキララシジミとチョウ  
 タロウネグロフタオシジミのマサラ山(南東ミンダ  
 ナオ島)からの記録. やどりが(237):30.  
 畦浩二・道盛正樹・今川邦彦・狩野登之助・佐伯雄史・  
 小林亮平・木村全邦(2013)大阪府蘚苔類資料3  
 万博記念公園(吹田市)の蘚苔類. 大阪市立自然史  
 博物館研究報告(68):53-66.  
 水澤玲子・藤井伸二・長谷川雅美・井鷲裕司(2014)  
 葉緑体DNAを用いたシマクサギの系統解析. 第61回  
 日本生体学会広島大会・講演要旨.  
 吉田浩史(2014)兵庫県産ハバチ・キバチ類の追加記  
 録. きべりはむし 36(2):15-25.

大谷 道夫	外来研究員	本人	山西 良平
大塚 公雄	外来研究員	本人	金沢 至
奥田 尚	外来研究員	本人	川端 清司
数見 保則	外来研究員	本人	佐久間大輔
河上 康子	外来研究員	本人	松本吏樹郎
小郷 一三	外来研究員	本人	山西 良平
佐藤 隆春	外来研究員	本人	中条 武司
篠川 貴司	外来研究員	本人	川端 清司
清水 裕行	外来研究員	本人	石田 惣
下野 義人	外来研究員	本人	金沢 至
鈴木 寿之	外来研究員	本人	佐久間大輔
瀬戸 剛	外来研究員	本人	波戸岡清峰
谷田 一三	外来研究員	本人	長谷川匡弘
田村芙美子	外来研究員	本人	金沢 至
樽野 博幸	外来研究員	本人	金沢 至
天満 和久	外来研究員	本人	塚腰 実
長江真紀子	外来研究員	本人	川端 清司
名部みち代	外来研究員	本人	金沢 至
鳴橋 直弘	外来研究員	本人	石田 惣
西澤真樹子	外来研究員	本人	佐久間大輔
花崎 勝司	外来研究員	本人	長谷川匡弘
濱田 信夫	外来研究員	本人	和田 岳
林 勇夫	外来研究員	本人	波戸岡清峰
林 寿一	外来研究員	本人	佐久間大輔
秀瀬みのり	外来研究員	本人	山西 良平
細川 正富	外来研究員	本人	金沢 至
前田 哲弥	外来研究員	本人	金沢 至
松江実千代	外来研究員	本人	波戸岡清峰
丸井 英幹	外来研究員	本人	佐久間大輔
水澤 玲子	外来研究員	本人	佐久間大輔
道盛 正樹	外来研究員	本人	佐久間大輔
森本 繁雄	外来研究員	本人	佐久間大輔
山住 一郎	外来研究員	本人	佐久間大輔
吉田 浩史	外来研究員	本人	松本吏樹郎
米澤 里美	外来研究員	本人	和田 岳
渡部 哲也	外来研究員	本人	石田 惣

表 1. 平成25年度に受け入れた外部研究者

氏名	利用形態	依頼元	担当学芸員
安藤 洋子	外来研究員	本人	佐久間大輔
石井 久夫	外来研究員	本人	中条 武司
石田 路子	外来研究員	本人	石田 惣
市毛 勝義	外来研究員	本人	石田 惣
今村 彰生	外来研究員	本人	松本吏樹郎
大石 久志	外来研究員	本人	佐久間大輔
			松本吏樹郎

# 資料収集保管事業

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じ海外からも収集してきた。収集した標本は冷凍燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、研究・展示活動に活用している。また、資料情報のデジタル化を進め、可能なものについては広く標本情報を公開している。

## I. 寄贈および交換標本

### ■動物研究室

和歌山県のタヌキ他	1点	浦野 信孝氏	奈良県のアライグマ	1点	牛田 博氏
滋賀県のアナグマ	1点	阿部 勇治氏	滋賀県のハクビシン	1点	松浦 宜弘氏
兵庫県のノネコ	1点	谷 陽子氏	三重県のタヌキ	1点	運天 政元氏
兵庫県のハクビシン	1点	運天 政元氏	能勢町のヌートリア・ヒミズ	3点	山崎 聡子氏
能勢町のテン・イタチ	3点	上條 健一氏	兵庫県のテン	2点	藤井 明氏
奈良県のイタチ	1点	西澤真樹子氏	能勢町のイタチ他	2点	上條 健一氏
奈良県のイタチ	1点	谷 幸三氏	能勢町のイタチ他	2点	上條 健一氏
平野区のイタチ	1点	近藤 充弘氏	箕面市のイタチ	1点	細田 守氏
阿倍野区のイタチ	1点	小林 智氏	堺市のイタチ	1点	北口 吉輝氏
中央区のイタチ	1点	奥村 隆司氏	三重県のイタチ	1点	運天 政元氏
徳島県のイタチ	1点	平山 聖人氏	茨木市のイタチ	1点	田川 良平氏
奈良県のイタチ	1点	丸山健一郎氏	東住吉区のイタチ	1点	
フェレット	1点	奈良崎 泉氏			
枚方市のヤマドリ	1点	石川新三郎氏	奈良県のイタチ他	2点	松下 武三・松下 宏幸氏
沖縄県のオオクイナ	1点	小林 雅裕氏	モルモット	1点	河原 風花氏
能勢町のカワラヒワ	1点	上條 健一氏	天王寺動物園のダチョウ他	7点	長縄 朋子氏
阪南市のシロハラ	1点	三宅 壽一氏	天王寺動物園のラクダ	2点	天王寺動物園
和歌山県のドバト	1点	矢田部典子氏	住吉区のキジバト	1点	天王寺動物園
河内長野市のアオバズク	1点	岩崎 佳子氏			鳥山 優・知子・奈々瑚氏
長居のハシブトガラス	1点	青山 充夫氏	奈良県のハクビシン	1点	河原 和子氏
此花区のハクセキレイ他	2点	磯貝 知香氏	能勢町のハクビシン	1点	難波希美子氏
山口県のウグイス	1点	沖田 絵麻氏	住吉区のノネコ	1点	鎌田 智也氏
兵庫県のヒヨドリ	1点	谷 陽子氏	奈良県のイノシシ	1点	佐藤 隆春氏
高知県のウミシダ	3点	小渕 正美氏	吹田市のアオバト	1点	平 軍二氏
兵庫県のキクガシラコウモリ	1点	浦野 信孝氏	三重県のトビ・スズガモ他	3点	宮越 和美氏
堺市のツグミ	1点	鳥山 寛氏	天王寺動物園のメガネグマ他	7点	天王寺動物園
五月山動物園のヒツジ	1点	五月山動物園	滋賀県のイノシシ	1点	阿部 勇治氏
北海道のカラス	3点	中村真樹子氏	吹田市のネコ	1点	香川万里子氏
滋賀県のハシブトガラス	1点	乾 公正氏	宮城県のニホンアカガエル	2点	西澤真樹子氏
港区のオオコノハズク	1点	近藤 義之氏	岩手県の陸貝	1点	
岸和田市のキジバト	1点	小牧 由雅氏			西澤真樹子・高田みちよ氏
岸和田市のムクドリ	1点	小牧 由香氏	五月山動物園のヤギ他	3点	五月山動物園
大東市のムクドリ	1点	西畑 敬一氏	宮城県のアナグマ他	6点	山田虹太郎氏
滋賀県のヨタカ	1点	大内和太郎氏	兵庫県のイノシシ・ヤモリ	2点	樽野 博幸氏
京都府のシロハラ	1点	西村 正裕氏	大阪市・広島県のフジテガニ	2点	和田 太一氏
能勢町のアライグマ	1点	上條 健一氏	三重県のハシボソミズナギドリ	288点	宮越 和美氏
			山口県のホトトギス・トビ	2点	沖田 絵麻氏
			住之江区のハシブトガラス	1点	東野 敏行氏
			東住吉区のイタチ	1点	米澤 里美氏
			長居のキジバト	1点	樽野 博幸氏
			宮城県のハクビシン	1点	山田虹太郎氏
			三重県のタヌキ他	2点	新保 満子氏
			カイウサギ	1点	中西 珠己氏
			京都府のアライグマ	1点	榎本 聡子氏
			滋賀県のイノシシ	2点	阿部 勇治氏
			三重県のスナメリ	2点	宮越 和美氏
			長崎県五島市の無脊椎動物	28点	

## 資料収集保管事業

大阪市立自然史博物館友の会「福江島」合宿参加者			赤穂市の海産無脊椎動物	58点			大阪市立自然史博物館友の会「赤穂」合宿参加者		
福井県の海産無脊椎動物	50点		兵庫県のセグロカモメ	1点	酒田千佳子氏		和歌山県のチョウゲンボウ	1点	高松 俊王氏
長崎県のフサゴカイ類	5点	杉原 志貴氏	兵庫県のアオバト	1点	岡本 素治氏		沖縄県のヒトスジコブヒトデ	1点	木暮 陽一氏
北海道のオシドリ	1点	中村眞樹子氏	隠岐他のウミシダ	60点	幸塚 久典氏		北区のキジバト	1点	小野 昌弘氏
奈良県のトビ・テン	2点	富永 修氏	北海道のハシボソガラス・エゾムシクイ	3点	中村眞樹子氏		豊中市のアカハラ	1点	浅香友記子氏
堺市のタシギ	1点	田中多美子氏			積水ハウス		北区のカヤクグリ	1点	小牧 由雅氏
天王寺区のヒヨドリ	1点	石田 幸子氏			石本 氏		岸和田市のシロハラ	1点	中村 恵昭氏
門真市のツグミ	1点	天野ひろ子氏			森田 邦利氏		広島県のシロハラ	1点	沖 好子氏
東住吉区のハシブトガラス	1点	鎌田 智也氏			西澤真樹子氏		浪速区のハシブトガラス	1点	山田虹太郎氏
滋賀県のトビ	1点	藤本 貴司氏			美沢 佑紀氏		豊中市のハシボソガラス	1点	佐藤以喜子氏
堺市のスズメ	1点	新堂 昂司氏			上條 健一氏		奈良県のヤマドリ	1点	酒田千佳子氏
高石市のコアジサシ	1点	松下 宏幸氏			西尾ゆう子氏		奈良県のタヌキ他	2点	阿部 勇治氏
東京湾のベントス	500点	風呂田利夫氏			橋本 順子氏		宮城県のタヌキ	2点	大石 昂氏
小網代湾他のウニ類	98点	幸塚 久典氏			丸山健一郎氏		愛知県のハクビシン	1点	寺田 雅章氏
洲本市のシェンピンノ	1点	渡部 哲也氏			石井 克彦氏		熊本県のアナグマ	1点	兼田 幸生氏
京都府のイノシシ	1点	森田 邦利氏			中村眞樹子氏		能勢町のヌートリア	1点	中村眞樹子氏
中央区のメボソムシクイ	1点	井上 竜馬氏			河原 和子氏		和歌山県のタヌキ	1点	河原 和子氏
岡山県のヤマドリ	1点	譽田 和也氏			植木 大介氏		兵庫県のタヌキ	1点	植木 大介氏
泉大津市のハヤブサ他	2点	浦野 信孝氏			榊元 慶子氏		滋賀県のタヌキ	1点	榊元 慶子氏
青森県のイルカ	1点				森山 義博氏		山口県のタヌキ他	4点	五月山動物園
		西澤真樹子・米澤 里美氏			五月山動物園		兵庫県のネコ他	3点	三宅 壽一氏
貝塚市の野ウサギ	1点	久保 元嗣氏			有山 啓之氏		広島県のタヌキ他	3点	積水ハウス
兵庫県のアナグマ	1点	北垣 和也氏			古谷亜矢子氏		滋賀県のキセキレイ・ハツカネズミ	3点	阿部 勇治氏
福井県のタヌキ	1点	三原 学氏			弘原海 凧氏		千葉県のカワガモ他	7点	松田 宏幸氏
三重県のアカウミガメ	1点	宮越 和美氏			山根みどり氏		福井県のハジロカイツブリ	1点	藤田 芙美氏
西表島の鳥類	151点				大浜公園のアカゲザル他		北海道のマガモ	1点	丹生 忠嗣氏
		西表野生生物保護センター			大阪生物教材センター		奈良県のハシブトガラス	1点	高津 一男氏
此花区のメジロ	1点	石田 幸子氏			島根県のウミシダ類	53点	天王寺区のシロハラ	1点	古屋 直子氏
北海道のハシボソガラス	1点	中村眞樹子氏			日本海のシュイロボシガタヒトデ	1点	千早赤阪村のオオルリ他	5点	三浦 隆紀氏
羽曳野市のハシブトガラス	1点	井関 浩光氏			天王寺動物園のクロサイ	1点	五月山動物園のワラビー他	3点	布村 昇氏
豊中市のハシブトガラス	1点	浅香友記子氏					岸和田市他のスネナガイソガニ	45点	
天王寺動物園のエランド	1点	天王寺動物園					沖縄県のシロハラクイナ	1点	
瀬戸内海の <i>Glycera nicobarica</i>	5点	佐藤 正典氏					東京都のコサギ	1点	
兵庫県のクジラ頭骨	1点	花野 晃一氏					兵庫県の鳥	15点	
ベネットアカクビワラビー・アヒル	2点						大浜公園のアカゲザル他	2点	
		五月山動物園							
阪南市のアナグマ	2点	三宅 壽一氏							
北区のモズ他	3点	積水ハウス							
滋賀県のタヌキ	1点	阿部 勇治氏							
旭区のドバト	1点	松下 宏幸氏							
高槻市のタヌキ	1点	藤田 芙美氏							
大分県のタヌキ	1点	丹生 忠嗣氏							
兵庫県のヌートリア	1点	高津 一男氏							
静岡県のテン	1点	古屋 直子氏							
鶴見区のネズミ	1点	三浦 隆紀氏							
等脚類パラタイプ標本	6点	布村 昇氏							



宮城県のアナグマ	1点	山田虹太郎氏	大阪湾沿岸の魚類	14点	
和歌山県のタヌキ	1点	矢田部典子氏			大阪湾一斉調査参加者
日本各地の貝類	514点	白川 勝正氏	兵庫県淡路島のニジギンポ	1点	花野 晃一氏
堺市のタヌキ	1点	奥田 幸男氏	和歌山県和歌川河口の魚類	7点	
兵庫県のヌートリア	1点	高津 一男氏			森田 諒・市川 研太・今木 千普氏
奈良県のアナグマ	1点	三島 昂彦氏	大和川河口の魚類	4点	松吉 敬一氏
能勢町のテン	1点	難波希美子氏	兵庫県のマハゼ	1点	稲本 雄太氏
高槻市のイタチ	1点	瀧端真理子氏	神戸市沖の魚類	57点	
茨木市のイタチ	1点	佐竹 敦司氏			須磨海岸生物調査研究所
住吉区のイタチ	1点	岡出 朋子氏	兵庫県淡路島の魚類	13点	花野 晃一氏
東住吉区のイタチ	1点	鳥山 和子氏	愛媛県のナガタチカマス	1点	清水 孝明氏
住之江区のイタチ	1点	木村 納子氏	男里川河口周辺の魚類	44点	
阿倍野区のイタチ	1点	中倉友佳里氏			シニア自然大学水生生物科
東住吉区のイタチ	1点	松下 宏幸氏	大阪湾の魚類	40点	
堺市のイタチ	1点	岡林 敦子氏			大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター
堺市のイタチ	1点	玉置さやか氏	若狭湾のハゼ科魚類	41点	松井 彰子氏
河南町のイタチ	1点	森 ひとみ氏	貝塚市のタケノコメバル他	2点	山田 浩二氏
和泉市のイタチ	1点	榊原 鉄次氏	大阪府のギギ他	4点	吉村 元貴氏
能勢町のイタチ	1点	難波希美子氏	沖縄県のタケウツボ	1点	桑 正幸氏
能勢町のイタチ	2点	上條 健一氏	羽曳野市のアユ	1点	
能勢町のイタチ	1点	山崎 聡子氏			ジュニア自然史クラブ
能勢町のイタチ	1点	常俊 容子氏	淀川河口のニホンウナギ他	3点	濱口 春代氏
岸和田市のイタチ	1点	小牧 由雅氏	和歌山県近海のキハダ(頭部)	1点	阿久津淳子氏
男里川河口のイタチ	1点	矢田部典子氏	西淀川区の魚類	14点	濱口 春代氏
長野県のカルガモ	1点	石井 久夫氏	諫早湾のムツゴロウ他	3点	濱口 春代氏
宮城県フルマカモメ	1点	西澤真樹子氏	神戸市沖の魚類	18点	
枚方市のオオコノハズク	1点	平 軍二氏			須磨海岸生物調査研究所
千早赤阪村のノゴマ他	2点		滋賀県のニホンカモシカ	1点	阿部 勇治氏
		神山 善寛・森山 義博氏	箕面市のニホンジカ	1点	浦野 信孝氏
岸和田市のウズラ	1点	白木江都子氏	岐阜県のタヌキ	1点	三原 学氏
吹田市のフクロウ	2点	田内 久之氏			■昆虫研究室
淡路島のカワウ	1点	米澤 里美氏	国内外産コメツキムシ	512点	富永 修氏
泉南市のゴイサギ	1点	三宅 壽一氏	日本産昆虫	380点	内田 正吉氏
此花区のハクセキレイ	1点	磯貝 知香氏	外国産甲虫	650点	春沢圭太郎氏
香川県のタヌキ	1点	米澤 里美氏	淀川産ヒヌマイトトンボ	1点	山本 勝也氏
ウサギ(ホーランドロップイヤー)	1点		ミャンマーとブータンのセミ	2点	渡辺 康之氏
		有賀 朋子氏	日本産昆虫	205点	内田 正吉氏
茨城県のハイイロウミツバメ	1点	小林 毅生氏	柏原市の昆虫	6点	梁河 賢二氏
此花区のクロジ	1点	磯貝 知香氏	関西産コメツキムシ	228点	森 康貴氏
羽曳野市のカワセミ	1点	正田美知子氏	アジア産ハネカクシ科タイプシリーズ	13点	林 靖彦氏
中央区のアカハラ	1点	磯上 慶子氏			
豊中市のムクドリ	1点	熊代 直生氏	ベトナム産コガネムシホロタイプ	3点	松本 武氏
東大阪市のダイサギ	1点	納家 仁氏	奈良県産チャイロマメゲンゴロウ	1点	小林 温氏
和歌山県のマガモ	1点	酒田千佳子氏	近畿産甲虫類	46点	河合 正人氏
兵庫県のハシブトガラス	1点	阿久津淳子氏	クマゼミ生枝産卵標本	1点	村瀬ますみ氏
阿倍野区のカワウ	1点	青山 充夫氏	日本産コキノコムシタイプシリーズ	3点	斎藤 昌弘氏
五月山動物園のモルモット	1点	五月山動物園			

## 資料収集保管事業

ヒラノマルガタテントウダマシタイプシリーズ	1点	生川 展行氏
日本産セミ・バッタ・ナナフシ	25点	河合 正人氏
大阪府および紀伊半島のヒメドロムシ	1198点	富永 修氏
東南アジア産アゲハチョウ	3点	鈴木 良一氏
日本および東南アジア産甲虫類	770点	林 靖彦氏
奈良市産水生昆虫	48点	奈良県
ボルネオ産甲虫類	4点	小山 栄氏
日本産甲虫目	2170点	春沢圭太郎氏
兵庫県産オオヒラタエンマムシ	1点	田端 修氏
日本産昆虫	1137点	春沢圭太郎氏
日本産昆虫	949点	春沢圭太郎氏
国内産チョウ・甲虫	726点	望月 寛人氏
九州産ハネカクシホロタイプ	1点	伊藤 建夫氏
日本産および海外産昆虫	573点	春沢圭太郎氏
新潟県産直翅類など	11712点	長島 義介氏
長野県産ベニモンマダラと兵庫県扇ノ山産蛾類	12点	松田 真平氏

### ■植物研究室

寄贈および交換(\*)標本.

日本産植物標本	203点	東北大学*
日本産植物標本	203点	国立科学博物館*
日本産植物標本	82点	福井総合植物園*
万博公園のタシロラン	1点	尾方 義雄氏
近畿地方植物標本	182点	川端 一弘氏
菌類標本・観察記録等	1式	吉見 一子氏
コケ植物標本	949点	狩野登之助氏
近畿地方植物標本	139点	平野 弘二氏
近畿地方植物標本	27点	植村 修二氏
大阪府のシダ植物標本	782点	辻井 謙一氏
大阪府産ハネミギク標本	4点	中野 潤子氏
吉見昭一氏旧蔵標本一式	一式	上田 俊穂氏
額装済み冬虫夏草標本一式	79点	荒井 滋氏
日本産植物標本	210点	藤井 伸二氏
ツガサルノコシカケ	1点	大上 勇一氏
シャクジョウソウ	1点	瀬崎 千晶氏
金剛山および舞洲緑地等標本	63点	田中 光彦氏
奈良県宇陀市植物標本	16点	

(株)パシフィックコンサルタンツ

大阪市内植物標本、兵庫県産植物標本	4439点	藤井 俊夫氏
児玉氏コケ類標本、中島氏標本	一式	吉田 正男氏
日本産植物標本	210点	藤井 伸二氏
兵庫県産を中心とした植物標本	103点	小林 禎樹氏

帰化植物標本	6点	植村 修二氏
大台ヶ原産コケ標本	1点	木村 全邦氏
国内産コケ類標本	555点	狩野登之助氏
国内産菌類標本	250点	関西菌類談話会

### ■地史研究室

アケボノゾウ 四肢骨化石	3点	唐岩 幸博氏
恐竜の卵	1点	森藤 永子氏
旧大山田村服部川河床産脊椎動物化石	41点	山本 勝吉氏
ウマ下顎骨 1点、ボーリング資料 2箱、土器 2点		日本証券金融株式会社
現生脊椎動物標本	33点	天王寺動物園
古琵琶湖層群産貝化石、メタセコイア球果化石		樽野 博幸氏
淡路島和泉層群産植物種実化石	3点	高田 雅彦氏
ドイツ産 <i>Spirematospermum</i> 果実化石	1点	松橋 義隆氏
日本産を中心とした化石標本	一式	飯田 學氏

### ■第四紀研究室

海浜砂	1点	井内 由美氏
海浜砂	1点	吉田小恵子氏
海浜砂	1点	大西 清美氏
海浜砂	4点	米澤 里美氏
サンゴ化石	6点	南方 啓司氏
古琵琶湖層群ドブガイ化石	1点	時松 豊子氏
火山灰(鳥取砂丘)	2点	小林智・春平氏
大阪市内ボーリング資料	14件	大阪市都市整備局

## II. 館員による資料収集

### ■動物研究室

担当学芸員は、波戸岡…H、和田…W、石田…Iと略記する。

大阪府岬町で海産魚類を採集	(5月、6月、H)
和歌山県和歌山市で海産魚類を採集	(4月、H)
兵庫県洲本市(淡路島)で海産魚類を採集	(6月、H)
福井県越前海岸で海産魚類を採集	(8月、H)
兵庫県赤穂市千種河口で魚類を採集	(9月、H)
泉南市尾崎で海産魚類を採集	(9月、H)
岡山県笠岡市および広島県福山市で海産魚類を採集	(3月、H)

大阪府岬町・和歌山県和歌山市で海産無脊椎動物を採集	(4~8月、I)
岸和田市の漁家の郷土料理の聞き取り及びレプリカを作成	(6~7月、I)
和歌山県白浜町で海産無脊椎動物を採集	(4月、I)
大阪府阪南市で海産無脊椎動物を採集	(4~6月、I)

大阪市で海産無脊椎動物を採集 (5、10月、I)			昆虫全般 (M)
兵庫県洲本市で海産無脊椎動物を採集 (6月、I)	5月17日	奈良市春日山	昆虫全般 (M)
長崎県五島市で無脊椎動物を採集 (7月、I)	5月18日・6月1-2日	京都府大江山	昆虫全般 (S)
福井県越前町・福井市で海産無脊椎動物を採集 (8月、I)	5月19日	愛知県豊田市	昆虫全般 (M)
兵庫県赤穂市で海産無脊椎動物を採集 (8~9月、I)	5月20・21・23日	京都府木津川	昆虫全般 (S)
北海道札幌市で陸産貝類を採集 (8月、I)	5月23日	福岡県福岡市背振山	昆虫全般 (M)
大阪市で淡水貝類を採集 (9、11月、I)	5月24-26日	長崎県五島市福江島	昆虫全般 (M)
大阪府泉南市・阪南市で海産無脊椎動物を採集 (9~10月、I)	5月26日	滋賀県大津市びわ湖バレイ	アサギマダラ (K)
岡山県浅口市で海産無脊椎動物を採集 (10月、I)	5月31日	箕面市箕面	昆虫全般 (M)
大阪府千早赤阪村で陸産貝類を採集 (11月、I)	6月3日	奈良県大和郡山市矢田丘陵	昆虫全般 (M)
香川県小豆島町・土庄町で無脊椎動物を採集 (3月、I)	6月4日	箕面市箕面	昆虫全般 (M)
大阪市他で陸産無脊椎動物を採集 (4~3月、I)	6月4-6日	阪南市・泉南市・和歌山市	大阪湾の昆虫 (S)
<b>■昆虫研究室</b>	6月7日	兵庫県明石市松陰新田	昆虫全般 (M)
日本産昆虫の平均的収集、大阪府産昆虫の完全な収集等の目的で、担当学芸員(金沢…K、初宿…S、松本…Mと略記)が行った出張は次の通り。調査研究や資料収集のほか、普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記した。	6月9日	住之江区・大正区	兵隊虫 (S)
4月5日 高知県高知市 昆虫全般 (M)	6月9日	高槻市摂津峡	昆虫全般 (M)
4月6日 大正区 都市の昆虫 (S)	6月10-12日	京都府京丹後市立岩・丹後半島	アサギマダラ (K)
4月7日 南港中央公園・南港野鳥園 都市の昆虫 (S)	6月11日	奈良県大和郡山市矢田丘陵	昆虫全般 (M)
4月8日 箕面市箕面 ガ (M)	6月14日	箕面市箕面	昆虫全般 (M)
4月8日 奈良県大和郡山市 昆虫全般 (M)	6月16日	京都府八幡市男山	昆虫全般 (M)
4月11日 岬町孝子 昆虫全般 (S)	6月22日	池田市五月山	昆虫全般 (M)
4月14日 箕面市箕面 ガ (M)	6月23日	岬町豊国崎	大阪湾の昆虫 (S)
4月14・28日 高槻市三島江 テントウムシ (S)	6月26-28日	秋田県東成瀬村	昆虫全般 (S)
4月18日 池田市五月山 昆虫全般 (M)	7月1日	滋賀県近江八幡市	昆虫全般 (S)
4月18日 大阪市北港 オンブバッタ (M)	7月2-6日	北海道厚岸町別寒辺牛湿原	(M)
4月22日 東大阪市室池 昆虫全般 (M)	7月6-8日	中央アルプス	昆虫全般 (S)
4月28日 池田市五月山 昆虫全般 (M)	7月13-14日	鳥取県鳥取市鳥取砂丘	昆虫全般 (M)
4月30日 阪南市貝掛海岸 昆虫全般 (M)	7月15日	藤井寺市道明寺	昆虫全般 (M)
5月2日 兵庫県明石市松陰新田 昆虫全般 (M)	7月22日	奈良県明日香村	昆虫全般 (M)
5月4日 枚方市穂谷 昆虫全般 (M)	7月26-28日	長崎県五島市福江島	昆虫全般 (M)
5月6日 兵庫県猪名川町 昆虫全般 (M)	7月29日-8月3日	北海道雄武町・浜頓別町	昆虫全般 (S)
5月7-8日 兵庫県洲本市成ヶ島 大阪湾の昆虫 (S)	7月31日-8月4日	北海道厚岸町別寒辺牛湿原	昆虫全般 (M)
5月7-10日 沖縄県名護市、国頭村 昆虫全般 (M)	8月3日	滋賀県大津市びわ湖バレイ	アサギマダラ (K)
5月12日 天王寺区真田山 都市の昆虫 (S)	8月10日	能勢町	セミ (S)
5月12日 阪南市貝掛海岸 昆虫全般 (M)	8月10-11日	愛媛県愛南市高茂岬	昆虫全般 (M)
5月12日 東大阪市枚方公園 昆虫全般 (M)	8月12日	滋賀県長浜市横山岳	セミ (S)
5月15日 兵庫県三田市有馬富士公園 昆虫全般 (M)	8月15日	東大阪市室池	昆虫全般 (M)
5月16日 奈良県大和郡山市矢田丘陵	8月16日	奈良県明日香村	昆虫全般 (M)
	8月16日	福井県おおい町・滋賀県高島市	セミ (S)

## 資料収集保管事業

8月17-18日	兵庫県新温泉町上山高原・鳥取県鳥取市扇ノ山	アサギマダラ (K)
8月20-24日	青森県つがる市・弘前市	昆虫化石など (S)
8月26日	淀川区十三	都市の昆虫 (S)
8月26日	東大阪市枚岡公園	昆虫全般 (M)
8月29日	奈良県奈良市高円山	昆虫全般 (M)
9月7日	鞆公園	セミのぬげがら (S, M)
9月8・22日	千早赤阪村金剛山	昆虫全般 (K)
9月9日	滋賀県大津市比叡平・神戸市渦森台	セミ (S)
9月16-18日	北海道厚岸町別寒辺牛湿原	昆虫全般 (M)
9月17-18日	北海道室蘭市・松前町	昆虫全般 (K)
9月20日	藤井寺市道明寺	バッタ (K)
9月22日	伊丹市猪名川	ゴキブリなど (S)
9月25日	東大阪市枚岡公園	昆虫全般 (M)
10月1-2日	琵琶湖岸	昆虫一般 (S)
10月6日	藤井寺市道明寺	バッタ (K, M)
10月10日	滋賀県彦根市	昆虫化石 (S)
10月12日	奈良県奈良市高円山	昆虫全般 (M)
10月12-14日	愛知県田原市伊良湖岬	移動昆虫 (K)
10月13日	堺市	アカハネオンブバッタ (M)
10月19-22日	三重県名張市・和歌山県西山・日の岬	アサギマダラ (K)
10月21日	東大阪市枚岡公園	昆虫全般 (M)
10月26日	南港野鳥園	都市の昆虫 (S)
10月27日	十三	アカハネオンブバッタ (M)
10月30日	八幡市・枚方市	外来昆虫 (S)
11月5日	長野県木曾町	昆虫化石 (S)
11月9-10日	福島県会津地方	昆虫化石 (S)
11月10日	兵庫県神戸市須磨鉢伏山	昆虫全般 (M)
11月14日	兵庫県神戸市須磨鉢伏山	(M)
11月22日	高槻市芥川	水生昆虫 (M)
12月2日	滋賀県志賀町	ウスバカゲロウ (M)
12月15日	泉佐野市滝ノ池	昆虫全般 (M)
12月16日	高槻市本山寺	ウスバカゲロウ (M)
12月28日	東大阪市室池	昆虫全般 (M)
1月2日	広島県周防町周防大島	ウスバカゲロウ (M)
1月6日	高槻市鶴殿	昆虫全般 (M)
1月12日	鶴見緑地	都市の昆虫 (S)
1月14日	奈良県大和郡山市矢田丘陵	昆虫全般 (M)
2月9日	奈良県奈良市平城宮跡	ヒロヘリアオイラガの寄生者 (M)

## ■植物研究室

調査研究の他、野外観察会の機会等を利用した資料収集のうち、以下に主なものを記す。担当学芸員は、佐久間…S、長谷川…H、横川…Yと略記する。

4月10日	河内長野市	植物一般 (Y)
4月16日	高槻市	植物一般 (S, H, Y)
4月25日	大阪市住吉区	植物一般 (H, Y)
4月30日	阪南市	海岸植物 (Y)
5月1日	大阪市西成区	植物一般 (H)
5月7日	岬町	海岸植物 (Y)
5月8日	大阪市住吉区	植物一般 (H)
5月10日	岬町、阪南市	海岸植物 (Y)
5月13日	兵庫県神戸市六甲山	植物一般 (Y)
5月15日	阪南市、泉南市	海岸植物 (Y)
5月15日	大阪市住吉区	植物一般 (H)
5月20-22日	熊本県高森町	植物一般 (Y)
6月11日	能勢町三草山	植物一般 (S, Y)
6月11日	大阪市住吉区	植物一般 (H)
6月13日	吹田市	植物一般 (H, Y)
6月23日	橿原神宮	菌類 (S)
6月24, 27日	大津市石山寺	菌類 (S)
6月29, 30日	東大阪市枚岡公園	菌類 (S)
7月12日	吹田市	植物一般 (H, Y)
7月13日	大津市石山寺	菌類 (S)
7月14日	箕面市箕面公園	菌類 (S)
8月19日	兵庫県赤穂市	海岸植物 (Y)
8月1日	広島県東広島市	ママコナ属 (H)
8月16-24日	福岡県新宮町、鹿児島県屋久島	ママコナ属 (H)
8月20-23日	熊本県高森町	植物一般 (Y)
9月3-5日	和歌山県田辺市	ママコナ属 (H)
9月6日	岬町飯盛山	植物一般 (Y)
9月8日	大津市瀬田龍谷の森	菌類 (S)
9月16-18日	広島県東広島市	ママコナ属 (H)
9月19・22日	千早赤阪村金剛山	菌類 (S)
9月23-26日	和歌山県田辺市	ママコナ属 (H)
9月20日	阪南市男里川河口	(S)
10月2日	和歌山県串本町	ママコナ属 (H, Y)
10月7-11日	韓国	ママコナ属 (H, Y)
10月13日	敦賀市中池見	菌類 (S)
10月17-18、30日	上北山村大台ヶ原	菌類・蘚苔類 (S)
10月26-28日	和歌山県串本町	ママコナ属 (H)
10月27日	京都府立植物園	菌類 (S)
10月30日	吹田市	植物一般 (H, Y)
11月3日	堺市大泉緑地	菌類 (S)
11月5-6日	和歌山県串本町	ママコナ属 (H)

11月14日 兵庫県加古川市 植物一般 (Y)

### ■地史研究室

担当学芸員は、川端…K、塚腰…T、林…Hと略記する。

7月25日 愛媛県松山市 久万層群植物化石 (T)

9月17-18日 秋田県大館市 黒鉱鉱床 (K)

10月9日 愛媛県松山市 久万層群植物化石 (T)

1月6日 高槻市 丹波帯・超丹波帯岩石 (K)

2月20日 愛媛県松山市 久万層群植物化石 (T)

### ■第四紀研究室

担当学芸員は、石井…I、中条武司…Nと略記する。

5月24日 長崎県五島市 海浜砂、硫化鉱物(N)

7月15日 大阪市住吉区  
河川堆積物はぎ取り標本 (N)

11月28日 茨城県神栖市 海浜砂 (N)

3月17日 山口県山口市、宇部市 海浜砂 (N)

## Ⅲ. 資料数

### ■動物研究室 (平成25年度末)

海綿動物	132点
刺胞動物・有櫛動物	693点
扁形・紐形動物	391点
触手動物	141点
環形動物	5,625点
甲殻類	15,909点
軟体動物	35,209点
棘皮動物	2,874点
原索動物	465点
その他無脊椎動物	1,027点
魚類	39,322点
両生類	22,043点
爬虫類	7,895点
鳥類	7,107点
哺乳類	2,760点
(計)	141,593点

### ■昆虫研究室 (平成25年度末、未登録標本を含む)

標本総数	937,136点
日本産昆虫	
カワゲラ目	489
カゲロウ目	10,183

トンボ目	18,675
カマキリ目	621
直翅目	23,233
ナナフシ目	510
ハサミムシ目	553
ガロアムシ目	99
ゴキブリ目	548
シロアリ目	93
シロアリモドキ目	25
チャテテムシ目	335
アザミウマ目	24
同翅類 (カメムシなど)	14,642
異翅類 (セミなど)	29,733
脈翅目	1,693
シリアゲムシ目	1,915
トビケラ目	2,274
蛾 (ガ)	65,519
蝶 (チョウ)	76,543
甲虫目	313,197
ハエ目	46,822
ハチ目	44,600
その他 (各目)	16,985
クモなど	16,416

計 685,727

### 外国産昆虫

蝶 (チョウ)	83,109
蛾 (ガ)	7,727
ハチ目	5,151
ハエ目	3,218
甲虫	128,103
脈翅目	108
同翅類 (セミなど)	6,143
異翅類 (カメムシなど)	2,099
直翅型昆虫	6,263
トンボ目	1,317
カワゲラ目	66
その他 (各目)	3,117
クモなど	1,581
南太平洋学術調査コレクション	4,700
田中竜三氏コレクション	12,439
韓国産昆虫コレクション	1,506
アフガニスタンの昆虫	6,143

計 272,790

## ■植物研究室（平成25年度末、未登録標本を含む）

種子・シダ植物さく葉標本	278,111
蕨類標本	36,300
苔類標本	23,550
地衣類標本	353
海藻標本	12,708
菌類標本	17,700
木材標本	1,772
木材プレパラート	1,283
果実標本	6,071
(計)	377,848

## ■地史研究室（平成25年度末、登録済標本数）

岩石	1,275点
鉱物	2,815点
脊椎動物化石	1,715点
古生代無脊椎動物化石	1,370点
中生代無脊椎動物化石	3,090点
有孔虫等微化石プレパラート	17,841点
放射虫化石	135点
古生代植物化石	185点
中生代植物化石	369点
第三紀植物化石	3,741点
(計)	32,536点

## ■第四紀研究室（平成25年度末、登録済標本数）

人類遺物	29点
植物化石	25,974点
現生花粉プレパラート	2,114点
現生花粉	941（種）
現生シダ植物胞子	362（種）
無脊椎動物化石	5,564点
大阪市内ボーリング資料	1,669（件）
(計)	36,653点（件・種）

## IV. 自然史図書の収集と活用

当館の資料収集活動の一環として、自然史科学に関係した図書資料の収集を行っている。その大部分は当館発行物との交換で収集しているものであるが、個人、出版社、団体、自治体、政府機関等からの単行本、各種報告書等の寄贈や、当館予算による購入によるものもある。

普及書的な図書や図鑑類は、大半を「花と緑と自然の情報センター」内の自然の情報センターに配架し、入館者の閲覧と、市民からの各種の相談や質問への対応に使用されている。

専門図書は主として各研究室に、調査報告書・逐次刊行物は書庫に配置されている。また各種地図の収集も行っている。これら専門図書の閲覧や利用の希望が近年増加してきているが、司書が配置されていないため、市民が直接利用できる体制はとれていない。コピーサービスについては、学芸員が文化庁の著作権実務講習を受けることによって、法的には実施可能な体制を整え、自然の情報センターにおいて市民の要望に応えられるように備えているが、現在のところ、サービスを開始できていない。

平成9年度に開始した交換・寄贈による逐次刊行物と寄贈・購入書籍のコンピュータへのデータ入力は、平成25年度（2013年度）も、新しく受け入れたものについて引き続き行っている。

平成25年度末までにデータ入力を行った電子出版物を含む図書は181部で、入力済み収蔵数は14,865部である。また、交換・寄贈によって受け入れた逐次刊行物と調査報告書は平成25年度に2,157冊、平成25年度末現在の累計177,580冊である。

## 1. 個人・機関からの受贈（登録済のみ。交換分は除く、敬称略）

- 個人：濱田信夫、市川顕彦、天野典秀、吉見昭一、吉見一子、矢内正弘、荒井滋、今川正美、芹沢俊介、西尾伸一、宮武頼夫、横川昌史、上田俊穂、木下一、道盛正樹、三田村宗樹、樽野博幸、石井久夫、一瀬和夫、Antiquariaat Junk、白木江都子、谷田一三、山西良平、佐久間大輔、松本吏樹郎
- 民間団体、出版社、企業など：芹沢俊介先生退職記念事業会、近畿植物同好会、洋泉社、丸善出版、鵬図商事
- 政府機関及び自治体および関連団体、大学、研究所など：日本直翅類学会、いなべ市教育委員会、東海大学出版会、吹田市教育委員会、明治神宮社務所、三重県立博物館、JT生命誌研究館、神戸学院大学人文学会、北海道大学総合博物館、鶴殿ヨシ原研究所、

陸前高田市立博物館、いちいがしの会、国立極地研究所、飛騨市教育委員会

273ヶ所287冊  
館報 38号 677ヶ所 694冊 11ヶ所 11冊

## 2. 購入等によるもの

### ●図書購入費による購入（登録済みのみ）

平成25年度 45冊

### ●消耗品費による購入

国内：科学、遺伝、海洋と生物、月刊地球、別冊地球、月刊海洋、別冊海洋。

### ●学会への加入による収集

12学会へ団体会員として加入し、会誌を収集した。学会名は以下の通りである。この他にも、収集すべき学会誌が国内外に多数あるが、予算の状況から学会へ入会できていないのが現状である。

日本応用動物昆虫学会（日本応用動物昆虫学会誌，  
Applied Entomology and Zoology）

日本動物学会（動物学雑誌）

日本生物地理学会（Biogeography，日本生物地理学会会報）

日本衛生動物学会（衛生動物）

日本遺伝学会（遺伝学雑誌）

日本藻類学会（The Japanese Journal of Phycology，藻類）

日本陸水学会（Limnology，陸水学雑誌）

日本古生物学会（Paleontological Research）

日本地学研究会（地学研究）

日本博物館協会（博物館研究）

全国科学博物館協議会（全科協ニュース）

国際トンボ学会（ODONATOLOGICA）

この他、交換により会誌を受領している学会も多い。

## 3. 文献交換状況

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・展示解説・館報および大阪市立自然史博物館友の会発行（当館編集）Nature Studyと交換に、国内国外の研究・教育機関と文献交換を行っており、各種自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈を受けた。

### ■研究報告など出版物の配布

2013年度の配布は以下の通り。

	国内		国外	
研究報告67号	476ヶ所	486冊	404ヶ所	437冊
自然史研究 第3巻14号	360ヶ所	371冊	173ヶ所	176冊
収蔵資料目録 第45集	244ヶ所	255冊	53ヶ所	54冊
展示解説 第44回特別展解説書				
ミニガイド No. 25				

# 展覧事業

自然史博物館の展示は、常設展示を主体とし、特別展示、特別陳列がこれを補っている。常設展示室としては、旧来の博物館建物（以下本館）にナウマン・ホールならびに第1～第5展示室があり、平成13年4月にオープンした「花と緑と自然の情報センター（略称：情報センター）」1階には、地域自然誌展示室がある。特別展示は情報センター2階のネイチャー・ホールで開催している。特別陳列はネイチャー・ホールまたは本館2階のイベント・スペースで開催している。

平成25年度は年度をまたいで開催の特別展を含めて、3回の特別展を開催した。主催展として開催した「いきものいっぱい 大阪湾」展は、準備段階（調査研究、資料収集）および展示資料整備では外部資金を活用し、当初予算の2倍以上の経費を投入することになり、マッコウクジラ骨格の組み立て標本など、展示内容のクオリティーアップに役立った。マッコウクジラを展示の“目玉”としてアピールすることで、「愛称募集」、「愛称決定、命名式」など広報も幅広く展開できた。入館者数は目標を上回ることはできなかったが、2万人以上の入場者を迎えることができた。過去に開催した地域調査型特別展（淀川展など）に比較すると2倍の入場者があり、過去の総括・反省を踏まえて、タイトルを工夫するなどした結果と考えている。

## I. 常設展

常設展示は「自然と人間」を基本テーマとし、具体的に身近な自然現象から出発し、分野的、地理的に、そして歴史的にも視野を広げることによって、人と自然とのかかわりをも含めた自然界の法則性に至ろうとする考えのもとで展開されている。したがって、本館の展示は、一つのストーリーに従って組み立てられている。本館入口のナウマン・ホールでは、上記の基本テーマに基づき、自然史博物館の展示のねらい、すなわち、私たち人間が、どのように自然とかわっていったのか、そしてこれから、どう自然とつきあっていけばよいのか、ということ、象徴的に展示している。

第1展示室「身近な自然」と第2展示室「地球と生命の歴史」では、身近な大阪の自然から出発して、その歴史を地球の誕生まで遡り、第3展示室「生物の進化」では、その地球上のさまざまな環境において、生物は、他の生物と関わりを持ちながら、常に進化し分布を広げようとしてきたし、今もそうであることを述べている。締めくくりの第5展示室では、「生き物の暮らし」をテーマに、生き物たちは、生き物同士、そして私たちの生活とどのようにつながって、どんな環境でくらしているのかを展示している。

情報センター1階の「大阪の自然誌」展示室は、大阪の自然に関するものはすべて知りたいという、市民の要望に応えることをめざしたものである。ここでは、大阪各地域の自然の特徴を地域ごとに解説する展示、大阪で見られる生物や化石の標本をできるだけ網羅するコーナー、そしてパソコンによる大阪の自然に関する情報検索コーナーを設け、多くの市民が大阪の自然について自主的に学ぶことが可能な施設となっている。さらに、学芸員による相談コーナーが、情報検索コーナーに隣接した場所に設けられ、常時、市民の質問に答えられる体制をとっている。

平成25年度には、2014年3月5日（水）に、マッコウクジラ全身骨格標本「マッコ」を、本館玄関前ポーチから吊り下げる作業を行い、同ポーチにて常設展示中のナガスクジラ骨格標本「ナガスケ」と並べて常設展示した。

## II. 特別展

特別展示は、地元大阪とその周辺地域の自然誌を紹介したり、学芸員の研究成果を広く市民に還元するという趣旨で開催してきた。13年度からは、ネイチャーホール新設を契機として、新聞社などが企画する、自然史科学あるいは生命科学に関する展覧会を積極的に誘致し、共催することによって、さらに広い分野の展覧会を市民に提供することとしている。館による自主企画の特別展のテーマについては、少なくとも数年先までの計画を立てている。

### （1）第44回特別展「いきものいっぱい大阪湾～フナムシからクジラまで～」

当館では1986年に特別展「大阪湾の自然」を開催し、大阪湾の自然環境、生き物、漁業を柱として、当時の大阪湾の状況を紹介した。その後も大阪湾の自然をモニタリングするために、生き物を中心とした調査研究や普及啓発活動を継続してきたが、大阪湾は様々な人間活動の影響を受け、その環境や生き物の暮らしぶりはその後も変化してきている。一方で、地域の人々による普及活動や連携による生き物の一斉調査など、活発な活動が行われるようになるとともに、国の機関や地方自治体による、豊かな海を回復し、市民が誇りうる大阪湾を創出する活動も行われている。このような現状にあって、博物館や市民、行政の活動を通じて蓄積されてきた標本や情報を取りまとめ、大阪湾の過去と現状を知ってもらい、これからの大阪湾を考えていただける特別展を開催した。なお、今回は大阪湾沿岸の博物館・水族館7施設（神戸市立須磨浜水族園、西宮市貝類館、海遊館、大阪南港野鳥園、大阪市立自



然史博物館、きしわだ自然資料館、貝塚市立自然遊学館)による「大阪湾Years連携企画展」の一環とした。この特別展のための調査研究、資料収集、並びに開催にあたっては、日本財団助成事業「船の科学館・海と船の博物館ネットワーク」およびJSPS科研費(課題番号22601016、23701025、24240113)による助成・支援を受けた。

●内 容(主な展示物)

大阪湾の歴史(大坂川口図、海図、地図)／大阪湾の基礎データ(環境指標生物標本、海底地形模型)／沿岸の自然(実物標本、景観写真、水槽展示)／大阪湾の漁業(網、壺、籠などの実物漁具、実物標本、写真)／昔の大阪湾(錦絵、絵図、昔の絵はがき、市民から寄せられた古い写真)／大阪湾の「宝島」一成ヶ島(実物標本、生物の写真)／外海とのつながり(マッコウクジラの全身骨格標本、ウミガメ類、その他の外洋生物の実物標本)／大阪湾の抱える問題(赤潮や青潮など様々な問題を解説した写真や標本、各地の市民団体の活動の紹介)／トピック(ミンククジラの頭骨標本、小型鯨類スナメリの全身骨格標本、大阪湾のカモメの生態、大阪湾の海藻おしば標本、郷土料理、大阪湾の全沿岸連続写真)。

●会 期：平成25年7月20(土)～10月14日(月・祝)(75日間)

●会 場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール

●主 催：大阪市立自然史博物館

●後 援：大阪府教育委員会、大阪湾再生推進会議、大阪府漁業協同組合連合会

●協 力：船の科学館・海と船の博物館ネットワーク、日本財団助成

●観覧料：大人500円、高校生・大学生300円(30人以上団体割引あり)中学生以下、障害者手帳などをお持ちの方、大阪市内在住の65歳以上の方は無料。

●入場者：20,660人。有料大人5,075(24.6%)・有料高大生1,366(6.6%)、有料団体23(0.1%)、有料キャンパスメンバーズ49(0.2%)、合計6,513名(31.5%)であった。中学生以下5,216名(25.2%)、その他無料入場者(高齢者、団体等)14,147名であった。中学生以下の入館者のうち37.0%は団体入館者であり、小学校等の秋季遠足での観覧が大部分を占める。これを除くと有料の大人入館者の割合が比較的高く、子どもばかりではなく大人にも多数来館してもらえた。アンケートによれば、大阪市内在住の方の割合は59.2%であった。1日の最多入場者は10月11日(金)の1,047人。

●キッズマップ・パネル：子どもに展示の見どころを、楽しく、分かりやすく伝えるために、キッズマップ(会場9箇所)、キッズマップ(配布用でA4判両面刷

り)を作成し配布した。子どもたちの興味を引きやすいように、イラストをふんだんに使用し、平易な言葉で表現した。子供のみならず、大人の来館者も手に取ったり、親子でマップを見ながら、話をしている姿が目立った。子どもたちへの見学への手がかりとなった。

●展示見学ワークシート：多くの中学生や高校生に、課題意識を持ちながら展示を見学してもらうために展示見学ワークシート(A3判両面刷り)を作成し、中学校・高等学校に配布した。

●生き物の水槽展示：生き物をより身近に感じてもらうように、磯に棲む小魚やカニ、貝類他、干潟のカニ類、フナムシ類の生品の展示を行い、好評であった。

●展示解説書：大阪湾の環境やそこに棲む生物について解説し、大阪湾のかかえる問題や将来にもふれ、本のタイトルを「大阪湾本」として一冊で大阪湾の自然のすべてが分かるように意図作成した。環境や生き物を紹介した巻頭カラー12ページ、本文112ページからなる。館末には大阪湾の生き物リストを附した。

●連 携：大阪市内の図書館12館で、会期前～会期中にミニ展示を行った。今回は例年よりはやく4月より行った。

●関連行事

・子どもワークショップ：特別展会場のワークショップスペースにおいて小学生以下を主な対象として以下の3つのワークショップを行った。

「おしえてハカセ!うみのいきもの」：参加者が担当学芸員とおしゃべりをした後、会場を見学し、生き物の絵を描いて下敷きを作る1回約1時間のプログラム(3回/日)。8月10日(参加者92名)・11日(89名)、8/24(46)・25(64)、9/21(59)・22(43)、合計393名。

「磯絵巻～フナムシ・ウミウシ・インダタミガイ～」：磯の小さな生き物を見たあと絵巻物をつくる1回約1時間のプログラム(3回/日)。8月3日(参加者44名)・4日(54名)、8/17(61)・18(58)、合計217名。

「お寿司屋 おおさかわん」：会場の展示物を見た後、クラフトのお寿司をつくる1回30分のプログラム(2回/日)。7月27日(参加者89名)・28日(80名)、合計217名。

・特別展普及講演会「大阪湾の海の幸 今・昔」

大阪湾に古くから関わられ、著述もお持ちの2名の外部講師をお招きし、大阪湾の漁業や暮らし、海の幸を紹介して頂いた。

日時：8月18日(日)午後1時30分から4時10分

場所：自然史博物館 講堂

講師とタイトル：小藤政子(大阪府文化財保護審議委員：『海の幸』を願う漁民が今に伝えるもの)／鷲尾圭司(独立行政法人水産大学校理事長)：「大阪湾の

## 展 覧 事 業

サカナを美味しく食べる」、参加者：103名。

・自然史オープンセミナー 特別展「いきもの いっぱい 大阪湾～フナムシからクジラまで～」の開催にちなみ、当館学芸員による、大阪湾の自然に関するセミナーを行った。

日時：平成25年7月20日（土）、8月17日（土）、9月21日（土） いずれも13:00～14:30。

場所：自然史博物館 集会室（9月は講堂）

内容：括弧は参加者数。7月：「いきものいっぱい 大阪湾～その秘密～」山西良平（館長）（49名）8月：「大阪湾の魚たち」波戸岡清峰（動物研究室）（43名）7月：「大阪湾の渚の自然—その原風景と変遷」石田惣（動物研究室）（72名）

### ・室内実習「バイごまをつくろう」

バイという海の巻き貝を使う昔と同じ方法でバイごまづくり、コマ回を体験をするもの。

日時：8月10日（日）午前

場所：自然史博物館 実習室

参加者：31名

### ・地域自然誌シリーズ「男里川河口干潟」

大阪湾で数少ない自然の干潟のある男里川河口で、その生き物の観察を行った。

日時：10月6日（日）午前10時30分～午後3時

場所：男里川河口（泉南市・阪南市）

参加者：44名

### ・中央図書館講演会「大阪湾 岸辺から沖合まで」

特別展の広報もかね、中央図書館で、当館学芸員により大阪湾にくらす様々な生き物の姿を紹介した。

日時 平成25年6月15日（土）午後2時から4時

参加者 54名

場所 大阪市立中央図書館 5階大会議室 波戸岡清峰（沖合の魚たち）；石田 惣（大阪湾の岸辺の自然—その原風景と変遷—）

### （2）「発掘！モンゴル恐竜化石展」

●会 期：平成24年11月23日～平成25年6月2日 159日間（うち平成25年度は55日間）

●会 場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール

●主 催：モンゴル科学アカデミー古生物学センター、大阪市立自然史博物館、林原自然科学博物館、読売新聞大阪本社

●後 援：在大阪モンゴル国総領事館

●協 賛：あいおいニッセイ同和損保、学校法人加計学園、ダイワボウ情報システム、日本公文教育研究会、

●協 力：国立科学博物館、福井県立恐竜博物館、名古屋科学館、ゴビサポートジャパン、岡山理科大学、長居パークセンター、大阪府公衆浴場業生活衛生同業組合

●観覧料：大人1200円、高校生・大学生700円（前売り割引、30人以上団体割引あり）中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方は無料。

モンゴル・ゴビ砂漠は1920年代に、アメリカの調査隊が恐竜の卵の化石を発見したことから、世界でも有数の恐竜産地として知られるようになり、その後も続々と、世界を驚嘆させる化石が発見されてきた。この特別展で展示する標本の多くは、日本とモンゴルの共同調査隊が発掘した標本であり、ほとんどが“実物化石”で、日本初公開のものも多く含んでいる。300点以上の展示標本によって、イントロダクション、ゴビ各地の化石産地ごとの特徴、そして「恐竜という生き物をさぐる」の3コーナーによって紹介した。展示標本のうち、レプリカはわずか13点でそれ以外は実物標本という点も特筆できる展示であった。関連イベントも多数企画・実施し好評であった。

●入場者：131,697人。有料52,933人（40%）、無料入場者78,764人であった。うち平成25年度の入場者は70,589人。

### ●関連行事

オープニング記念講演会	11月23日（金）	61名
恐竜バルーンを作ろう！	11月23日（金）	24名
ワークショップ「飛び出す恐竜カードを作ろう！」	12月15日（土）	24名
子供のタルボサウルス全身組み上げ標本初公開記念レクチャー	12月22日（土）	15名
節分の日企画「きょうりゅう寿司を作ろう」	2月2日（土）	18名
高校生のためのサイエンスレクチャー	2月11日（月・祝）	23名
恐竜復元に挑戦～ティラノサウルスの顔を再現しよう～	3月9日（土）	11名
映画「ダイナソー・プロジェクト」特別試写会	3月10日（日）	130名
“恐竜クッキー”デコっちゃお！教室	3月23日（土）	46名
恐竜バルーンを作ろう！	3月24日（日）	94名
「モンゴル恐竜化石展」のあるきかた	3月31日（日）	49名
恐竜ハンコ教室	4月20日（土）	90名
ワークショップ「プラ板で恐竜を作ろう」	4月21日（日）	200名
ギャラリートーク	5月11日（土）	45名
	5月12日（日）	15名
	11月23日（金）	40名
	12月8日（土）	25名
	1月12日（土）	35名
	2月9日（土）	25名
	3月9日（土）	18名
	4月13日（土）	50名
	5月11日（土）	21名

ゴビ砂漠・恐竜発掘隊員に聞いてみよう

12月1日(土)	170名	12月2日(日)	280名
12月21日(金)	75名	12月22日(土)	65名
1月19日(土)	125名	1月20日(日)	105名
2月9日(土)	90名	2月10日(日)	160名
2月16日(土)	68名	2月17日(日)	61名
3月2日(土)	65名	3月3日(日)	55名
3月9日(土)	25名	3月10日(日)	40名

恐竜折り紙教室を作ろう

12月22日(土)	24名	12月23日(日)	24名
1月20日(日)	66名	5月12日(日)	37名
5月26日(日)	23名		

ワークショップモンゴルきょうりゅう地図

1月26日(土)	62名	1月27日(日)	85名
2月23日(土)	74名	2月24日(日)	65名

木の実で自分だけの「恐竜」をつくろう!

3月20日(水・祝)	74名	3月23日(土)	53名
4月14日(日)	71名	5月19日(日)	49名

(3) 大阪市立自然史博物館・長居植物園 40周年記念企画 特別展「恐竜戦国時代の覇者! トリケラトプス」～知られざる大陸ララミディアでの攻防～

●会 期：平成26年3月21日(金・祝)～5月25日(日) 61日間(うち平成25年度は11日間)

●会 場：大阪市立自然史博物館ネイチャーホール(花と緑と自然の情報センター2階)

●主 催：大阪市立自然史博物館、読売新聞社、中央宣伝企画

●後 援：一般財団法人大阪スポーツみどり財団(長居植物園)、大阪よみうり文化センター、大阪府公衆浴場生活衛生同業組合

●協 賛：ダイワボウ情報システム

●協 力：国立科学博物館、天草市立御所浦白亜紀資料館、群馬県立自然史博物館、篠山市、丹波市、栃木県立博物館、名古屋大学博物館、パーピー自然史博物館、兵庫県立人と自然の博物館、福井県立恐竜博物館、北海道大学総合博物館、ミュージアムパーク茨城県自然博物館、ロイヤルオンタリオ博物館

●観覧料：大人1,200円、高大生800円。特別展入場料にて、自然史博物館常設展(大人300円、高大生200円)も入場可能。中学生以下、障がい者手帳などをお持ちの方は無料。30人以上の団体割引あり。

大阪市立自然史博物館は西区鞆2丁目(元鞆小学校校舎改造)から長居公園に移転してから、長居植物園は開園から、40周年を迎えた。これを記念して開催した。

恐竜時代の最後・白亜紀後期に北アメリカで多様化し、繁栄した植物食恐竜トリケラトプスの仲間の起源

と進化の謎に迫る。

恐竜が繁栄した中生代の最後の3000万年間、北アメリカ大陸は東西に分断されていた。アラスカからメキシコまで南北に長く伸びた西の陸地はララミディア大陸と呼ばれ、恐竜たちの中でも新参者としてアジアから移り住んできたトリケラトプスの仲間の劇的な進化の舞台となった。トリケラトプスの仲間がララミディア大陸内の各地域で次々に入れ替わるさまは、まるで日本の戦国時代の様相であった。そして、戦国時代の最後に登場したトリケラトプスが大陸の広域に分布して天下統一を果たし、恐竜戦国時代の覇者となったが、それから間もない6600万年前に鳥類を除く全ての恐竜は絶滅を迎えた。

トリケラトプスの仲間の起源から絶滅までの歴史を、多彩な骨格標本や生態復元モデルを通じて分かりやすく描いている。中国のインロン、ララミディア大陸のズニケラトプスやカスモサウルスなど、トリケラトプスの仲間の進化史を飾った恐竜たち、および同時代とともに進化してきたティラノサウルスをはじめとする肉食恐竜たちとの対峙を、全身骨格展示によりダイナミックに展示している。

※関連行事など詳しくは館報40号に掲載する。

## Ⅲ. 特別陳列

特別陳列は、特別展と同様な趣旨で行っているが、より小規模なもの、あるいはテーマを絞ったものであり、また市民からの寄贈品・コレクションの紹介も含めて、随時実施している。

### ■ミニ企画展「平成の大津波被害と博物館巡回展 ナチュラリスト鳥羽源藏と後継者たちの残したもの」

会 期：平成25年8月24日(土)～10月14日(月・祝)

場 所：自然史博物館 本館2階イベントスペース

主 催：大阪市立自然史博物館・公益財団法人日本博物館協会・特定非営利活動法人西日本自然史系博物館ネットワーク・特定非営利活動法人大阪自然史センター

共 催 岩手県立博物館・陸前高田市立博物館

この展示は岩手県立博物館、昭和女子大学光葉博物館で開催された「平成の大津波被害と博物館」を基礎とし、その自然史パートを標本・パネル共に拡充して開催したものである。期間中の常設展示入館者数は23,738人(小学生の団体6,454人を含む)に及び、多くの方に観覧いただいた企画となった。

陸前高田市立博物館に保管されていた鳥羽源藏氏による自然史系コレクションについては博物館研究2013

## 展 覧 事 業

年10月号に熊谷氏が報告しているところである。被災したそれらの資料の保存修復活動を当館も全国の自然史系博物館などとともに担当した。

今回の企画展示では修復保存活動そのものよりも、コレクション自体の価値により重きを置き、ナチュラリスト鳥羽源藏の活動にスポットを当てた展示とした。

標本の修復を進める中で私たちが強く感じたこととして、1) 自然史標本は社会的な財産であり文化財的な保護が必要だということ、2) 地域の文化復興の上で自然を見つめてきた地域文化をつないでいくことの重要性の再認識、があったためである。

このミニ展示では、鳥羽源藏とその後継者たちが三陸地域で重ねてきた自然科学的成果を、修復され残された標本から示すことを試みた。そして同時に、現在進行形である復興を強調するために、西日本から私達が試みている「東北遠征団」による子どもワークショップ、南三陸での標本収集・提供などいくつかの取り組みについても展示した。

さらに、この展示をきっかけとして歴史資料ネットワークと西日本自然史系博物館ネットワークの間で修復技術の交流などの機会を持つこともできた。

町のアイデンティティを形成する鳥羽源藏コレクションは自然史資料の文化財的価値について一石を投じた。この件については東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会公開討論会報告書でものべたところだが、博物館界内部での議論と同時に市民にその認知を浸透させていくことが重要だと考えている。

### ■特別陳列ミュージアムウィークス大阪2013 もっと！お宝大公開

「粉川昭平コレクションー植物化石研究の実物教科書ー」

会 期：平成25年10月29日（火）～12月8日（日）

会 場：博物館本館2階 イベントスペース

主 催：大阪市立自然史博物館

概 要：大阪市立美術館で開催される「大阪の至宝」展にあわせ、10月29日（火）より12月8日まで「ミュージアムウィークス大阪2013：もっと！お宝大公開 粉川昭平コレクションー植物化石研究の実物教科書ー」を開催した。

展示内容：粉川昭平氏の経歴・研究を紹介するとともに、粉川コレクションの中から、代表的なもの、特徴的なものを展示した。

粉川昭平氏の経歴・写真、ミツガシワ化石、圧縮化石、遺跡産出の植物遺体、現生種子・果実標本、栽培植物の標本、枝、著作、粉川昭平氏の講義を聞いた学生のノートなど。

また、コラム展示として、宇井縫藏 鮮苔類コレクションを展示した。

出版 物：大阪てくてくミュージアムGUIDE2013「コレクション・コレクター物語」

粉川昭平コレクション 植物化石研究の実物教科書 (塚腰 実)

ふむふむコラム コレクションはめぐる (佐久間大輔)



図1. 会場の様子



図2. 現生の球果・果実・種子コレクション

### ■ミニ展示「植物標本のタネは地域の自然を救う!?」～時を越えて発芽する植物標本のタネ～

会 期：2014年3月15日（土）～5月31日（土）

会 場：自然史博物館本館 2F 第5展示室出口

主 催：自然史博物館

監 修：新潟大学教育学部 植物学教室

概 要：大阪市立自然史博物館の標本庫には、都市化などによって現在では失われてしまった植物の標本を数多く保管している。今回の展示では、志賀元学芸員の科学研究費による研究成果を元に、これらの植物標本に残されたタネ（種子）に注目し、博物館標本を用いた新しい生物保全の可能性について、植物標本と標本から撒きだしたタネ、実際に発芽した芽生え（生品）や写真などをミニ展示を通して紹介した。

### ■ミニ展示「270万年前に出現したクロマツ～日本列島に生育するクロマツの起源と歴史を解明～」

金沢大学と共同で行ったマツ属の化石研究において調査したクロマツの化石とオオミツバマツの化石（いずれも三木茂コレクション）をナウマンホールにて、平成26年1月25日（土）～5月25日（日）に展示した。（巻頭8ページ参照）

## IV. 館外での展示

市立図書館・市民学習センターなどの依頼に応じて、また特別展の広報を兼ねて、小規模な移動展示を行なっている。

### ■出張！自然史博物館「いきもの いっぱい 大阪湾～フナムシからクジラまで～」

場 所：大阪市立中央図書館 1階エントランスギャラリー

期 間：平成25年6月7日（金）から6月19日（水）

#### 図書&パネル展示「海の生き物」展

場 所：大阪市立中央図書館 2階エレベータ前

期 間：平成25年6月21日（金）から9月18日（水）

#### 地域図書館展示

4月2日～5月31日	東淀川図書館
4月19日～5月15日	浪速図書館
4月19日～6月19日	此花図書館
5月17日～7月17日	都島図書館
6月1日～7月31日	西成図書館
6月21日～8月14日	阿倍野図書館
7月19日～9月18日	東成図書館
8月1日～9月18日	東住吉図書館
8月16日～9月29日	住之江図書館
9月20日～10月16日	北図書館および旭図書館

### ■THE 世界一展

2013年4月に開業した「グランフロント大阪・ナレッジキャピタル」にて開催された「魅せますニッポンの技と人」をテーマとしたイベント“THE 世界一展”恐竜ウィークにおいて、以下の標本を展示した。

アロサウルス頭骨、コエロフィシス、恐竜の卵化石、キカデオイデアの幹化石（触れる標本）、ザマイテスタイロフィルム、アロウカリア、サピンドプシス、ヴィブルニフィルム、果実化石。

恐竜ウィークには、林学芸員と塚腰学芸員がトークを行った。

期 間：平成25年7月14日（水）～7月20日（火）  
（恐竜ウィーク）、7月29日（月）～8月11日（日）

会 場：ナレッジキャピタル・イベントラボ（グランフロント大阪・ナレッジキャピタル内 The Lab B1階）

### ■「生物多様性協働フォーラムいのちにぎやか、文化ゆたか。～いのちと文化の共鳴をよみがえらせる～」

月 日：2013年12月21日

場 所：京都市京都劇場

主 催：生物多様性協働フォーラム事務局

共 催：京都府、京都市

協 力：当館他

概 要：京都の文化と生物多様性保全をテーマとし

た講演会とパネルディスカッション

大阪市立自然史博物館及び大阪自然史センターが活動紹介をパネル出展、また佐久間学芸員がパネルディスカッションコーディネーターとして登壇した。

## V. 「たんけんクイズ」

自然史博物館は、大阪市内の他の社会教育施設と同様、平成7年より小中学生の入館料を無料としている。このような状況の中で、展示をよく見ることによって、学習効果をいっそう高めることをめざし、平成8年7月より「自然史探検すくらっちクイズ」を、実施してきた。入館時、小中学生に各1枚手渡し、5問中正解4問以上の場合には、絵はがきまたは昆虫カードを記念品として配布している。ただし学校団体での見学は対象外としている。

問題のカードは各5問で、当初は10種類であった。平成16年7月からは、あらたに低学年（小学1～3年生）向けに4種類のカードを制作し配布を始め、従来のカードは4年生～中学生向けとした。

さらに平成17年7月以降の土・日曜日には、専任スタッフによるカードの配布を開始した。その際カードに自由に書き込みできる用紙を添付し、毎月テーマを決めて参加者に絵を描いてもらい、その絵を館内に掲示するなどした。

平成18年3月からは名称を「たんけんクイズ」にあらためた。平成24年度の春には、第5展示室の問題を入れるなど、改訂を行った。

## VI. その他

- (1) 昨年続き、「家族でお出かけ節電キャンペーン」として、7月20日（土）～9月29日（日）に特別展観覧料を割引料金（大人：450円、高大生：270円）とした。
- (2) 「関西文化の日」の11月16日（土）ならびに17日（日）を無料開放とした。
- (3) 3月24日（月）、31日（月）、4月7日（月）を臨時開館し、特別展「恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス」では、午前11時から学芸員によるギャラリートークを開催した。

# 普及教育事業

## I. 各種普及教育活動

多様な博物館利用者とその要望に応えるため、次のような各種の普及行事を行っている。観察会のテーマの多様化と参加者数の増加にともない、館外からも講師を招いている (\*\*印)、また、市民の社会奉仕活動への参加意欲を満たし、よりきめの細かい普及教育活動を行うために、ボランティアによる補助スタッフを野外行事に導入している (\*印)。補助スタッフ制度は、下見を兼ねた事前研修や学習会等をそれぞれの行事について行うのが特徴で、補助スタッフにとっては少人数制の中身の濃い学習の場として活用されている。各種行事は、こうした多数の方々の理解と協力によって支えられている。

2007年度から、野外観察会や野外実習・室内実習などの行事を、特定非営利活動法人大阪自然史センターとの共催で実施している。自然史センターとの連携により、柔軟な講師配置、補助スタッフによるサポート体制の拡充、より充実した教材の提供を行うことが可能になり、行事の質の向上につながるものと考えている。

以下に各行事の記録を、行事名、実施場所、実施月日、参加者数の順に略記する。なお、各種特別展に関連して実施した普及行事はここでは略記するか、省略した。行事の詳細は展覧事業30ページの各特別展関連事業の項を参照のこと。

### ■やさしい自然かんさつ会

これまでに自然史博物館の行事に参加したことのない人を主な対象に、自然のおもしろさを野外で直接体験してもらい、自然に親しむ糸口をつかんでもらうことをねらいとした行事。普及行事の中では初級向け。独自の広報用チラシを作成し、区役所、社会教育施設および当館内で配布し、野外活動に参加したことのない新しい層の開拓に努めた。

定員を超過している行事もあるが、自然史センターとの共催に伴い外部講師を増員し抽選率を緩和した行事もある。また、補助スタッフの導入により、安全と教育効果の両面を確保しながらも大人数での行事を行うことが可能になっている。

「レンゲ畑のいきもの」*、** 高槻市		
4月29日	申込103名(当選103名)	参加者79名
「海べのしぜん」 岬町長崎海岸		
5月26日	申込270名(当選270名)	参加者176名
「はじめてのキノコ」 東大阪市		
6月30日	申込242名(当選150名)	参加者94名
「ツバメのねぐら」* 奈良市		
8月10日	申込288名(当選288名)	参加者149名

「バッタのオリンピック」** 藤井寺市石川～大和川		
10月6日	申込129名(当選129名)	参加者96名
「化石さがし」 泉佐野市		
12月2日	申込325名(当選173名)	参加者151名
6テーマ 6回実施	延べ参加者数745名	

### ■地域自然誌シリーズ

大阪をとりまく地域を歩き、その地域の自然をさまざまな分野の観点から観察し、自然の特徴とそこを利用する人との関わりについて総合的に考えることを目的とした行事。普及行事の中では中・上級向け。都市の自然を調査することを目的としたプロジェクトUが2011年度より開始されており、それと関連して、行事の実施場所も都市公園が中心となった。

「貝掛海岸」 阪南市		
5月12日	申込77名	参加者60名
「金剛山」 千早赤阪村		
9月22日	申込37名	参加者32名
「男里川河口干潟」 阪南市		
10月6日	申込61名	参加者44名
3テーマ 3回実施	のべ参加者数136名	

### ■テーマ別自然観察会

自然の中の諸事象からテーマと対象をしぼって観察することで、自然に対する理解をより深めようとする行事。学芸員の専門分野を基礎にしたテーマが多く、さらに掘り下げた学習機会の提供を可能にしている。

「春の渡り鳥をさがそう！」		
4月13日	申込36名(当選36名)	参加者30名
「テントウムシ」		
4月28日	申込95名(当選52名)	参加者39名
「はじめてのバードウォッチング ～春の渡り鳥を見つけよう!～」		
4月29日	申込71名(当選71名)	参加者61名
「岩石の風化と土砂の生産」		
5月5日	申込34名(当選34名)	参加者28名
「生駒山地をつくる岩石」		
6月2日	申込78名(当選60名)	参加者44名
「高槻のカエル探し」		
6月23日	申込109名(当選71名)	参加者52名
「夏のキノコ」		
7月13日	申込38名(当選38名)	参加者25名
「秋の干潟の渡り鳥をさがそう！」		
9月8日	申込52名(当選52名)	雨天中止
「秋のきのこ」		
9月16日	申込34名(当選34名)	雨天中止
「アカマツ林のキノコ」		
10月27日	申込46名(当選29名)	参加者19名
「街中で地学散歩」		

10月27日 申込86名（当選86名） 参加者67名  
12テーマ 10回実施 のべ参加者数389名

### ■プロジェクトU都市の自然の調査

2011年度から都市の自然の調査プロジェクト（プロジェクトU）が始まった。これは市民参加で都市の自然を調べる企画で、2014年の夏の特別展を目指して取りまとめを行う。調査の研修もしくは、調査の一環としての観察会を実施した。

「北河内地域の坂から見る平野の成り立ち」

4月7日 参加者16名

「都市で繁殖する鳥をさがそう」

4月7日 参加者22名

「平野の地下の地層の調べ方」

4月7日 参加者18名

「市街地に残る田んぼのカエル調査」

4月7日 参加者25名

「アリの調べ方」

4月7日 参加者14名

「ボーリング資料の見方」

6月22日 参加者22名

7月27日 参加者13名

8月24日 参加者12名

9月28日 参加者9名

10月26日 参加者11名

11月23日 参加者8名

2月22日 参加者10名

3月22日 参加者23名

### ■室内実習

生物・化石などを材料に、博物館に備え付けの研究機器を活用しながら、野外では行なえない分析的な観察・実習を体験することにより、自然に対する理解をより深める行事。普及行事の中では上級向け。

「鳥の調査の勉強会」

4月6日 申込11名（当選11名） 参加者6名

「昆虫標本の作りかた」\*

7月13日 申込41名（当選41名） 参加者35名

「昆虫標本の作りかた」\*

7月14日 申込53名（当選53名） 参加者40名

「バイコマ作り」\*

8月10日 申込66名（当選36名） 参加者31名

「ホネの標本の作りかた」\*

8月11日 申込79名（当選36名） 参加者32名

「樹脂包埋標本の作製」

10月27日、12月1日 申込15名（当選15名） 参加者8名

「コケ」

12月15日 申込22名（当選22名） 参加者18名

「解剖で学ぶイカ・タコの体のつくり」

2月2日 参加者17名

「植物と植物化石」\*

2月16日 参加者10名

「魚のからだ」

2月23日 参加者11名

9テーマ 11回実施 のべ参加者数208名

### ■長居植物園案内

植物園案内では現在、携帯型実体顕微鏡による観察も取り入れて行っている。参加者が多いため、このような観察の手引きには、補助スタッフの存在が不可欠となっている。また補助スタッフにより、自主的に行事での学芸員の解説の記録が発行され、参加者の学習効果を高めることができた。6、1、2月に他分野の学芸員とのコラボレーションによるスペシャル編の行事実施も行った。

4月6日\* 参加者22名

5月4日\* 参加者56名

6月1日（植物と昆虫）\* 参加者74名

7月6日\* 参加者84名

8月3日\* 参加者69名

9月7日\* 参加者52名

10月5日\* 参加者61名

11月2日\* 参加者76名

12月7日\* 参加者79名

1月11日（マツボックリと木の実）\* 参加者117名

2月1日（木の実と鳥）\* 参加者118名

3月1日\* 参加者60名

12回実施 のべ参加者数868名

### ■長居植物園案内：動物・昆虫編

季節の変化に応じた身近な都市公園の自然を知ること、身の回りの自然をより知ってもらいたいがある。原則として毎月第3土曜日に開催した。普及行事の中では初・中級向け。

「春の渡り鳥」

4月27日 参加者61名

「クマバチの巣をさがせ！」

5月25日 参加者64名

「初夏の昆虫」

6月22日 参加者72名

「大池の生き物」

7月27日 参加者37名

「夏の昆虫」

8月24日 雨天中止

「秋の渡り鳥」

9月28日 参加者46名

「ダンゴムシ・ワラジムシ」

## 普及教育事業

10月26日 「秋の羽根拾い」	参加者32名
11月30日 「公園の冬鳥」	参加者44名
1月25日 「冬の羽根拾い」	参加者55名
2月22日 「花に来る鳥」	参加者56名
3月29日	参加者68名
10回実施 のべ参加者数535名	

### ■自然史オープンセミナー

自然史科学に関する話題を市民に普及する講演会。当館学芸員が自らの調査・研究の成果に基づいて行ったほか、外部講師も招いた。当館集会室で原則として毎月第3土曜日の午後1時～2時30分に開催。特別展に関連して夏季は大阪湾に関するセミナーを3回実施した。

「大阪の都市の自然」	
4月20日	参加者48名
「ゴケグモ類の現状と問題」(関西クモ研究会、大阪市立自然史博物館友の会との共催シンポジウム)	
5月18日	参加者91名
「長崎県五島の自然」	
6月15日	参加者52名
「いきもの いっぱい 大阪湾～その秘密～」	
7月20日	参加者49名
「大阪湾の魚たち」	
8月17日	参加者43名
「大阪湾の渚の自然 - その原風景と変遷」	
9月21日	参加者72名
「恐竜学最前線：ステゴサウルスの板と棘はなんのため？」	
10月19日	参加者47名
「大阪の都市の自然」	
12月21日	参加者40名
「菌類学講座2014」	
1月18日	参加者80名
「断層や褶曲を調べる - 野外で観察する、実験で考える -」	
2月15日	参加者32名
「時を越えて発芽する博物館標本のタネ」(志賀 隆)	
3月15日	参加者50名
11回実施 のべ参加者数604名	

### ■ジオラボ

普段はくわしく観察するチャンスが少ない化石や岩石、鉱物、地層などについて、展示解説、簡単な実験、顕微鏡観察などの方法により体験学習してもらう行事。当日の来館者に気軽に参加してもらえよう、展示室内や展示室に隣接した場所で行っている。普及行事の

中では初・中級向け。

「ミクロの化石」*	
4月13日	参加者19名
「葉っぱの化石の作り方」*	
5月11日	参加者24名
「ボーリング資料を使って地質断面図を描く」*	
6月8日	参加者25名
「海の砂を見てみよう」*	
7月13日	参加者31名
「川原の石ころ観察」*	
8月10日	参加者41名
「古生代に生きていた巨大な植物」*	
9月14日	参加者32名
「液状化を実験で探ってみよう」*	
10月12日	参加者43名
「砂粒の大きさ見本をつくろう」*	
11月9日	参加者30名
「恐竜の年齢を調べよう」*	
12月14日	参加者80名
「防災地図を作ってみよう」*	
1月11日	参加者37名
「アロサウルスの頭骨を近くで観察して、肉食恐竜の生態について考えよう」*	
2月8日	参加者42名
「幹の化石」*	
3月8日	参加者25名
12回実施 のべ参加者数429名	

### ■夏休み自由研究相談会\*

夏休みに自然をテーマとした自由研究に取り組みたいが、方法がわからない、対象を決めかねている、といった悩みをもつ小・中・高校生に、学芸員がアドバイスを行う行事。できるだけ事前申込を呼びかけたが、当日参加も受け付けた。2012年度は自由研究の展示を博物館で実施することとし、その募集も行った。

日 時：7月21日(日)

場 所：自然史博物館 ミュージアムサービスセンター  
相談件数：26件(事前申込21件、当日受付11件)

### ■標本の名前をしらべようー標本同定会ー\*\*

児童生徒が夏休みに採集して作成した標本の名前を教える行事。自然物の名前を知ることにより、自然をより身近なものとしてとらえ、探求心を育てることをねらいとしている。ただし、子供だけでなく、大人の参加者も多い。館外から多数の専門家の参加を得て、毎年8月下旬に実施している。本年度は8月25日に実施した。

件 数：55件

参加者数：100名



なお本事業の効果を高めるため、夏休みの始めに「夏休み自由研究相談会」（7月21日）も開催している。

### ■音楽と自然のひろば

ファミリー層を主体とした市民に、自然に触れ、親しんでもらう機会を作ることを目的として、大阪市音楽団による演奏と自然史博物館学芸員のミニトークの実施を企画した。大阪市における文化施策と教育の連携事業として実施した。

日 時：4月14日（日）「春のおでかけコンサート2013」

会 場：博物館本館 玄関ポーチ

参加者：1400名

日 時：10月6日（土）「音楽と自然のひろば」

会 場：博物館本館 玄関ポーチ

参加者：800名

### ■講演会・シンポジウム

学会などと共催した講演会やシンポジウムを開催し、多数の市民に聴講いただき、好評を得た。特別展講演会と友の会総会招待講演は、それぞれ別項に記した。

第30回地球科学講演会「大阪平野の地盤環境と地盤災害」 5月12日（日） 135名

日本博物館協会研究協議会 1月30日（木）・31日（金） 65名

### ■はくぶつかん・たんけん隊\*

裏方（実験室や収蔵庫など）を中心とする館内見学。普段は見ることのできない博物館の施設を学芸員の具体的な仕事内容とともに紹介する。博物館を身近で親しみやすいものとして感じ、自然史についての興味を育てることをねらいとしている。昨年度からタイトルを変更し、対象もこれまでの小学生から小学生～中学生に広げた。本年度は申込が多かったため、両日とも午前・午後の部を設け、合計3回実施した。また、参加者の家族（保護者・未就学児）向けに、参加者とは別枠でバックヤードショートツアーを行った。

1月12日（日）～13日（月・祝）

申込150名

参加者123名

### ■ジュニア自然史クラブ

従来から普及行事の参加者を見ると、小学生連れの親子の参加は多いものの、中学生の参加は少なく、さらに高校生や大学生の参加がほとんど見られないことが指摘されていた。それを克服すべく、高校の教員との懇談（1999年2月20日）を持った中で、高校生は小学生連れの家族や年輩と一緒にの行事には参加しないとの指摘を受けた。

それらをふまえて、2000年から中学生・高校生を対象にした「ジュニア自然史クラブ」を開始している。単に中高生向けの行事を実施するだけでなく、クラブ組織とすることによって、学校外の友人と出会う場と

なることと、継続的な参加を意識した。

### ●部員の募集

博物館の通常の行事案内で、ジュニア自然史クラブの行事を告知し、部員を募集した。また、前年度の部員にも引き続き行事案内を送付した。

### ●ジュニア自然史クラブへの参加者

一度申し込んだ中高生を部員とし、申込者にはその後も、行事の案内を直接送ることとした。2014年3月31日現在の部員数は■名。

### ●2013年度の活動内容

当初は、2ヶ月に1度のペースでの行事を学芸員が企画した。その他に、部員からの希望に応じて、行事を追加した。

「ミーティング」*	4月3日	34名
「カエル探し」*	5月6日	26名
「昆虫採集 摂津峡」*	6月9日	17名
「川遊び・スッポン探し」*	7月15日	19名
「ミーティング」*	8月6日	17名
「キノコ狩り」*	9月1日	雨天中止
「干潟のゴカイとシジミ探し」*	10月27日	9名
「動物園で羽根ひろい」*	11月3日	8名
「ミーティング・フェスティバルの準備」*	11月10日	11名
「化石探し」*	12月16日	10名
「河原で自然観察」*	1月6日	10名
「金剛山で足跡さがし」	2月2日	雨天中止
「鉱物採集」	3月26日	雨天中止

企画12回、実施8回、参加者数のべ161名

### ■ビオトープ

バックヤードを利用して、ビオトープ作りをし、どんな生き物が集まってくるのか、継続的に調査している。ビオトープ作りに関心のある方、自然に興味がある方、体を動かすことが好きな方など、一緒に作業や調査をする方を募集して行った。原則として毎月第3土曜日に実施した。

4月20日	参加者24名
5月18日	参加者66名
6月15日	参加者43名
7月20日	参加者35名
8月17日	参加者20名
9月21日	参加者18名
10月19日	雨天中止
12月15日	参加者26名
1月18日	参加者16名
2月15日	雨天中止
3月15日	参加者46名

9回実施 のべ参加者人数294名

### ■子ども向けワークショップ

未就学児や小学生、親子連れの来館者にも、楽しみながら展示の内容を理解していただくために、子ども向けワークショップを2005年度から実施している。テーマは常設展示に関わるものや、特別展関連のものなどから、ワークショップスタッフと担当学芸員で決定している。

2007年度より、行事をより円滑に進めるために、18歳以上の学生からサポートスタッフを15～20名募集し、研修を実施したうえで、2ヶ月に1回程度プログラムに参加してもらっている（年間登録制）。サポートスタッフには、学芸員やワークショップスタッフと共にオリジナルプログラムを製作、3月の「ボランティア祭り」において実施してもらった。

特別展関連行事として実施したワークショップについての詳細は展覧事業31ページからの各特別展の関連行事の項を参照のこと。

#### 「クジラスタンプラリー」

4月28日・29日 参加者745名

#### 「セミ・はねもようストラップ」

7月13日・14日・15日 参加者122名

#### 「キノコづくり」

9月14日・15日・16日 参加者198名

#### 「くらべっこ！ドングリ」

11月24日・25日・12月15日・16日 参加者130名

#### 「キラキラぴかぴか石さがし」

12月14日・15日 参加者130名

#### 「砂・つぶ・すな絵」

1月18日・19日・2月15日・16日 参加者183名

#### 「はくぶつかん 子どもまつり」

3月22日・23日 参加者168名

28回実施 のべ参加者数2840名（特別展関連含む）

## II. 教員・観察会指導者向け支援プログラム

2002年度からの学校完全週5日制への移行に加え、新しい指導要領で「総合的な学習の時間」への取り組みがはじまったことから、学校教育関係者による博物館など社会教育施設の利用が高まってきている。このため、各校園において「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、教員対象の「総合学習向け研修プログラム」を企画した。また、対象は学校教員に限らず、教員を目指す大学生、自然観察指導員などに門戸を広げて実施している。

#### 「植物園案内・春の遠足下見編」

4月5日・9日 参加者23名・5名

「教員のための博物館の日」

8月7日

参加者128名

## III. 博物館実習

以下の日程で博物館実習を実施し、本年度は以下の19大学、のべ32名の学生を受け入れた。

### 一般実習コース

夏 期：9月4日～9月8日 15名

杉浦恵美・藤井貴子（京都造形芸術大学）、生田絃杜（大阪府立大学）、古田さゆり・小山由真（琉球大学）、宮井伽奈子・増田成美・杉江里紗（奈良女子大学）、山田絃子（広島大学）、近藤正典（静岡大学）、石田友紀・高良真佑子（近畿大学）、東浦加奈（奈良教育大学）、伊藤和矢（高知大学）、坂下雄一（宝塚大学）

秋 期：10月16日～20日 15名

彦坂 悠（東京農業大学）、北川花穂（大阪府立大学）、中川祐介（神戸大学）、羽根沙苗（京都府立大学大学院）、開藤菜々子（大阪芸術大学）、白山あす華・片岡智絵（追手門学院大学）、加藤未来・柴田あかり（奈良女子大学）、中村佑介（龍谷大学）、村上ほのか・山口大志（近畿大学）、高瀬ななみ・永田実咲（奈良教育大学）、林 直樹（京都橘大学）

### 普及教育専攻コース

冬 期：1月11～13日・25～26日 2名

俵 百合（大阪府立大学）、川久保奈々（大阪教育大学）

## IV. 各種研修

### ■補助スタッフ研修

1995年度から友の会による補助スタッフ制度を導入している。補助スタッフ事業の運営は当館の事業の最もよき理解者である「友の会」に委託し、会員の中から募集を行なっている。行事实施に必要な知識・技術会得のために、行事のテーマと内容に応じて当館学芸員による事前研修、勉強会、打ち合わせ、企画会議、事後研修等を行なった。補助スタッフは、こうした研修を通して自身の学習に積極的に取り組み、その成果を社会に還元しようとする方々であり、当館の普及事業の一翼を支えている。行事内容に即した多様な興味を反映し、補助スタッフ参加者も広範になっている。このことは、補助スタッフ研修が「魅力ある学習の機会」として認知されていることを示し、この意味でも改めてこの事業が当館の普及活動の大きな柱となっており、当博物館の普及教育プログラムとして重要な位置を占めていることがわかる。

## V. 学校教育への対応

博物館には学校の授業の一環として、多くの生徒、児童、園児が訪れている。来館当日だけではなく、事前学習・事後学習において、博物館の展示や資料を教材にして授業が行われている。また、博物館の訪問とは別に、博物館の展示や資料は授業の教材として活用されている。

博物館には、収集された標本・資料と学芸員の専門的な知識を基に、学校教育活動を多面的に行なえる素材がたくさんある。この多面的な教育活動をより充実させるためには、博物館と学校、それぞれの特徴を活かして、双方が連携することが重要である。

これまで博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、学校の先生と情報交換をしながら、様々な素材を準備してきた。今後も、博物館・学校の双方が連絡を密にして、新たな博物館と学校の連携の方法を創り出す必要がある。

### 1. 体制

学校と博物館の連携を中心とした普及教育事業を担当する教育スタッフ1名を配置している。教育スタッフと学芸員数名によって、委員会(TM (Teachers-Museum) 委員会)を組織し、学校と博物館の連携について検討し、連携の推進を図っている。

### 2. 連携のための事業

博物館と学校が連携して多面的な教育活動を実現できるように、以下の様々な事業を行っている。

#### <児童・生徒向け事業>

##### ・博物館マップ・ワークシートの配布：

見学に便利な博物館マップとワークシートを作成し、学校で印刷して持参できるようにしている。博物館マップは小学校低学年・高学年の2種類、ワークシートは小学校低学年・高学年、中学校の3種類がある。特別展「発掘！モンゴル恐竜化石展」、「いきものいっぱい 大阪湾」では、中学生・高校生向けのワークシートを作成し、春夏の課題として学校へと案内した。

##### ・博物館での授業（学芸員によるレクチャー）と質問対応

当館を訪れた児童・生徒に対して、各分野の学芸員が、設定したテーマに基づく展示の解説、学芸員レクチャー、質問対応などを行なっている。テーマによっては、展示だけでなく長居植物園の見学、収蔵標本の鑑賞、実習室を使った実習などを組み込んでいる。実施に当たっては、先生からの要望を基に、先生と学芸員の十分な事前打ち合わせを行い実施している。児童・生徒が博物館に来られない事情があ

る場合は、学芸員が出向いて授業を行っている。（長居植物園は除く）。

2013年度は保育所・幼稚園 3件、小学校 5件、中学校 4件、高校 5件、大学 2件合計19件の授業を行った。

2013年度の授業例：「植物の進化」、「動物の化石」、「花のつくりや不思議」、「虫の体」「地震・津波・断層について」など。

##### ・職場体験学習・就業体験（インターンシップ）の受け入れ

受け入れの運用方針を定め、受け入れている。運用方針はホームページに掲載している。2013年度は、大阪府内の中学校7件（7人）を受け入れた。

#### <先生向け事業>

##### ・遠足下見時の説明

遠足等の下見に来た学校園の先生に対して、教育スタッフおよび博物館警備員が、博物館見学についての説明を行っている。施設利用の手続きや注意事項、見学の見所などの博物館見学の概要説明に加え、学校向け貸し出し資料や学校向けの博物館事業の紹介も行っている。学芸員によるレクチャーなどのリクエストの受付、見学やレクチャーについて提案するなど、学校と博物館をつなぐ窓口となっている。また、電話等による問い合わせにも対応している。

春の下見集中時に合わせ、隣接する長居植物園の教員向け案内行事を行い、遠足で来るときの植物観察の参考にしてもらえるようにしている。（40ページ参照）

下見の時には、見学時や事前学習に役立つ様々な資料を配布している。配布している資料：団体見学の案内、貸し出し資料の一覧、博物館と学校連携の紹介資料、子ども向け館内マップ（小学生低学年用・高学年用）、ワークシート（中学生用、小学低学年用・高学年用）など。

##### ・資料の貸し出し

見学の事前学習、先生の教材研究のために、博物館の出版物、ビデオ、標本キット（授業用に準備された標本と解説資料）を貸し出している。それらの内容、貸し出し方法はホームページに掲載している。

2013年度は、博物館の出版物等書籍9件、ビデオ・CD-ROM・DVD12件、紙芝居10件、標本キット44件の貸し出しを行った。

##### 貸出資料

博物館の出版物：特別展展示解説書、ミニガイド、博物館叢書シリーズ、「ナガスケ」紙芝居セットなど。

ビデオ・CD-ROM・DVD：蝶・蛾の世界、昆

虫の化石、都市の自然など。

標本キット：川原の石ころ、ポーリングコア、セミ、テントウムシ、ドングリ、ホネキット（肉食・草食動物の頭骨、アライグマの全身骨格）など。

### ・教員向けの研修

小中学校、高校、特別支援学校、教員を目的としている大学生、総合的な学習の時間に関わる活動をされている方、自然観察会の指導している方を対象に研修を行っている。2013年度は2回開催した（40ページ参照）。これら以外に、教育研究会等からの依頼教員研修を12件行った。

### ・情報誌「TM通信」の発行とTMネットワーク (Teachers-Museum Network)

先生と博物館の交流を深め、情報を交換することを目的としたTMネットワーク (Teachers-Museum Network) をつくっている。118名が登録しており、電子メールや郵送により、「総合学習の支援プログラム」をはじめ、特別展、自然観察会、実習、講座など、学校の先生に役立つ博物館の行事を掲載した情報誌「TM通信」を4回発行した。

### <その他>

### ・教員のための博物館の日 in 大阪市立自然史博物館の実施

国立科学博物館が全国的に進めている事業である「教員のための博物館の日」を8月7日に行った。ガイドツアー・体験型のプログラムなどさまざまな教員向け研修を実施した。大阪市・大阪府の研修の一つとして、大阪教育大学が実施するコアサイエンスティーチャーの授業としても位置づけ、また、他館（あくあびあ芥川、海遊館、天王寺動物園、国立科学博物館など）からもブース出展してもらい、128名の参加があった。

プログラム 学芸員と一緒に歩く解説ツアー1：長居植物園で学ぶ植物の進化、学芸員と一緒に歩く解説ツアー2：特別展「いきもの いっぱい大阪湾」で学ぶ生き物と環境のつながり、鹿沼土と赤玉土ーホームセンターで買える地学教材ー、昆虫の体の不思議、ホネ見て考える肉食動物と草食動物（図3）、セミはね模様ストラップ作りなど。

教員のための博物館の日はJSPS科研費25350411の助成を受けて実施した。

### ・大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2013年度の大阪府の高校の生徒生物研究発表会を博物館で実施した。

### ・教科の単元と博物館の展示の対応関係の紹介

小学校の生活科・社会科・理科、中学校の社会科



図3. 「ホネ見て考える肉食動物と草食動物」の様子

（地理・歴史・公民）・理科（第2分野）の指導要領における学習内容と博物館の展示の対応を博物館ホームページで公開し、学校での事前学習、事後学習の資料としている。

### ・ホームページでの情報提供

博物館ホームページに「学校と博物館」のページを開設し、上記の学校向けの博物館事業についての情報提供を行っている。ワークシートやマップなどの配布資料はホームページからダウンロードできるようにし、学校の博物館利用計画に役立つ情報を提供している。

### ・ミュージアムサービスセンターでのスクールサポート

自然史博物館の国会1階の展示室に面したエリアに、ミュージアムサービスセンターがあり、スクールサポートの場として位置づけられている。学校の先生の相談に応じたり、貸出資料（標本キット、ビデオ・CD-ROM・DVDなど）、授業に役立つ博物館の出版物などを展示・紹介している。

・今年度は平成25年度笹川科学研究助成を受け、ポーリングコアを貸し出し標本として運用し、その教育効果の検証を行った。

## VI. 大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は、博物館を積極的に利用して、自然に親しみ、学習しようとする人たちの会である。友の会の会計年度は1～12月で、博物館とは独立した組織として運営されている。2001年からは特定非営利活動法人大阪自然史センターの事業として運営されており、その活動の輪を広げている。

友の会では、博物館主催行事とは別に行事を41回の行事を実施し、延べ2045名の会員とその家族が参加し

た。友の会行事では、自然観察と同時に会員相互の交流・会員と評議員や学芸員の交流が行われている。

### ■庶務報告

- 2013年度の友の会会員数は1723名（1年会員1447名、4月会員85名、半年会員88名、10月会員42名、賛助会員61名）であった。

※2013年賛助会員（五十音順、敬称略）

麻野 浩、浅葉 清、安部みき子、天野雅雄、石井久夫、石田美禰子、伊藤英雄、猪野 守、岩佐果林、浦野動物病院、大岩 誠、大久保幸子、追手門学院中学校、大宮文彦、岡和田齊、小原真衣子、加藤江理子、川端優太、粉川正博、小郷一三、小林美佐子、小山 栄、佐々木万里子、佐竹敦司、佐藤興治、清水直樹、釋知恵子、白川勝正、高橋明子、高橋弘志、瀧川久子、田代 貢、田邊一三、田村芙美子、土屋慶丞、寺田雅章、内貴章世、中井悦子、中井紗織、中尾はな、西尾秀雄、西川喜朗、西村静代、丹波三千代、野村典子、樋渡諦児、正木信行、益田晴恵、松下宏幸、宮城達雄、三宅則子、宮武頼夫、向井 均、本村明彦、山下良寛、山西良平、和田 岳、匿名 4名

- 5回の定例評議員会を開催し、友の会の事業、庶務などについて審議した。
- 事業ワーキンググループで9回の事業に関する議論を行い、評議員会に提案を諮った。事業ワーキンググループメンバーは評議員だけでなく、一般会員からも募っている。

### ■事業報告

- 印刷物の刊行：Nature Study誌59巻1号（通巻704号）～12号（通巻715号）を発行した。また2月号の付録として「友の会のしおり」を発行した。
- 大阪バードフェスティバル（11月16～17日）に出展し、会員から応募した鳥の羽の展示、鳥のバッジ作り、友の会の紹介、入会の案内を行った。
- 行事を44回計画し、うち41回を実施した。延べ2045名の参加があった。

#### (1) 友の会総会2013

1月27日（日） 230名

#### (2) 月例ハイキング（10回576名）

1月20日（日）大和民俗公園から矢田山遊びの森へ 50名

2月17日（日）早春の生きもの探し 76名

3月18日（日）河内長野の温泉 82名

5月19日（日）飯盛山から大阪湾を眺望 23名

6月16日（日）友が島の哺乳類さがし 81名

7月21日（日）東お多福山で草原の観察と大阪湾を眺望 41名

8月17日（土）ウミホテルを見よう 102名

9月22日（日）飯盛山から大阪湾を眺望：再挑戦 25名

11月24日（日）芥川で川虫観察 50名

12月15日（日）奈良大文字火床 46名

#### (3) 加太・城ヶ崎の海藻を食べよう！

3月31日（日） 71名

#### (4) 友の会まつり

友の会春祭り

4月21日（日）海からの贈り物・人からの落とし物2013 雨天中止

友の会秋祭り

10月20日（日）海からの贈り物・人からの落とし物2013 雨天中止

#### (5) 友の会限定！収蔵庫見学ツアー

2月10日（日） 40名

2月11日（月・祝） 44名

#### (6) 友の会の夕べ

7月20日（土） 60名

#### (7) 友の会合宿

6月1日（土）－2日（日）京都府大江山 34名

7月26日（金）－28日（日）五島福江島 51名

9月15日（日）－16日（月祝）赤穂千種川河口 53名

#### (8) 鞆公園のセミのぬけがら調べ

9月7日（土） 68名

#### (9) 博物館に泊まろう！自然史ナイトミュージアム

4月27日（土）－28日（日） 81名

#### (10) シカがいるかもナイトハイク

6月29日（土）－30日（日） 52名

#### (11) 海の向こうの見聞録発表会、友の会懇親会

12月27日（金） 89名

#### (12) 裏庭ビオトープの日（10回328名）

1月19日（土） 30名

2月16日（土） 28名

3月16日（土） 20名

4月20日（土） 24名

5月18日（土） 66名

6月15日（土） 43名

7月20日（土） 35名

8月17日（土） 38名

9月21日（土） 18名

12月21日（土） 26名

#### (13) 鳥類フィールドセミナー（10回268名）

## 普及教育事業

---

1月19日（土）	21名
2月16日（土）	27名
3月16日（土）	32名
4月7日（日）	24名
4月20日（土）	42名
5月11日（土）	22名
8月3日（土）	17名
8月24日（土）	15名
9月21日（土）	40名
11月23日（土）	28名

### ■役員（2013年度）

会 長：西川喜朗

副 会 長：谷田一三、山西良平

評 議 員：板本瑤子、稲本雄太、浦野信孝、河合正人、  
橘高加奈子、小林春平、高田みちよ、田代  
貢、鍋島靖信、西澤真樹子、花岡皆子、  
弘岡拓人、藤江隼平、堀田 満、道盛正樹、  
三宅規子、宮崎智美、村井貴史、森 康貴、  
山崎俊哉、米澤里美

会計監査：加納康嗣、左木山祝一

多くの市民が博物館へ来館し、また、博物館が企画しているイベント（特別展、普及行事）に参加いただけるよう、様々な媒体・手段を通して広報活動を行っている。平成25年度、新たな取り組みとしては、学芸員の研究論文発表等、イベント以外のプレス発表の増加、博物館周辺の案内表示やペナントの増設などを行った（別表参照）。

## <体制>

定例では月1回、必要に応じて臨時に、学芸課（5名）と総務課（3名）の広報担当が集まり、広報計画の立案・検討と実施に取り組んでいる。特別展の広報に関しては、特別展担当者も出席している。学芸課のメンバーの1名は普及活動全体を把握している学芸課の普及担当が毎年交代で参加している。

## <広報の種類（項目、媒体）>

定期的な博物館行事情報提供	マスコミ向け行事情報の作成、市民向け催し物案内の作成、大阪市関係広報紙・各種情報誌への情報提供、館内でのポスター掲示を行っている。
ホームページへの情報掲載	博物館および大阪市、様々なメディアのホームページに情報を掲載している。twitter、facebook、ブロガー内覧会などを用いた情報発信に力を入れており、今後も強化していく予定である。
プレス発表	大阪市の情報公開室を通して市政記者クラブと大阪科学・大学記者クラブへ、その他大阪教育記者クラブ、南大阪記者クラブ、関西レジャー記者クラブへも特別展の開催を発表している。
写真・テレビ撮影への対応	様々なメディアの取材窓口となり、取材に対応している。
交通広告	特別展では大阪市営地下鉄に吊り広告を掲出している。また大阪市営地下鉄の駅構内にポスターの掲出、チラシ類の配置を行っている。新聞社と共催の特別展の場合には、広報予算が多くなるので、大規模に交通広告を行っている。
掲示物	博物館内：今月のイベント案内を本館と花と緑と自然の情報センターの受付カウンターに掲示している。特別展開催時には、情報センターの階段に大型

	看板を掲出し、特別展・本館への誘導を行っている。
	公園内：博物館周辺にイベントの案内などを掲出している。掲示箇所：地下鉄長居駅出口、公園内の掲示板、花と緑と自然の情報センター出入り口の看板、長居公園地下駐車場。また、特別展の際にはのぼりを80本製作し、長居公園や周辺商店街に掲出し、長居公園を訪れる人への広報と地下鉄出口から博物館までの誘導案内になっている。
	情報センター西門・南門・入口：表示が無く、これらの入口から自然史博物館へ入館できることが市民にわかりにくいため、特別展の会期以外はスチール看板を利用して、自然史博物館の表示と申し込み不要のイベントを掲示することにした。
	最寄り駅：特別展の際には、地下鉄長居駅の他にJR長居駅、JR鶴ヶ丘駅の改札口付近に、B1ポスターを掲出している。
他施設の情報の提供	博物館には大阪市内をはじめ全国の博物館施設からポスター・チラシが送付されてくる。それらのうち、当館来館者の関心が高いと予想されるものについては、館内で掲示・配布している
大阪市経済戦略局文化部での広報	文化部の博物館施設担当へは、すべての情報を提供し、月ごとに他館との調整が行われ、文化部から市の広報媒体の紹介を受け、テレビ、ラジオ、出版物、ホームページなどへ情報提供を行っている。大阪市動画サイト、携帯サイト、いちょう並木、毎日新聞「満載イベント」編など
大阪市博物館協会内での共同広報	指定管理者である大阪市博物館協会と管理委託されている大阪歴史博物館・大阪城天守閣・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市文化財研究所・大阪市立自然史博物館の6施設で共同広報を行っている。大阪歴史博物館の特別展の館内掲示など。

<広報先>

メディア関係	これまでコンタクトのあった各社のアドレスを蓄積し、イベントの内容に応じて広報している。
学校・社会教育施設	チラシ類は、大阪市内・府下を中心に、社会教育施設、学校・幼稚園・保育園へ発送している。市立の学校には逡送便を活用している。特別展等、広範囲に広報する場合は、日帰り圏内まで送付範囲を拡大する。
地元小学校への広報	イベントの種類および規模に合わせて、地元小学校の全生徒にチラシの配布を行っている。
大阪府内の高校への広報	大阪府高校生物教育研究会と大阪府高校生物地学教育研究会の協力により、大阪府内のすべての高校へ特別展やイベントの案内を送付している。
地元への広報	連合町会長会議を通じて、地元町内会へ特別展のチラシの掲出依頼、内覧会招待の案内を行っている。また、地元の商店街へは、ポスター等の掲示依頼などを行っている。

<2013年度の広報状況>

印刷物の発送先（学校以外）	件数：大阪市内176件、大阪府内193件、その他の府県379件。施設種類：博物館、大学、図書館、青少年施設、教育委員会、市役所、集学学習施設など
チラシ類の印刷・配布枚数	やさしい自然観察会春・秋（40,000枚）、ワークショップ4回（120,000枚）、地球科学講演会（15,000枚）、特別展「のぞいてみよう ハチの世界」（ポスターB2 1,500枚、B3 5,800枚、チラシ 60,000枚）、地質情報展（B2 500枚、チラシ 47,000枚）、大阪自然史フェスティバル（ポスターB2 1,370枚、チラシ 65,000枚）、毎月の催し物案内（1,700枚）
情報提供しているメディア関係	約200社（特別展関係約100社、行事情報約100社）
特別展プレス発表の送信先	市政記者クラブ22社、大阪科学・大学記者クラブ17社、大阪教育記者クラブ14社、南大阪記者クラブ7社、関西レ

	ジャー記者クラブ14社、大阪市内区役所広報24区
テレビ放送（特別展以外）	4/12（土）NHK「ぐるっと関西おひるまえ」音楽と自然のひろば 5/7（火）毎日放送「VOICE」鳥害対策 7/25（木）NHK「ニュース」等 ヨロイ竜 8/5（月）朝日放送「キャスト」ヤケド虫 8/6（火）TBSテレビ「みのもんたの朝ズバッ！」ナガスケ 10/1（火）NHK「ぐるっと関西お昼まえ」スズメバチ 10/16（水）テレビ朝日「ニュース」カエンタケ 2/13（木）朝日放送「ニュース」クロマツ化石 3/16（日）よみうりテレビ「関西仰天ヒストリー ショセツあり！」クジラ など、26件
新聞報道（特別展以外）	4/3（水）読売新聞・朝日新聞・日本経済新聞・産経新聞の夕刊および5/27（月）産経新聞その他ネットニュース等「デスマスチルス」 4/24（水）読売新聞朝刊「5/18ゴケグモシンポ&外来生物」 5/31（金）毎日新聞「遺跡から発掘されたバジル」 11/17（日）大阪日日新聞「大阪バードフェスティバル2013」 11/30（土）産経新聞夕刊「木村兼葭堂貝石標本」 1/25（土）朝日新聞朝刊「クロマツ化石」 2/8（土）朝日新聞朝刊be「セアカゴケグモ」 など、41件

<特別展の広報>

■特別展「発掘！モンゴル恐竜化石展」

～ゴビ砂漠の恐竜化石はなぜ古生物学者を惹きつけてやまないのか？

会 期：2012年11月23日（金・祝）～2013年6月2日（日）  
（詳細は前年度の館報に掲載）



■第44回特別展「いきもの いっぱい 大阪湾 ～フナムシからクジラまで～」

- 会 期：2013年7月20日（土）～10月14日（月・祝）
- プレス発表：2013年5月10日（金）
- 内 覧 会：2013年7月19日（金）
- プレス内覧会：5社8名（読売ライフ、淀川通信社、タイガー魔法瓶など）
- 一 般 内 覧 会：161名（大阪市関係、地元町内会関係者、友の会会員、招待者など）
- 広 報 媒 体：57の広報媒体で扱われた。そのうち放送関係は、テレビ1、ラジオ2。
- ブロガー内覧会：9件
- 特 記 事 項：目玉展示でもあるマッコウクジラ全身骨格標本の愛称を市民から広く募集し、会期中に愛称のお披露目式を行った。（右図）

■大阪市立自然史博物館・長居植物園 40周年記念企画

特別展「恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス」  
～知られざる大陸ララミディアでの攻防～

- 会 期：平成26年3月21日（金・祝）～5月25日（日）※3月24・31日（月）は臨時開館
- プレス発表：2013年12月26日（木）
- 内 覧 会：2014年3月20日（木）
- プレス内覧会：17社（読売新聞、毎日新聞、神戸新聞、ラジオ関西など）
- 一 般 内 覧 会：約300名（地元町内会関係者、友の会会員、招待者など）
- ブロガー内覧会：12件



図4. 愛称「マッコウ」のお披露目

# 刊 行 物

\*は館外研究者、[No.] は当館業績番号。

## ■研究報告 (Bulletin of the Osaka Museum of Natural History)

第68号、2014年3月31日発行、66ページ。

松井彰子\*・乾 隆帝\*・甲斐嘉晃\*：若狭湾のハゼ亜目魚類リスト. 1-25. [No. 441] (英文)

有山啓之\*・大美博昭\*・辻村浩隆\*・和田太一\*・柏尾翔\*：大阪湾で採集されたシャコ類3稀種(甲殻亜門：口脚目). 27-39. [No. 442] ~ (英文)

清水裕行\*・金沢 至・西川喜朗\*：日本のゴケグモ類5種の分布状況とセアカゴケグモの分散方法に関する考察. 41-51. [No. 443]

畦 浩二\*・道盛正樹\*・今川邦彦\*・狩野登之助\*・佐伯雄史\*・小林亮平\*・木村全邦\*：大阪府蘚苔類資料3 万博記念公園(吹田市)の蘚苔類. 53-66. [No. 444]

## ■収蔵資料目録

第46集「大阪市立自然史博物館所蔵甲虫類目録(3)ーシデムシ科、コガネムシ科食糞群、ヨーロッパ東部産オサムシ科、コメツキムシ科(1)ー」B5版、全200ページ、2014年3月31日発行。

## ■常設展解説書

ミニガイドNo.26「長居植物園 植物観察ネタ帖」一般市民向け、A5版、本文32ページ(総カラー)、2014年3月31日発行、500円。

## ■特別展解説書

第44回特別展「いきもの いっぱい 大阪湾」解説書「大阪湾本」一般市民向け、A5縦版、本文112ページ、2013年7月20日発行、1000円。

# 情報システム

自然史博物館の情報システムは外部向けのホームページと、館内観覧者向けの展示システム、及びデータベースからなる。これらのうち、今年度は一般向けのホームページのトップ画面などを改修し、また、ハードウェア的な改修も一部行った。

また情報発信はホームページだけでなく、各種Blogシステムと、それらに連動するTwitterやFacebookページを用いて、多角的な情報発信を試みている。

ホームページへのアクセス

トップページへの年間アクセス 422,809件

Twitter フォロワー 3,476

年間純増数 1,659

情報発信件数 806tweet

Facebook いいね! 348人・投稿のリーチおよそ3,500

自然史博物館の5項目にわたるミッションと中期目標の中には以下のような項目がある。

## 〔ミッション3〕

地域との連携を促進してより広範な市民との交流に努めます。

博物館活動のパートナーとなるNPOやアマチュアを大切に、自然愛好家の層を厚くしていきます。

### (中期的目標)

- ・学校・地域との連携事業など市民との交流をNPOと協働して進めます。
- ・アマチュア研究活動や、地域での自然体験活動を支援します。このために博物館も地域で実施する観察会を充実させます。
- ・地域の文化財行政・自然保護行政に積極的に貢献します。

## 〔ミッション4〕

他の機関との連携を進め、ノウハウの交流に努めます。

広域のネットワークや学術連携、協働でのプロモーションにより、より高度な博物館活動を目指します。

### (中期的目標)

- ・西日本自然史系博物館ネットワークを中心とした他の博物館との連携・交流や共同事業を強めます。
- ・研究・教育において大学など高等教育機関との連携を進めます。
- ・大阪市の博物館群や長居植物園などとの連携を進めます。

いずれも、大阪市立自然史博物館が「地域の自然の情報拠点」として機能するために欠くことのできない項目であり、連携によって多様な相乗効果を生んでいることを挙げるができる。

ミッション3に関連して、学校教育、地域、アマチュアとの連携の要になっているのが、大阪自然史センターとのパートナーシップである。自然史センターは関西自然保護機構と合流を果たし、自然科学的な面からの自然環境保全への取り組みを強めている。このため、関西各地で自然環境の保全や保護に取り組む団体などとの連携を強化した。学校教育面では今年度は大阪府高校生物教育研究会との自然史センター・博物館との連携を強化してきたところである。

西日本自然史系博物館ネットワークとの連携はGBIF関連の自然誌情報発信事業を中心に、多様な展開を見

せている。

研究・教育においての大学など高等教育機関との連携については、既に各種団体との協力の事例については普及教育事業に、共同研究については調査研究事業に記されている。大阪市の博物館群・長居植物園との連携についてもミュージアムウィークスの開催をはじめとして、多様な展開を見せている。これらの各項目については以下に改めて記載する。

## 大阪府内の高校との連携

大阪府高校生物研究会および地学研究会と連携し、特別展の情報提供を行っている。2013年度の大阪府の高校の生物クラブ発表会を博物館で実施した。

## 西日本自然史系博物館ネットワーク

西日本自然史系博物館ネットワークは、学芸員同士の意見・知識・情報の交換、博物館運営の知識・情報の交換、研究者の育成・援助、広範囲での調査協力などを活動内容として、2004年に設立されたNPO法人である。会員も150名を越し、西日本の自然史系博物館の安定なネットワーク組織として活動している。当館も中核となる加盟館として連携し以下のような共同事業をおこなった。自然史系博物館における収蔵品データ整備事業・研究会、企業との共催による生物多様性協働フォーラムの開催、自然史標本救済に関するネットワーク運用、プラスチック標本作成講座、100円ショップグッズ巡回展示、小さいとこサミット後援。

2011年の東日本大震災に関しては、被災自然史標本の修復技法や博物館救援体制を考える研究集会を開き、今後の対策について考えるとともに、震災による被災文化財の救出、保存、再生を目指す活動について紹介する巡回展を行った。(2013. 1. 1～2013. 12. 31)

## 大阪生物多様性保全ネットワーク

大阪府・大阪市・堺市など行政と、大阪市立自然史博物館、大阪環境農林水産総合研究所など研究機関、大阪自然史センター、生物多様性かんさいなど市民ネットワークの協働事業として、NPO法人大阪自然史センターが事務局となり設立された。「新しい公共の場」として、教育機関・研究機関・NPO・行政・地域などの相互の連携をはかり、生物多様性の保全に向けた取り組みを行う組織である。生物多様性調査については、レッドデータブック専門部会のもとに15の分科会を設け、継続的に府内の生きものなどの資料・情報収集などを行い、それらの現況を把握するとともに、希少種や保護すべき環境についての考察などを行ってきた。また、普及啓発イベントの企画・運営や情報発信など

## 連携(ネットワーク)

のための普及啓発専門部会も設置し、2015年2月23日には関西自然保護機構大会においてシンポジウムシンポジウム「大阪府のレッドリスト改訂について」を開催した。また2015年3月には成果物として「大阪府レッドリスト2014」を発行、公開した。当館からは各分野の学芸員が分科会に参加し、生物多様性行政に貢献している。

### 大阪市立大学博学連携講座

#### 「昆虫『超』能力ー博物学・理学から眺めた虫たちの不思議」

昆虫の不思議な能力について博物学（自然史）的な話題と理学（生物・化学）的な話題を組み合わせ、当館学芸員と大阪市立大学教授が講座を開催した。2013年11月2日に金沢学芸員が「長距離を移動するチョウ類の生態ーアサギマダラ・オオカバマダラなどー」を、松本学芸員が「寄生バチによる寄主操作」を講演した。

### 大阪の博物館群など

#### ■国際博物館の日協賛シンポジウム

平成25年5月25日（土）に大阪歴史博物館にて国際博物館の日記念シンポジウム「ミュージアムとコレクション」を開催した。各館の特徴あるコレクションについて紹介を行い、当館からは金沢至学芸課長代理が当館のコレクションの成り立ちについて紹介を行うとともに、館長座談会「未来へ成長するコレクション」において、山西良平館長が進行役を担い、コレクション、コレクターとミュージアムの成り立ちの関係についての議論を行い、『大阪の至宝』展に向けた議論喚起をはかった。

#### ■ミュージアムウィークス2013

大阪市の博物館施設が協働で行っている広報キャンペーン。今年度は大阪市立美術館の「大阪の至宝展」にちなみ、「もっと！お宝大公開」としてどう展覧会に出品されていない各博物館の重要資料を紹介する機会とした。当館ではこれまであまり紹介する機会がなかった粉川昭平コレクション、宇井縫蔵コレクションを紹介した（ミニ企画展の内容は34ページ参照）。

#### ■ミュージアム連続講座

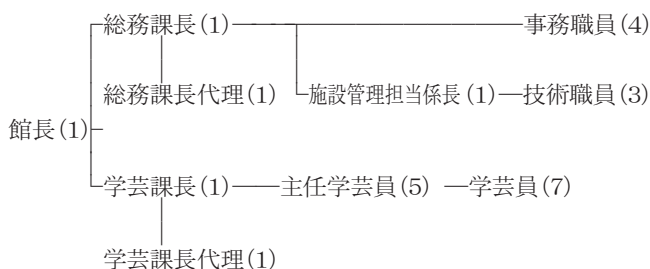
今年度の連続講座は「旅」というテーマを設定し、当館の担当回では天王寺動物園今西隆和氏による「動物の旅」と、金沢学芸員による「昆虫の旅」の2題によるコラボレーション企画となった。参加者70名、おむね好評であった。

## I. 沿革

- 昭和24年11月8日－自然科学博物館開設準備委員会設置
- 昭和25年4月1日－自然科学博物館費予算に計上
- 昭和25年11月10日－市立美術館2階廊下にて展示開設
- 昭和27年4月17日－博物館相当施設に指定
- 昭和27年6月2日－大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
- 昭和27年7月10日－博物館法第10条により登録（第2号）
- 昭和27年10月1日－筒井嘉隆 館長に就任（39. 7. 4 退任）
- 昭和32年6月7日－市立美術館より西区靉2丁目（元靉小学校校舎改造）に移転
- 昭和33年1月13日－開館
- 昭和34年 ー新館建設について本市社会教育審議会の意見具申
- 昭和39年 ー日本育英会の第一種奨学金の返還を免除される職を置く研究所に指定（文部省）
- 昭和39年8月1日－筒井嘉隆 館長に就任（非常勤嘱託－40. 7. 31退任）
- 昭和40年8月1日－千地万造 館長に就任（58. 6. 1 退任）
- 昭和42年 ー大阪市総合計画局“30年後の大阪の将来計画”により長居公園内に新館敷地確定
- 昭和44年8月 ー新館建設のための基本構想審議委員会組織
- 昭和45年4月 ー自然史博物館建設委員会組織
- 昭和47年1月21日－自然史博物館建設工事着工
- 昭和48年3月31日－自然史博物館建設工事竣工
- 昭和48年4月1日－旧館閉館
- 昭和48年7月 ー新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結（竣工49年3月）
- 昭和49年4月1日－大阪市立自然史博物館条例公布
- 昭和49年4月26日－自然史博物館開館式挙行
- 昭和49年4月27日－開館
- 昭和51年8月19日－文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定
- 昭和58年7月1日－千地万造 館長に就任（非常勤嘱託－61. 3. 31退任）
- 昭和59年6月 ー常設展更新基本計画案策定
- 昭和60年3月 ー常設展更新計画書策定
- 昭和61年3月31日－常設展更新業務完成
- 昭和61年4月1日－新装開館
- 昭和61年4月1日－小川房人 館長に就任（兼務－2. 3. 31定年退職）
- 昭和61年4月1日－千地万造 顧問に就任（非常勤嘱託－2. 3. 31退任）
- 平成2年4月1日－小川房人 館長に就任（非常勤嘱託－3. 3. 31退任）
- 平成2年度 ー文化施設整備構想調査
- 平成3年4月1日－小川房人 顧問に就任（非常勤嘱託－5. 3. 31退任）  
柴田保彦 館長兼学芸課長に就任（4. 3. 31定年退職）
- 平成3・4年度 ー自然史博物館整備構想調査事業  
21世紀に向けての館のあり方・問題点の改善策の調査
- 平成4年4月1日－柴田保彦 館長に就任（非常勤嘱託－7. 3. 31定年退職）
- 平成7年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（9. 3. 31 定年退職）
- 平成7年度 ー自然史博物館・長居植物園付帯施設整備構想委員会設置
- 平成8年度 ー展示更新基本計画及び(仮称)花と緑と自然の情報センター設計検討
- 平成9年4月1日－宮武頼夫 館長に就任（嘱託－10. 3. 31退任）
- 平成9年度 ー展示更新実施設計及び増築にかか  
る基本・実施設計
- 平成10年4月1日－那須孝悌 館長に就任（13. 3. 31 定年退職）
- 平成10年12月 ー花と緑と自然の情報センター建築  
工事着工
- 平成13年3月 ー花と緑と自然の情報センター竣工
- 平成13年4月1日－那須孝悌 館長に就任（非常勤嘱託）
- 平成13年4月27日－花と緑と自然の情報センター開館  
式挙行  
花と緑と自然の情報センター開館
- 平成17年4月1日－山西良平 館長に就任
- 平成18年3月1日－本館エントランス及びポーチリ  
ニューアルオープン
- 平成18年4月1日－(財)大阪市文化財協会が指定管理  
者となる
- 平成19年3月24日－第5展示室一部リニューアルオープン
- 平成20年4月26日－第5展示室全面リニューアルオープン
- 平成22年4月1日－財団統合により(財)大阪市博物館  
協会が指定管理者となる
- 平成24年3月 ー本館・大阪の自然誌コーナー・ネ  
イチャーホールの展示照明等LED  
D化

## Ⅱ. 組 織

### ■職員数（平成25年4月1日現在） 計25名



### ■職員名簿（平成25年4月1日現在） 計25名

職 名	氏 名	職 種	氏 名
館 長	山西 良平	学芸課長	川端 清司
総務課長	小川 悦生	学芸課長代理	金沢 至
総務課長代理	唐井 邦雄	主任学芸員	波戸岡清峰
施設管理担当係長	宮井 静夫	〃	塚腰 実
事務職員	木野 美奈	〃	初宿 成彦
〃	釋 知恵子	〃	佐久間大輔
〃	松岡 由布	〃	和田 岳
〃	長縄 朋子	学芸員(四紀)	石井 陽子
技術職員	西嶋 正博	学芸員(四紀)	中条 武司
〃	植村 政光	学芸員(昆虫)	松本 吏樹郎
〃	中林 一己	学芸員(動物)	石田 惣
		学芸員(植物)	長谷川 匡弘
		学芸員(植物)	横川 昌史
		学芸員(地史)	林 昭次

### ■人事異動

平成25年4月1日 金沢 至 学芸課長代理に就任  
 唐井 邦雄 総務課長代理に採用  
 宮井 静夫 施設管理担当係長に採用  
 林 昭次 学芸員新規採用

## Ⅲ. 庶務日誌

### ■平成25年度 博物館関係者来訪

- 25. 5. 21 静岡県企画広報部  
博物館の概要、事業の概要、連携事業、運営上の課題等視察
- 25. 5. 21 庄原市立自然科学博物館  
特別展の運営、常設展示室の概要、標本の収集・保管状況等視察
- 25. 8. 3 韓国・東國大学校  
博物館の展示、施設および運営状況視察
- 25. 9. 12 台湾・国立台南芸術大学セミナー

- 博物館の運営方針の解説
- 25. 9. 26 長崎市議会議員  
運営コンセプト・展示状況等調査
- 25. 10. 9 熊本県企画振興部地域・文化振興局  
自然史系施設設備設置状況の視察
- 25. 11. 4 北海道斜里町立知床博物館  
博物館活動の視察
- 25. 11. 7 京都府立植物園  
花と緑と自然の情報センター他展示物等視察
- 25. 11. 8 公益財団法人 宮崎文化振興協会 宮崎科学技術館  
管理・運営状況等視察
- 26. 3. 6 鹿児島県立博物館  
ボランティア事業、リニューアルに関する研修・視察
- 26. 3. 20 パーピー自然史博物館  
特別展「恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス」開会式・内覧会

### ■館長受嘱委員

- 全国科学博物館協議会 理事  
平成19年4月1日～平成26年3月31日
- 国土交通省 近畿地方整備局 淀川河川事務所 淀川環境委員会委員  
平成20年4月1日～平成26年3月31日
- 一般財団法人 大阪科学技術センター 評議員  
平成21年4月1日～平成28年6月
- 公益財団法人 日本博物館協会 参与  
平成25年4月1日～平成27年3月31日
- 兵庫県立人と自然の博物館 協議会 委員  
平成19年10月8日～平成25年10月7日
- 独立行政法人 国立科学博物館 評議員  
平成21年4月1日～平成26年3月31日
- 地球環境関西フォーラム 生物多様性部会座長・企画委員会委員  
平成25年4月1日～

## IV. 決算

■平成23年度～平成25年度

(単位 千円)

区 分	事 項	平成23年度	平成24年度	平成25年度
収	入 館 料 ほ か	28,046	32,245	28,757
	常 設 展 観 覧 料	13,530	15,849	14,597
	特 別 展 観 覧 料	14,211	16,041	13,653
	施 設 使 用 料	305	355	507
入	雑 収	2,958	3,829	3,326
	函 録 販 売 収 入 等	1,075	1,730	1,411
	そ の 他	1,883	2,099	1,915
	合 計	31,004	36,074	32,083
支 出	展 覧 事 業	21,522	21,599	22,289
	常 設 展 覧 事 業	1,978	2,395	2,360
	特 別 展 覧 事 業	19,544	19,204	19,929
	調 査 研 究 事 業	14,185	8,236	6,716
	資 料 収 集 保 管 事 業	5,222	2,504	2,876
	普 及 教 育 事 業	4,947	4,848	4,649
	充 実 活 性 化 事 業	2,486	2,140	1,144
	施 設 管 理 費	103,622	109,511	114,204
	一 般 維 持 管 理 費 等	188,789	190,543	184,484
合 計	340,773	339,381	336,362	

## V. 入館者数 (平成25年度)

### ■本館常設展入館者数

月	区分	有 料					無 料							計	開館 日数	
		個 人		団 体		有料計	団 体					個 人				無料計
		大人	高校生 大学生	大人	高校生 大学生		幼・保 育園等	小学生	中学生	特別支援 学校等	団体 引率者	中学生 以 下	優待・招 待・その他			
(25) 4		11,065	458	95	135	11,753	169	4,420	25	42	312	4,559	3,800	13,327	25,080	26
5		16,311	925	282	131	17,649	1,253	9,287	805	233	853	4,704	5,491	22,626	40,275	27
6		6,533	368	125	1	7,027	286	1,190	119	271	165	2,706	2,373	7,110	14,137	26
7		2,969	219	160	68	3,416	543	50	140	7	74	2,628	1,227	4,669	8,085	26
8		4,574	1,019	81	1	5,675	53	0	97	0	25	4,943	1,886	7,004	12,679	27
9		4,832	282	84	40	5,238	320	1,049	3	79	168	2,968	1,333	5,920	11,158	25
10		2,922	178	173	111	3,384	1,366	8,692	202	93	834	2,254	1,223	14,664	18,048	27
11		2,150	155	46	41	2,392	970	4,024	1,615	34	444	1,999	17,299	26,385	28,777	26
12		2,430	122	70	0	2,622	167	37	55	30	44	1,272	707	2,312	4,934	23
(26) 1		2,142	146	128	1	2,417	77	138	109	0	65	1,804	731	2,924	5,341	23
2		2,357	111	50	42	2,560	553	33	806	5	133	1,766	794	4,090	6,650	24
3		3,312	193	9,234	276	13,015	1,254	21	341	55	221	5,487	2,176	9,555	22,570	28
計		61,597	4,176	10,528	847	77,148	7,011	28,941	4,317	849	3,338	37,090	39,040	120,586	197,734	308

### ■無料団体観覧内訳 (平成25年度)

区 分	市 内		市 外		計	
	件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
幼稚園・保育所	87	4,293	59	2,718	146	7,011
小 学 校	135	11,045	203	17,896	338	28,941
中 学 校	45	2,269	45	2,048	90	4,317
特別支援学校・他	4	32	13	263	17	295
福 祉 施 設	10	331	10	223	20	554
団 体 引 率 者		1,430		1,908		3,338
計	281	19,400	330	25,056	611	44,456



■特別展入館者数（平成11年度～平成25年度）

区分 年度	個人				団体			合計	開催期間	日数	タイトル
	大人	高校生 大学生	優待・ 他無料	中学生 以下無料	大人	高校生 大学生	中学生以下 他無料				
11	8,236	2,305	3,995	10,733	143	292	5,108	30,812	8.7～10.11	56	海をわたった蝶と蛾
12	7,164	3,149	3,565	10,384	240	490	1,014	26,006	7.20～9.24	58	干潟の自然
13	957	45	6,808	5,996	479	0	7,468	21,753	4.27～5.27	28	50周年だよ！標本集合！！
	4,668	172	6,669	1,917	0	0	0	13,426	6.9～7.22	38	牧野富太郎と植物画展
	1,839	171	5,623	4,024	16	0	351	12,024	8.4～9.24	45	レッドデータ生物
	2,848	224	7,120	4,097	331	0	4,841	19,461	10.6～11.25	48	からだ・ふしぎ発見
	4,568	56	9,390	16,351	174	0	1,441	31,980	12.8～1.20	31	親子で遊ぶ木とのふれあいワールド
	840	23	2,406	3,013	6	0	28	6,316	3.16～3.31	14	世界の蝶と甲虫
14	2,526	98	7,113	8,271	0	0	1,867	19,875	4.31～5.12	36	世界の蝶と甲虫
	1,354	244	2,857	5,203	33	38	149	9,878	7.6～9.1	50	化石からたどる植物の進化
	6,741	792	12,531	4,694	1,337	777	301	27,173	9.14～11.4	45	目で見る「がん」展
15	4,028	228	5,995	8,252	1	30	8	18,542	7.19～8.31	50	日本鳥の巣図鑑
	4,686	37	7,776	23,784	66	0	1,902	38,251	11.29～2.1	49	親子で遊ぶ木とのふれあ
16	1,593	76	5,463	3,240	0	0	4,101	14,473	4.1～5.30	44	いきもの図鑑 牧野四子吉の世界
	2,052	90	3,752	9,844	0	0	72	15,810	7.17～9.5	44	貝ーその魅力とふしぎ
17	959	87	3,361	9,038	0	0	0	13,445	7.16～9.4	44	ナチュラリスト展
	103,419	5,203	81,640	28,497	280	51	24,834	243,924	10.8～11.27	45	恐竜博
18	2,544	336	2,597	3,971	15	0	227	9,690	7.29～9.18	45	大和川展
19	8,591	506	4,040	10,532	55	0	392	24,116	7.7～9.2	51	世界一のセミ展
	31,244	1,518	18,131	31,815	679	81	18,409	101,877	9.15～11.25	62	世界最大の翼竜展
	8,483	267	4,661	11,659	0	0	269	25,339	3.15～3.31	14	ようこそ恐竜ラボへ！
20	28,882	1,000	18,491	39,120	153	0	18,387	106,033	4.1～6.29	79	ようこそ恐竜ラボへ！
	30,389	6,218	18,560	18,708	2	59	564	74,500	7.19～9.21	56	ダーウィン展
	1,887	357	4,103	1,414	19	152	2,226	10,158	10.25～12.7	38	地震展
21	4,069	221	4,532	3,360	217	0	9,298	21,697	4.18～5.31	38	世界のチョウと甲虫展
	1,584	120	17,567	14,801	12	99	292	34,475	7.4～8.30	50	ホネホネたんけん隊
	4,920	529	3,938	2,153	143	0	4,921	16,604	9.19～11.3	39	きのこのヒミツ展
	12,413	697	4,907	14,608	7	0	32	32,664	3.20～3.31	10	大恐竜展
22	48,600	2,904	20,381	49,034	205	124	20,836	142,084	4.1～5.30	52	大恐竜展
	1,405	1,262	3,535	2,724	92	0	1,264	10,282	7.24～10.8	58	みんなでつくる淀川大図鑑展
23	11,864	2,237	5,140	10,625	56	42	195	30,159	7.2～8.28	50	来て！見て！感激！大化石展
	22,864	1,700	15,048	25,108	14	102	16,035	80,871	9.10～11.27	67	OCEAN！海はモンスターでいっぱい
	14,179	527	7,745	17,057	1	31	719	40,259	3.10～3.31	19	新説・恐竜の成長
24	39,844	1,215	13,101	38,459	110	102	19,093	111,924	4.1～6.3	56	新説・恐竜の成長
	7,353	1,489	6,005	6,885	23	32	5,300	27,087	7.28～10.14	68	のぞいてみよう ハチの世界
	25,519	1,330	8,524	22,317	48	114	3,256	61,108	11.23～3.31	104	モンゴル恐竜化石展
25	24,439	1,197	9,401	21,561	217	69	13,705	70,589	4.1～6.2	55	モンゴル恐竜化石展
	5,075	1,366	5,616	5,216	26	46	3,315	20,660	7.20～10.14	75	いきもの いっぱい 大阪湾
	8,054	261	2,583	9,391	4	12	276	20,581	3.21～3.31	11	恐竜戦国時代の覇者！トリケラトプス

VI. 貸室の利用状況

■講堂 平成25年度 14件

年月日	団体名	使用目的	人数
H25. 6.19	NPO法人高齢者大学校	自然不思議発見 授業	50
H25. 7. 2	NPO法人シニア自然大学校	シニア自然大学 緑組 「キノコ菌類」講座	60
H25. 7. 4	NPO法人シニア自然大学校	シニア自然大学 風組 「キノコ菌類」講座	60
H25. 9.23	いであ(株)	第6回大阪湾生き物一斉調査結果発表会	100
H25.10.12	NPO法人シニア自然大学校	シニア自然大学 星組 「果実の見かた」講座	25
H25.10.18	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマにした講演と会議	110
H25.11.15	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマにした講演と会議	110
H25.12.20	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマにした講演と会議	110
H26. 1.17	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマにした講演と会議	110
H26. 2. 7	NPO法人シニア自然大学校	研究発表リハーサルと会議	80
H26. 2.21	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマにした講演と会議	110
H26. 3. 5	NPO法人高齢者大学校	自然不思議発見 授業	50
H26. 3.23	住吉ニューオリオンズ	卒団式、総会	
H26. 3.28	NPO法人シニア自然大学校	自然と文化をテーマにした講演と会議	110

■特別展示室(ネイチャーホール) 平成25年度 3件

年月日	団体名	使用目的	人数
H25.11.29～12.1	(一社)日本書道技術師認定協会	日本書道展	800
H26. 3. 1	(一社)大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム・コア	大阪湾Years2012-2013総括イベント RACES&CIFER合同シンポジウム	200
H26. 3. 2	大阪湾見守りネット	第10回大阪湾フォーラム	200

## Ⅶ. 施設

### 自然史博物館本館

■所在地 大阪市東住吉区长居公園1番23号

■敷地面積 6,743.68㎡

■建築面積 4,392.67㎡

■延床面積 7,066.01㎡

■構造 鉄筋コンクリート造、一部屋根鉄骨造  
地下1階、地上3階

### ■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	2,427.48㎡	(天井の高さ)
ナウマンホール	550.35㎡	11.00m	
第1展示室	360.55㎡	3.30m	
第2展示室	486.64㎡	7.20m	
第3展示室	403.10㎡	4.70m	
第5展示室	360.55㎡	4.20m	
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m	
(研究用施設)	計	1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m	
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m	
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m	
生物実験室	49.20㎡	2.40m	
化学分析室・サーバー室	各18.27㎡	2.40m	
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m	
動物標本制作室	37.71㎡	2.40m	
昆虫・植物標本制作室	各36.54㎡	2.40m	
化石処理室	47.56㎡	2.40m	
石工室	22.21㎡	2.70m	
展示品製作室	28.05㎡	2.70m	
旧第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
旧第2収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
旧第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m	
旧第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m	
書庫	100.30㎡	7.40m	
編集記録室	36.54㎡	2.40m	
(普及教育用施設)	計	604.27㎡	
講堂(映写室・控室含む)	319.09㎡	2.60m (平均)	
ミュージアムサービスセンター	93.30㎡	2.70m	
集会室	95.12㎡	2.70m	
旧実習室	96.76㎡	2.70m	
(管理用施設)	計	907.49㎡	
館長室	36.54㎡	2.70m	
1階部屋	18.27㎡	2.70m	
事務室	83.34㎡	2.70m	
応接室	29.54㎡	2.70m	

休憩室	16.85㎡	2.55m
警備員室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
旧自家発電気室	49.16㎡	5.85m
旧中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
(共通部分)	計	1,323.95㎡
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベーターホール(荷物用)	123.16㎡	
ファンルーム(南・北側)	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	125.10㎡	3.25m
ナウマンホールエレベータ	7.00㎡	
倉庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理棟便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階段	179.30㎡	
その他	46.40㎡	
総計	7,066.01㎡	

### ■階数別面積

地階……………	855.07㎡	3階……………	550.95㎡
1階……………	3,178.35㎡	屋階……………	76.93㎡
2階……………	2,404.71㎡		

### ■各室定員

講堂……………	266人	集会室……………	48人
会議室……………	22人	旧実習室……………	31人
展示室(1階)	415人	展示室(2階)	400人
地階……………	3人		

■工期 昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■総事業費	10億1,000万円
(建設工事費)	7億9,500万円
・本体工事(株竹中工務店)	4億9,200万円
・付帯工事	3億300万円
(設計監督委託料)	2,700万円
(その他)	3,800万円
事務費、移転費、公園樹木移設工事費 ネットフェンス設置工事費等	
(内部設備費)	1億5,000万円
・第1展示室ディスプレイ(株日展)	2,200万円
・第2展示室ディスプレイ(株乃村工芸社)	2,500万円

・第3展示室ディスプレイ (株)丹青社	2,100万円
・オリエンテーションホールディスプレイ (株)電電広告	600万円
・展示品購入費	3,200万円
・庁用器具、調査、研究用機器、 資料保管用物品等	4,400万円
<b>■国庫補助金・起債</b>	
・国庫補助金	3,000万円 (47. 10. 13付交付決定)
・起債	3億8,762万円 (47. 8. 25付交付決定)

## 花と緑と自然の情報センター

■所在地 大阪市東住吉区長居公園1番23号

■敷地面積 1,203.81㎡

■建築面積 1,203.81㎡

■延床面積 5,000.00㎡

■構造 鉄骨鉄筋コンクリート造  
地下1階、地上2階塔屋付建物

## ■主要各室面積・天井の高さ

(展示用施設)	計	1,403.76㎡	(天井の高さ)
大阪の自然誌		638.82㎡	4.20m
ネイチャーホール		764.95㎡	7.00m
(研究用施設)	計	1,971.50㎡	
準備室兼置場 (1)		47.99㎡	4.00m
準備室兼置場 (2)		68.34㎡	4.00m
冷蔵庫室		21.99㎡	5.00m
資料前処理室		20.14㎡	4.00m
一般収蔵庫		748.34㎡	5.00m
特別収蔵庫		688.22㎡	5.00m
液浸収蔵庫		323.48㎡	5.00m
前室 (1)		36.80㎡	4.00m
前室 (2)		16.20㎡	4.00m
(普及教育用施設)	計	256.08㎡	
自然の情報センター		111.11㎡	5.00m
ミュージアムサービス		39.22㎡	5.00m
実習室		105.75㎡	3.00m
(管理用施設)	計	937.36㎡	
総合監視センター		32.78㎡	5.60m
空調機械室		116.93㎡	6.50m
機械室		722.99㎡	5.60m
E V機械室		49.08㎡	5.60m
技術スタッフ室		15.58㎡	3.00m
(共通部分)	計	431.30㎡	
地下1階廊下		28.74㎡	3.00m

1階廊下	48.30㎡	3.00m
1階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
2階渡り廊下	15.21㎡	3.00m
プロムナード	28.00㎡	5.00m
2階便所	57.02㎡	2.50m
E V室	47.52㎡	2.90m
トラックヤード	88.13㎡	
階段	103.18㎡	
総計	5,000.00㎡	

## ■階数別面積

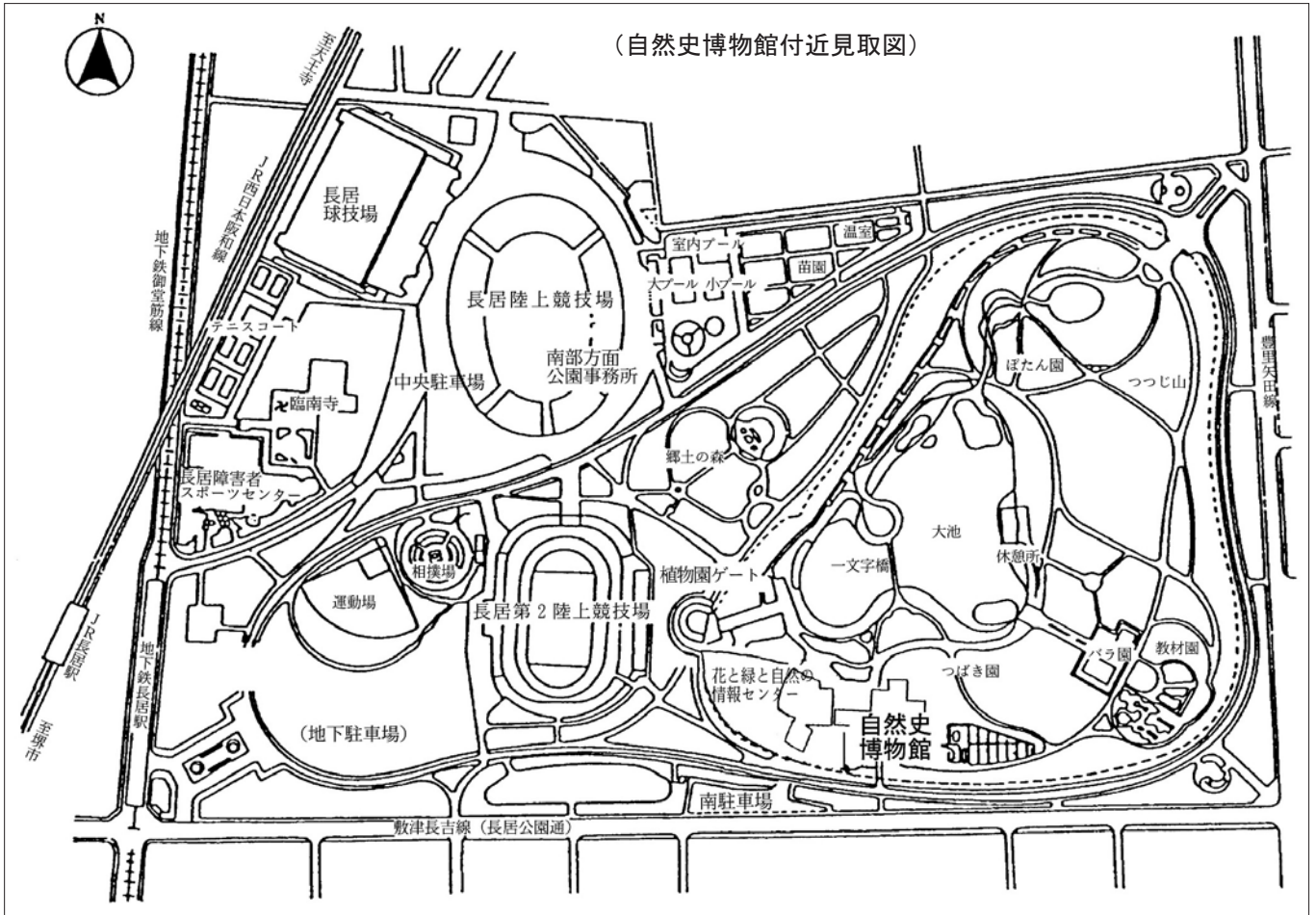
地階……	2,754.07㎡
1階……	1,203.81㎡
2階……	993.04㎡
3階……	49.08㎡

■工期 平成10年12月～平成13年3月

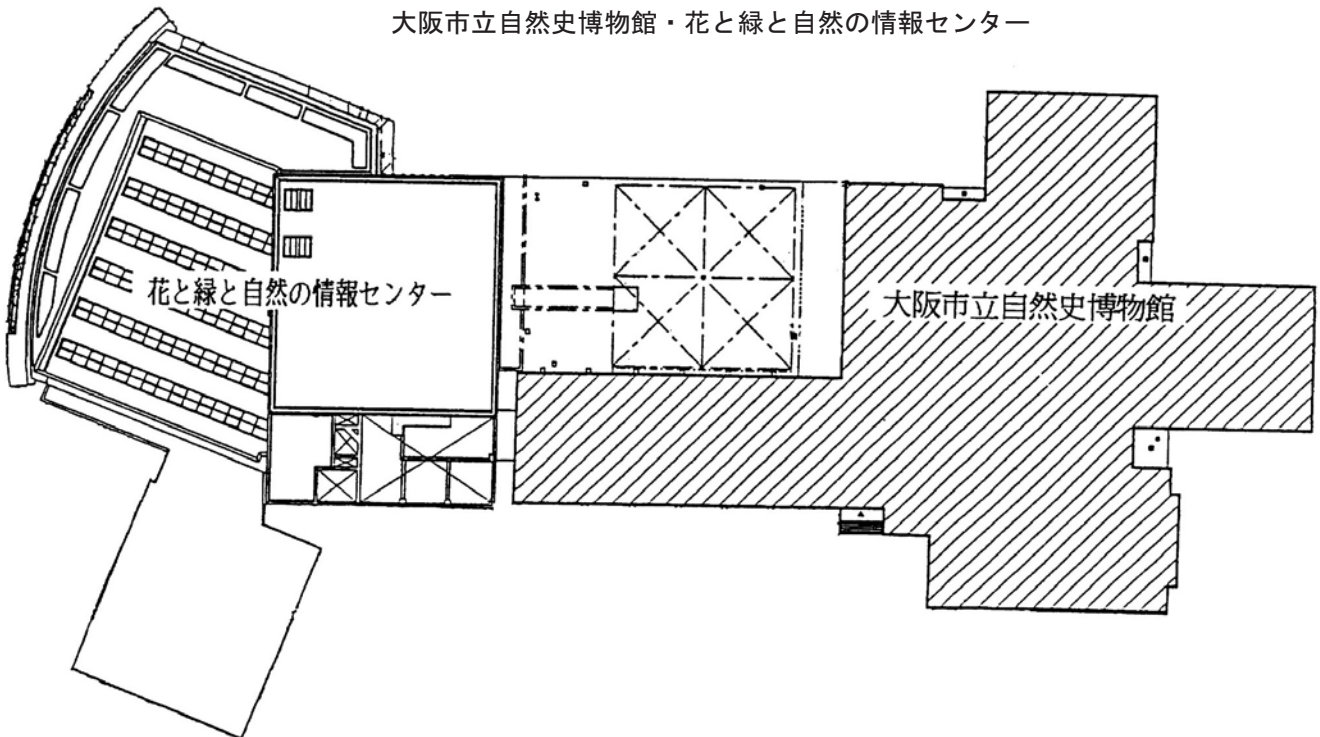
■総事業費	41億6,665万円
(建設工事費)	24億4,558万円
(設備工事費)	11億9,650万円
(設計監督委託料)	5,751万円
(外溝工事費他)	4億6,706万円

## ■起債等

・起債	34億7,477万3千円
・雑収 (宝くじ協会)	3億6,001万7千円



大阪市立自然史博物館・花と緑と自然の情報センター

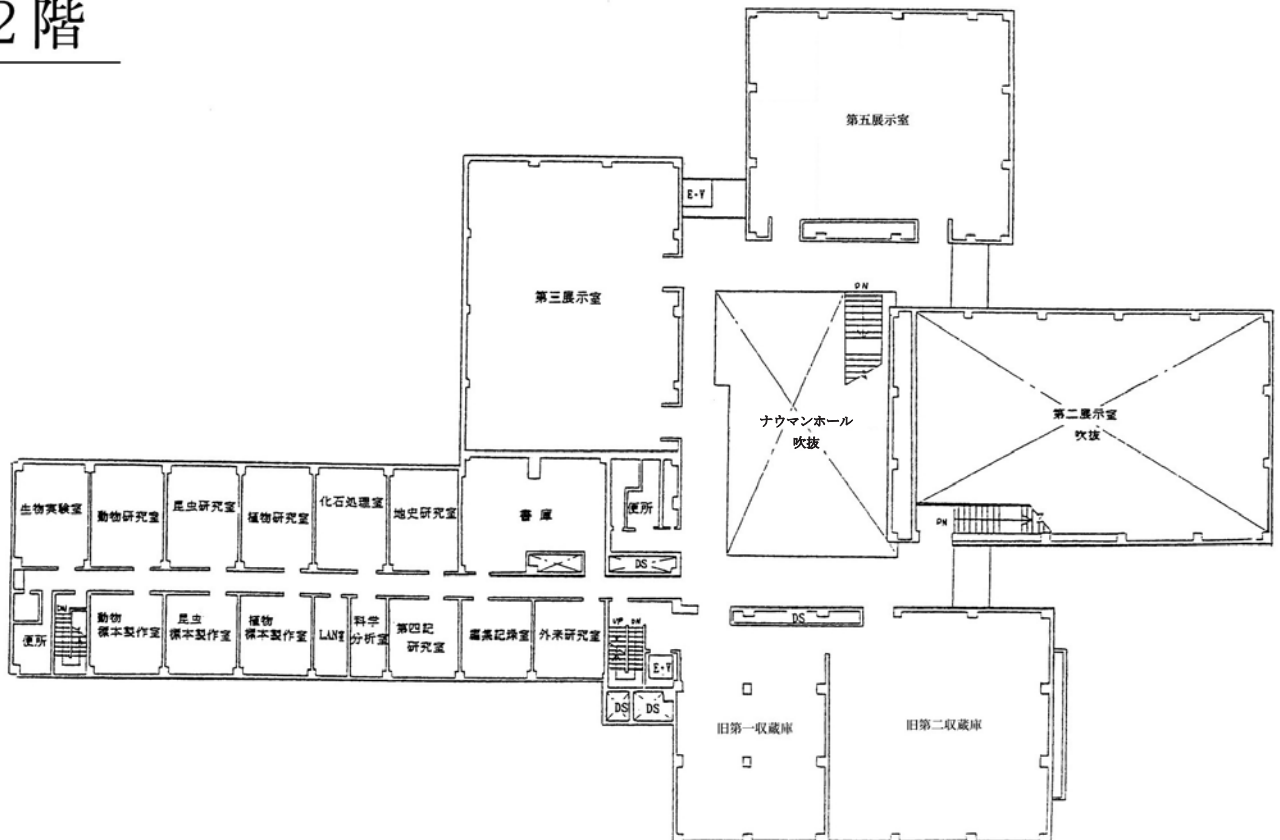


# 1階

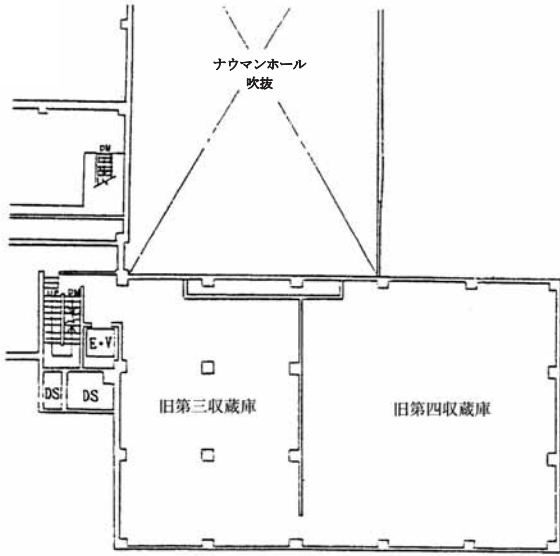
(自然史博物館本館)



# 2階



3階

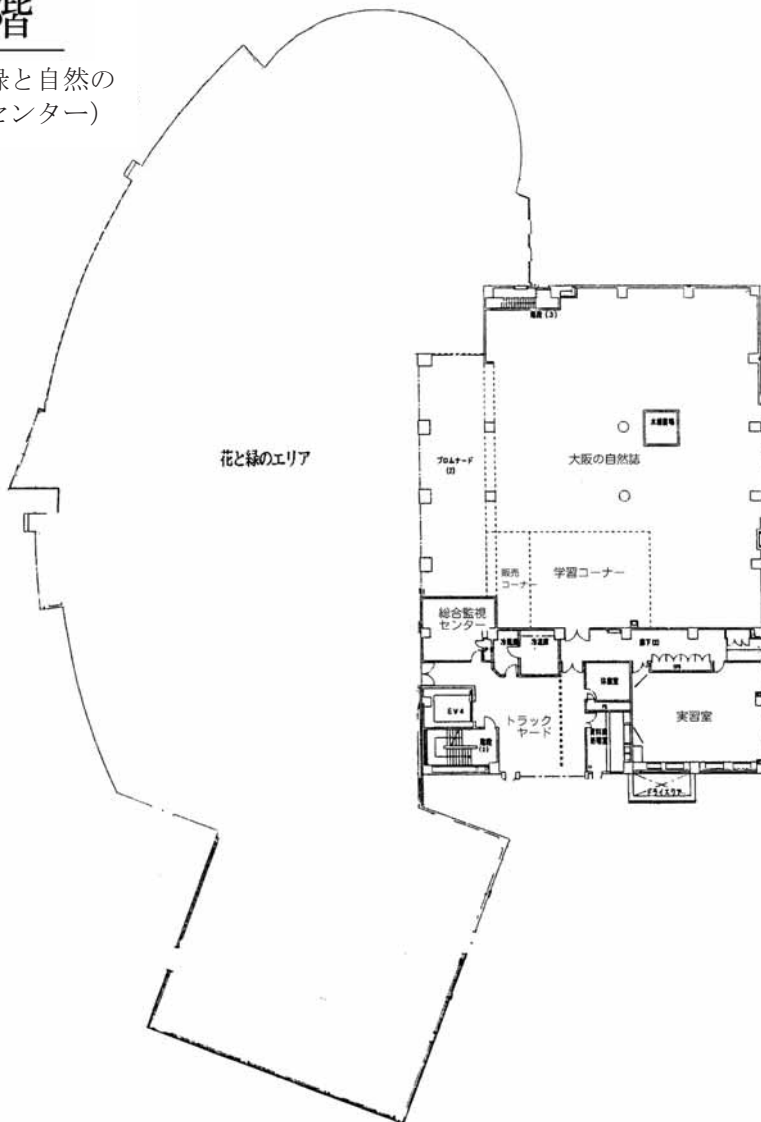


地下

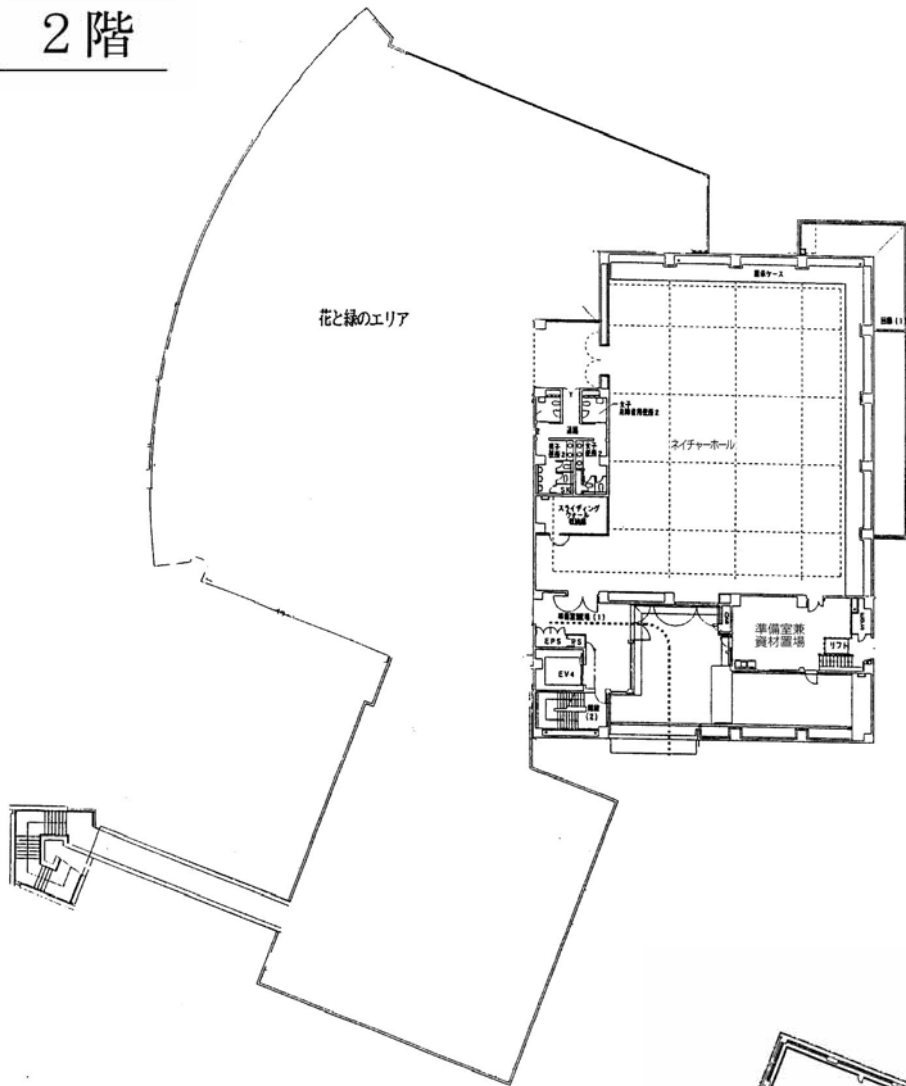


1階

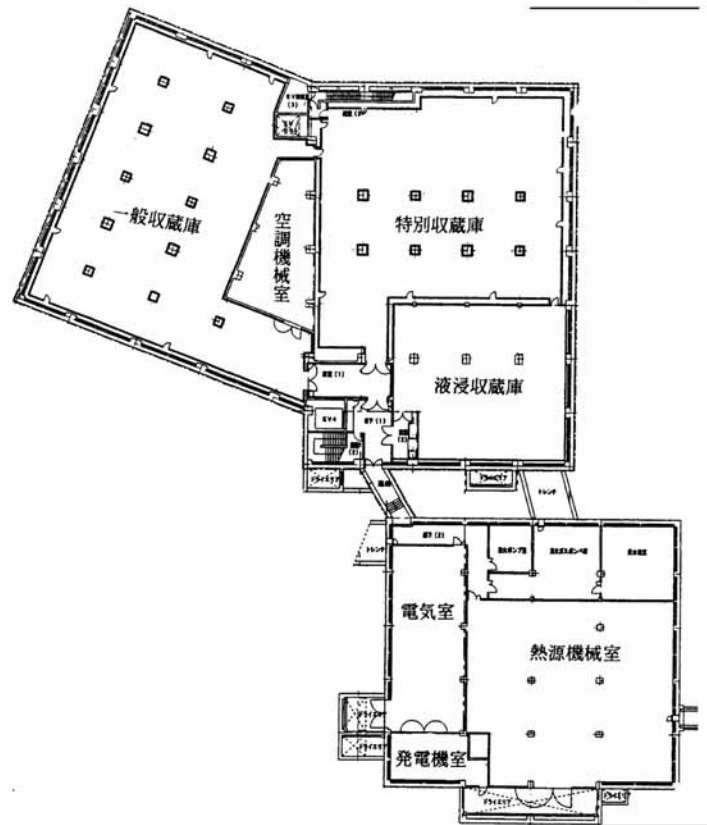
(花と緑と自然の  
情報センター)



2階



地下



○大阪市立自然史博物館条例

制 定 昭49. 4. 1  
最近改正 平21. 11. 26

大阪市立自然科学博物館条例（昭和32年大阪市条例第38号）を次のように改正する。

（設置）

**第1条** 大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）を大阪市東住吉区長居公園に設置する。

（目的）

**第2条** 博物館は、自然史に関する資料の収集、保管及び展示並びにその調査研究及び普及活動を行うとともに、市民の生涯にわたる学習活動を支援することにより、市民の文化と教養の向上及び学術の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

**第3条** 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 自然史に関する実物、標本、模型、文献、図書、図表、写真、フィルム等（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び閲覧させること
- (2) 自然史に関する調査研究及び博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究を行うこと
- (3) 自然史に関する展覧会、講習会、実習会、研究集会等を開催すること
- (4) 博物館資料に関する同定及び指導を行うこと
- (5) 市民の生涯学習の機会を提供すること
- (6) 博物館資料を貸し出し、及び交換すること
- (7) 他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関と連携し、及び協力すること
- (8) その他教育委員会が必要と認める事業

（博物館資料の寄贈又は寄託）

**第4条** 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

（休館日）

**第5条** 博物館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）
- (2) 12月28日から翌年1月4日まで

2 前項の規定にかかわらず、第15条の規定により博物館の管理を行うもの（以下「指定管理者」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、あらかじめ教

育委員会の承認を得て、同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。

3 教育委員会は、前項の承認を行ったときは、速やかに当該承認を行った内容を公告しなければならない。

（供用時間）

**第6条** 博物館の供用時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午前9時30分から午後4時30分までとする。

2 前条第2項及び第3項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第2項中「前項」とあるのは「第6条第1項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第3項中「前項」とあるのは「第6条第2項の規定により読み替えられた第5条第2項」と読み替えるものとする。

（使用の許可）

**第7条** 別表第1に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

（使用許可の制限）

**第8条** 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用を許可してはならない。

- (1) 公安又は風俗を害するおそれがあるとき
- (2) 建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
- (3) 管理上支障があるとき
- (4) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号）第2条第2号に規定する暴力団の利益になるとき
- (5) その他不相当と認めるとき

（使用許可の取消し等）

**第9条** 次の各号のいずれかに該当するときは、指定管理者は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により第7条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
- (2) 前条各号に定める事由が発生したとき
- (3) この条例に違反し、又はこの条例に基づく指示に従わないとき

（意見の聴取）

**第10条** 指定管理者は、必要があると認めるときは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう教育委員会に求めるものとする。

2 教育委員会は、前項の規定による求めがあったと



きは、第8条第4号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。

(特別研究の許可)

**第11条** 博物館資料について、特別の研究をしようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(貸出しの許可)

**第12条** 博物館資料の貸出しを受けようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

(入館の制限)

**第13条** 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
- (2) 建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
- (3) 他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
- (4) 管理上必要な指示に従わない者
- (5) その他管理上支障があると認める者

(利用料金)

**第14条** 教育委員会は、指定管理者に利用料金（博物館の観覧に係る料金（以下「観覧料」という。）、博物館資料の貸出しに係る料金（以下「貸出料」という。）並びに施設及びその附属設備の使用に係る料金（以下「施設使用料」という。）をいう。以下同じ。）を当該指定管理者の収入として収受させるものとする。

2 博物館を観覧し、博物館資料の貸出し（他の博物館、学校、学会その他の国内外の関係機関との連携及び協力に係るものを除く。）を受け、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、指定管理者に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第1項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。

3 利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、指定管理者があらかじめ教育委員会の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。

- (1) 観覧料（特別の展示に係るものを除く。）1人1回につき別表第2に掲げる金額
- (2) 特別の展示に係る観覧料 特別の展示ごとに教育委員会が定める額
- (3) 貸出料 その都度教育委員会が定める額

(4) 施設使用料 別表第1に掲げる金額（施設の附属設備については、教育委員会規則で定める種別に応じて教育委員会規則で定める額）

4 教育委員会は、前項の承認（貸出料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

5 指定管理者は、教育委員会規則で定める基準に従い、利用料金を減額し、又は免除することができる。

6 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。

- (1) 災害その他施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
- (2) 使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、指定管理者がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
- (3) その他教育委員会が特別の事由があると認めるとき

(管理の代行)

**第15条** 博物館の管理については、地方自治法（昭和22年法律第67号。以下「法」という。）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体（以下「法人等」という。）であって教育委員会が指定するものに行わせる。

(指定の申請)

**第16条** 教育委員会は、指定管理者を指定しようとするときは、博物館の管理を行おうとする法人等を指名し、当該法人等に対し、その旨を通知しなければならない。

2 前項の規定による通知を受けた法人等は、教育委員会規則で定めるところにより、博物館の管理に関する事業計画書その他教育委員会規則で定める書類を添付した指定管理者指定申請書を教育委員会に提出しなければならない。

(欠格条項)

**第17条** 次の各号のいずれかに該当する法人等は、指定管理者の指定を受けることができない。

- (1) 破産者で復権を得ないもの
- (2) 法第244条の2第11項の規定により本市又は他の地方公共団体から指定を取り消され、その取消の日から2年を経過しないもの
- (3) その役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）のうち、次のいずれかに該当する者があるもの

- ア 第1号に該当する者
- イ 禁錮<sup>ニ</sup>以上の刑に処せられ、その執行を終わり、又は執行を受けることがなくなった日から2年を経過しない者
- ウ 公務員で懲戒免職の処分を受け、その処分の日から2年を経過しない者

(指定管理予定者の選定)

**第18条** 教育委員会は、第16条第2項の規定による申請の内容が次に掲げる基準に適合すると認めるときでなければ、当該申請をした法人等を指定管理者の指定を受けるべきもの(以下「指定管理予定者」という。)として選定してはならない。

- (1) 住民の平等な利用が確保されること
- (2) 第2条の目的に照らし博物館の効用を十分に発揮するとともに、博物館の管理経費の縮減が図られるものであること
- (3) 博物館の管理の業務を安定的に行うために必要な経理的基礎及び技術的能力を有すること
- (4) 前3号に掲げるもののほか、博物館の適正な管理に支障を及ぼすおそれがないこと

(指定管理者の指定等の公告)

**第19条** 教育委員会は、指定管理予定者を指定管理者に指定したときは、その旨を公告しなければならない。法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定を取り消し、又は博物館の管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じたときも、同様とする。(業務の範囲)

**第20条** 指定管理者が行う業務の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 第3条の各号に掲げる博物館の事業の実施に関すること
- (2) 建物及び設備の維持保全に関すること
- (3) その他博物館の管理に関すること

(施行の細目)

**第21条** この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則 (昭和49年4月2日施行、告示第120号)

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則 (昭和51年4月1日条例第61号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和55年11月27日条例第48号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和56年4月1日条例第53号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和61年4月1日条例第50号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成4年4月1日条例第58号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成7年3月16日条例第40号)

この条例は、平成7年5月1日から施行する。

附 則 (平成13年4月1日条例第62号、平成13年4月27日施行、告示第491号)

この条例の施行期日は、市長が定める。

附 則 (平成17年9月22日条例第109号、附則ただし書に規定する改正規定を除くその他の改正規定、平成18年4月1日施行、告示第343号)

この条例の施行期日は、市長が定める。ただし、第15条の次に6条を加える改正規定(第17条から第19条まで及び第20条前段に係る部分に限る。)は、公布の日から施行する。

附 則 (平成19年12月28日条例第106号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成21年11月26日条例第130号)

1 この条例は、平成22年4月1日から施行する。ただし、第7条中第3号の次に1号を加える改正規定及び第9条の次に3条を加える改正規定(第10条に係る部分に限る。)は、平成22年1月1日から施行する。

2 この条例による改正後の大阪市立自然史博物館条例(以下「改正後の条例」という。)第14条第3項の規定による利用料金の額の決定及びこれに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、同項及び改正後の条例第14条第4項の規定の例により行うことができる。

**別表第1 (第7条、第14条関係)**

区 分	施設使用料
特別展示室	1室1日につき 32,000円
講 堂	1室1日につき 17,000円

**別表第2 (第14条関係)**

区 分	観 覧 料
高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	200円
その他の者	300円

## ○大阪市立自然史博物館条例施行規則

制 定 平成18年3月31日

最近改正 平成22年3月26日

大阪市立自然史博物館規則（昭和49年大阪市教育委員会規則第12号）を次のように改正する。

（趣旨）

**第1条** この規則は、大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。）の施行について必要な事項を定めるものとする。

（博物館資料の寄贈等の申出）

**第2条** 条例第4条の規定により大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）に条例第3条第1号の博物館資料（以下「博物館資料」という。）を寄贈し、若しくは寄託し、又は寄託した博物館資料（以下「寄託資料」という。）の返還を受けようとする者は、教育委員会の定めるところに従い、教育委員会に申し出なければならない。

（寄託資料の取扱い）

**第3条** 寄託資料の管理は、特別の契約がある場合を除き、本市所有の博物館資料と同じ取扱いとする。

2 寄託資料が災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷したときは、本市は損害賠償の責めを負わないものとする。

（利用料金の納付時期）

**第4条** 条例第14条第1項に規定する利用料金（以下「利用料金」という。）は、あらかじめ条例第5条第2項に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）が定める日までに支払わなければならない。

（附属設備の利用料金）

**第5条** 条例第14条第3項の教育委員会規則で定める附属設備の種別及び金額は、別表のとおりとする。

（利用料金の減額又は免除）

**第6条** 条例第14条第5項の規定による利用料金の減免又は免除は、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、指定管理者がこれを行うことができる。

2 利用料金の減額及び免除は、次のとおりとする。

(1) 30人以上の団体で入場するときは、観覧料について次に掲げる額を減額する。

ア 30人以上50人未満の団体 観覧料の1割

イ 50人以上100人未満の団体 観覧料の2割

ウ 100人以上の団体 観覧料の3割

(2) 博物館の常設展示場に入場する者が大阪市立長居植物園の入場券を提示したときは、常設展示場の観覧料について大阪市立長居植物園の入場料相当額を減額する。

(3) 前2号に定めるもののほか、教育長が公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、指定管理者は利用料金を減額又は免除することができる。

（指定申請の方法）

**第7条** 条例第16条第1項の規定による通知を受けた法人等（法人その他の団体をいう。以下同じ。）は、所定の指定管理者指定申請書に法人等の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先を記載して、教育委員会が指定する期間内にこれを教育委員会に提出しなければならない。

2 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

(1) 定款又は寄附行為及び登記事項証明書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）

(2) 役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めがあるものの代表者又は管理人を含む。）の名簿及び履歴書

(3) 条例第16条第2項の規定による申請（以下「指定申請」という。）の日の属する事業年度の前3事業年度における財産目録及び貸借対照表（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）。ただし、指定申請の日の属する事業年度に設立された法人等にあつては、その設立時における財産目録（法人以外の団体にあつては、これに相当する書類）とする。

(4) 指定申請の日の属する事業年度における事業計画書及び収支予算書（法人以外の団体にあつては、これらに相当する書類）

(5) 組織及び運営に関する事項を記載した書類

(6) 指定申請に関する意思の決定を証する書類

(7) 条例第17条各号のいずれにも該当しないことを信じさせるに足る書類

(8) 指定管理者の指定を行おうとする期間に属する各年度ごとの博物館の管理に関する事業計画書及び収支予算書

(9) 博物館の管理の業務を安定的に行うことができることを示す書類

（資料の提出の要求等）

**第8条** 教育委員会は、条例第18条に規定する指定管理予定者を選定するため必要があると認めるときは、指定申請をした法人等に対し、必要な資料の提出及び説明を求めることができる。

（事業報告書の記載事項等）

**第9条** 地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第7項の事業報告書（以下「事業報告書」という。）には、次に掲げる事項を記載し、指定管理者

の代表者がこれに記名押印しなければならない。

- (1) 指定管理者の名称、主たる事務所の所在地、代表者の氏名並びに担当者の氏名及び連絡先
- (2) 年度の区分。ただし、指定管理者の指定を受けた期間が当該年度の一部の期間であるときは、当該期間を併せて記載すること
- (3) 条例第20条各号に掲げる業務の実施状況
- (4) 博物館の利用者数その他の利用状況
- (5) 博物館の管理に要した経費等の収支の状況
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

2 指定管理者は、毎年度終了後（地方自治法第244条の2第11項の規定により指定管理者の指定の取消しを受けた場合にあっては、当該取消しの日後）2月以内に教育委員会に事業報告書を提出しなければならない。ただし、やむを得ない理由により当該2月以内に事業報告書の提出をすることができない場合には、あらかじめ教育委員会の承認を得て当該提出を延期することができる。

（損害賠償等）

**第10条** 博物館の施設の使用の許可を受けた者、入館者又は博物館資料について特別の研究若しくは貸出しの許可を受けた者が建物、設備又は博物館資料を損傷し、又は亡失したときは、教育委員会の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。

（補助執行）

**第11条** 市長の事務部局の職員をして博物館の運営に係る事務を補助施行させることとした場合においては、第6条及び第12条の規定中「教育長」とあるのは、「主管局長（大阪市事務分掌条例第1条に掲げる局及び室の長をいう。）」と読み替えるものとする。（施行の細目）

**第12条** この規則の施行について必要な事項は、教育長が定める。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 大阪市立自然史博物館の指定管理者の指定手続に関する規則（平成17年大阪市教育委員会規則第27号）は、廃止する。

附 則（平成22年3月26日（教）規則第12号）

この規則は、平成22年4月1日から施行する。

別表（第5条関係）

区 分		使 用 料		
		午 前	午 後	全 日
特別 展示 室	冷 房 設 備			16,000円
	暖 房 設 備			16,000円
講 堂	冷 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	暖 房 設 備	3,500円	5,000円	8,500円
	拡 声 装 置	1式 午前、午後 各1回につき		1,800円
	マ イ ク	1本 午前、午後 各1回につき		500円
	ワ イ ヤ レ ス マ イ ス ク	1本 午前、午後 各1回につき		1,100円
	テ ー プ レ コ ー ダ ー	1台 午前、午後 各1回につき		900円
	ス ラ イ ド 映 写 機 （スクリーン付）	1台 午前、午後 各1回につき		1,300円
	16ミリ映写機 （スクリーン付）	1台 午前、午後 各1回につき		4,200円
	ビ デ オ 装 置	1式 午前、午後 各1回につき		2,200円
液 晶 プロ ジ ェ ク タ ー （スクリーン付）	1台 午前、午後 各1回につき		1,900円	

備考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午までをいい、「午後」とは午後1時から午後5時（ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午後4時30分）までをいい、「全日」とは午前9時30分から午後5時（ただし、11月1日から翌年2月末日までの期間については、午後4時30分）までをいう。

## ○大阪市立自然史博物館観覧料等減免要綱

制 定 昭和49年4月1日

最近改正 平成22年4月1日

(目的)

**第1条** この要綱は大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市教育委員会条例第39号。以下「条例」という。）第14条の規定による大阪市立自然史博物館（以下「博物館」という。）の観覧料、特別の展示に係る観覧料、貸出料及び使用料の減免に関し必要な事項を定めることを目的とする。

（学校園等の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料）

**第2条** 保育所、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校（以下「学校園等」という。）の保育士又は教職員が、学校園等行事で園児、児童又は生徒を引率して博物館に入場しようとするときまた、その事前視察のときは、当該保育士又は教職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

2 前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとするときは、学校園等の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに大阪市教育委員会（以下「教育委員会」という。）にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
- (2) 学校園等の名称、住所及び代表者氏名
- (3) 入場者の予定人員
- (4) 引率責任者の氏名
- (5) その他教育委員会が必要と認める事項

（社会福祉施設の教職員等の観覧料及び特別の展示に係る観覧料）

**第3条** 次の各号に掲げる法律に基づき設置された社会福祉施設の入所者及び入所者を引率した職員が博物館に入場しようとするときは、当該入所者及び入所者1名につき1名の職員の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

- (1) 生活保護法（昭和25年法律第144号）
- (2) 児童福祉法（昭和22年法律第164号）
- (3) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）
- (4) 知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）
- (5) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）
- (6) 老人福祉法（昭和38年法律第133号）
- (7) 障害者自立支援法（平成17年法律第123号）

2 前項の観覧料及び特別の展示に係る観覧料の免除を受けようとするときは、社会福祉施設の長は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
- (2) 社会福祉施設の名称、所在地及び代表者氏名
- (3) 施設の設置根拠となる法律の名称
- (4) 入場者の予定人員
- (5) 引率責任者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

3 次の各号に掲げる法令の規定による手帳等の所持者及びその介護者が博物館に入場しようとするときは、当該所持者及び所持者1名につき1名の介護者の観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。

- (1) 第1項第3号に掲げる法律の規定による身体障害者手帳
- (2) 第1項第5号に掲げる法律の規定による精神障害者保健福祉手帳
- (3) 知的障害者福祉法施行令（昭和35年政令103号）の規定による判定書
- (4) 原子爆弾被害者に対する援護に関する法律（平成6年法律第117号）の規定による被爆者健康手帳
- (5) 戦傷病者特別援護法（昭和38年法律第168号）の規定による戦傷病者手帳

（大阪市内在住者の観覧料の特例及び特別の展示に係る観覧料）

**第4条** 大阪市内在住の65歳以上の市民で本市発行の健康手帳又は敬老優待乗車証等を所持している者は、観覧料及び特別の展示に係る観覧料を免除する。（大阪市政策による観覧料及び特別の展示に係る観覧料の特例）

**第5条** 大阪市の発行する以下のものを所持している者は、観覧料を免除する。

- (1) 民生委員・児童委員特別入場券
- (2) 青少年指導員証、青少年福祉委員証
- (3) 地域振興会・赤十字奉仕団特別入場券
- (4) 生涯学習推進員証
- (5) 大阪市立ミュージアム御招待証（ふるさと納税寄付者）
- (6) 成人の日記念事業施設招待券
- (7) 博物館・美術館・特別入場施設案内&パスの入場券（(財)大阪国際交流センター発行）

2 大阪市の発行する以下のものを所持している者は、特別の展示に係る観覧料を免除する。

- (1) 民生委員・児童委員特別入場券
  - (2) 青少年指導員証、青少年福祉委員証
  - (3) 地域振興会・赤十字奉仕団特別入場券
  - (4) 生涯学習推進員証
  - (5) 博物館・美術館・特別入場施設案内&パスの入場券（(財)大阪国際交流センター発行）
- ただし、特別の展示に係る観覧料のうち博物館

と他者との共催で特別な展示を行う場合は除く。

**第6条** 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、観覧料及び特別な展示に係る観覧料を免除することがある。

- (1) 市政に関する相互交流等のため、博物館を視察するとき
- (2) 団体観覧の事前調査のため、博物館を視察するとき
- (3) その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の観覧料及び特別な展示に係る観覧料の免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、観覧する日までに教育委員会にあらかじめ提出しなければならない。

- (1) 入場の日時
- (2) 団体等の名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地
- (3) 視察の目的
- (4) 入場者の予定人員
- (5) 視察する者の代表者の氏名
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

(貸出料)

**第7条** 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、館蔵品等の貸出料を免除することがある。

- (1) 博物館法に基づく登録博物館、博物館相当施設及び博物館類似施設に貸し出すとき
- (2) 国又は地方公共団体が行う教育、学術又は文化に関係することを目的とするとき
- (3) 学校の教育又は研究所の研究に使用することを目的とするとき
- (4) 報告書又は学会誌等において学術調査又は研究の成果を公表することを目的として使用するとき
- (5) その他特別な事由により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の貸出料の免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、使用の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 博物館資料の名称
- (2) 申請者の氏名及び住所（団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (3) 使用の目的
- (4) 貸出期間
- (5) その他教育委員会が必要と認める事項

(使用料)

**第8条** 次に掲げる各号のいずれかに該当するときは、規則別表第1及び規則別表2に規定する使用料を減額又は免除することがある。

- (1) 指定管理者が実施する博物館の事業と関連を有する講演会、講習会その他で、教育委員会が学術振興又は普及教育等に資すると認める行事に使用するとき
- (2) 博物館事業を行う指定管理者がNPO又は市民グループと連携を図る事業で、教育委員会が必要であると認める行事に使用するとき
- (3) 博物館法施行規則（昭和30年文部省令第24号）第1条の規定に基づく博物館実習に使用するとき
- (4) その他特別な事情により、教育委員会が必要であると認めるとき

2 前項の使用料の減額又は免除を受けようとする者は、所定の申請書に次に掲げる事項を記載し、使用する日の7日前までに教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 使用の日時
- (2) 申請者の氏名及び住所（団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- (3) 使用の目的
- (4) 使用する施設及び附属設備
- (5) 入館者の予定人員
- (6) その他教育委員会が必要と認める事項

附 則

この要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成18年10月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

決 裁 欄	課長	担当係長	係員
	課長	係長	係員

自然史博物館観覧料減免申請書

平成 年 月 日

大阪市教育委員会  
教育長 様

申請者 所在地  
名称  
代表者  
電話

下記により観覧いたしますので、観覧料を免除して下さるよう申請します。

記

観覧日時	平成 年 月 日 ( ) 時 分～	
観 覧 人 員	児童・生徒 その他	
	引率者 介護者	
	合計	
申請理由	大阪市立自然史博物館条例第14条及び同規則第4条による。	

## ○博物館実習生の受入れに関する運用方針

大阪市立自然史博物館  
制定 平成7年2月1日  
改訂 平成13年4月1日  
改訂 平成23年1月1日

(目的)

1. この運用方針は、博物館法施行規則第1条の規定に基づく、大学からの博物館実習生受入れについて、一定の規制基準をもうけ、当館の業務に支障のない範囲において受入れることを目的とする。

(受入れの規制)

2. 受入れの時期は夏期（7月～9月）・秋期（10月～11月）・冬期（12月～1月）の期間中とし、一人当りの実習日数は5日以内で、当館が指定する。
3. 受入れ人数の総数は、年間30名程度とする。ただし、一大学について5名以内とする。
4. 受講資格は、理科系・文科系を問わないが、大学において生物学または地学関係の教科を履修し（一般教養でも可）、その単位を取得している者に限る。

(実習の内容)

5. 実習の内容は、①一般実習コース、②普及教育専攻コースにわけて実施する。
  - ①一般実習コースは、当館の概要説明、展示・施設見学、標本・資料の整理、並びに普及行事の補助など、博物館の事業全般についての内容とする。
  - ②普及教育専攻コースは、当館の特色である多様な普及行事の実施にあたって、企画・運営・まとめなどに参画する内容とする。

(受入れの願書)

6. 博物館実習生受入れの依頼をする大学は、教務係または博物館学の担当教官が、当館での実習を希望する学生を集約した上で、希望する時期・コースおよび希望者名を記した内諾何文書を、当該年度の4月1日から当該年度の募集要項で指定する4月の期日までの間に、当館の博物館実習担当者宛に提出すること。  
なお、学生個人からの依頼は受付けない。

(受入れの諾否)

7. 当館では上記の依頼について審査し、日程等を決定の上、5月中に諾否を回答する。

(その他)

8. 大学において自然史に関係する分野を専攻し、当館においてその関連実技の習得を内容とした実習を受けようとする学生については、当館の当該分野の研究室または学芸員の応諾があれば、上記とは別に受入れることがある。



○建物並びに館内展示室の写真撮影等に関する運用方針について

大阪市立自然史博物館  
 制定 昭51. 12.  
 改正 昭54. 7.  
 最近改正 昭62. 12.

(目的)

- 1 この運用方針は、建物並びに館内展示室の写真・テレビ撮影等（以下「撮影等」という。）について一定の規制基準をもうけ、観覧者の利便と展示資料の損傷防止をはかることを目的とする。

(撮影等の規制)

- 2 個人使用を目的とした撮影等は、入園入館者のさまたげにならず、かつ、建物・展示資料の損傷にならない限り規制しない。
- 3 純然たる商業目的で撮影等をする場合は禁止する。ただし、当館の社会教育施設としての普及、宣伝に十分効果があると認められる場合はこの限りでない。

(撮影等の許可願)

- 4 前項ただし書き、ならびに大型機材等（照明装置、テレビカメラ等）を使用する場合は、別紙様式により届出、許可を受けなければならない。

(許可条件)

- 5 前項により許可を受けた者は、次の条件を遵守しなければならない。
  - (1) 入園、入館者のさまたげにならず、かつ、建物、展示資料を損傷させないこと。
  - (2) 撮影した写真等の使用は、今回の許可願の事項に限ること。
  - (3) 撮影した写真等の使用にあたっては、必ず当館の館名を明示するとともに、当館の利用案内をすること。
  - (4) 写真掲載紙等は、当館に1部提出すること。
  - (5) その他詳細については、当館と打ち合わせすること。

(その他)

- 6 当館が提供する資料等の使用についても、この方針を適用する。

**テレビ・ラジオ等取材願**

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館館長 様

法人・団体名  
 所在地  
 電話番号  
 担当者 (印)

日時	平成 年 月 日( ) 時 分 ~ 時 分
場所	
目的	
参加人数	
番組名	
放送日時	平成 年 月 日( ) 時 分 ~
タイトル	

・取材をご希望される方は、上記該当箇所をご記入の上、日程は担当学芸員又は総務課の広報担当と打ち合わせをしてください。

・番組内容につきましては、基本情報確認のため、台本の段階で、総務課広報宛にFAX・メールでお送りください。放送いただいた場合は、お手数ですが、テープ・CD等を一部お送りください。

**写真撮影願**

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館館長 様

法人・団体名  
 所在地  
 電話番号  
 担当者 (印)

日時	平成 年 月 日( ) 時 分 ~ 時 分
撮影場所	
目的	
備考	

・写真撮影をご希望される方は、上記該当箇所をご記入の上、日程は担当学芸員又は総務課広報担当と打ち合わせをしてください。写真の使用は、記載いただいた目的のみとさせていただきます。他の使用はできませんので、ご了承ください。

## ○外部研究者の受入れに関する要綱

大阪市立自然史博物館  
制 定 平成12年4月1日  
最近改正 平成25年4月1日

(目的)

### 第1条

自然史科学及び博物館学の発展に寄与するため、大阪市立自然史博物館（以下「当館」という）の設備及び収蔵資料の外部研究者による利用を促進する要綱を定める。

ただし、「博物館実習」単位取得のための利用、及び就業体験（インターンシップ）のための利用については別に定める。

(定義)

### 第2条

当館の外部研究者とは、以下に掲げる者とする。いずれも自然史科学、博物館学及びその周辺分野の研究を目的とする者でなければならない。

#### (1) 一時利用者

研究上の目的で、館内の設備及び収蔵資料を一時的に利用する者。

#### (2) 長期利用者

継続的に当館を利用する研究者で、次の各号に掲げる者。

##### ・ 外来研究員

大学、研究機関、教育機関、博物館などで当該分野に関する研究歴を持つ者、または学会で当該分野における研究実績が認められる者。

##### ・ 研究生

大学卒業論文作成年次の学生、大学院生、一般社会人などで、当館の設備及び収蔵資料などを利用した研究を、当館学芸員の指導の下に行なおうとする者。

(期間)

### 第3条

長期利用者の利用期間はそれぞれ次の通りとする。

#### (1) 外来研究員

原則として毎年4月1日から翌年3月31日までの1年間。

#### (2) 研究生

研究計画に必要と認められる期間。

(手続き)

### 第4条

手続きについては次のとおりとする。

#### (1) 一時利用者

一時利用を希望する者は、予め担当学芸員

(利用しようとする資料または設備を管理する学芸員) から内諾を得た上、利用当日、受付において申し出て、所定の利用票(様式1)に記入する。

#### (2) 長期利用者

研究生を希望する者は、所属機関の長または指導教官を通じて、所定の書式により、利用申請書(様式2、大学生・大学院生は推薦書1通を添付)を館長あてに提出する。

外来研究員を希望する者、及び機関に所属しない者については、直接の申請ができることとする(様式3)。

申込み期限は利用開始の前々月15日とする(外来研究員については前年度2月15日)。

(許諾)

### 第5条

前条の申し込みについての諾否は、研究履歴、研究実績、研究計画に基づき、館内の学芸員による選考委員会の審議を経て、館長が決定する。

(経費)

### 第6条

当館は、外部研究者の施設使用に対して、経費を徴収することはしない。ただし、高額を要する一部機器の運用経費、消耗品費等については受入担当で協議の上、館長が決定する。

(報告)

### 第7条

長期利用者は、研究期間終了後、速やかにその研究状況及び成果を記載した研究成果報告書を館長に提出しなければならない(様式4)。報告書については電子ファイルの提出が望ましい。

(成果)

### 第8条

外部研究者が研究成果を発表する場合は、当館の設備や収蔵資料を利用した旨を明記しなければならない。また、印刷発表後は、すみやかに当該印刷物またはその複写物を館長に提出しなければならない。

(変更・中止)

### 第9条

長期利用者が研究計画の変更を生じ、利用を中止する場合は、すみやかに館長に届け出なければならない。

(損害賠償)

### 第10条

外部研究者が当館に損害をかけた場合は、損害の一部または全部を賠償させることがある。

(資格の取消し)

**第11条**

外部研究者がこの要綱に定められた事項を遵守しない場合、あるいは外部研究者としてふさわしくない事態が生じた場合には、館長はその資格を取り消すことができる。

付 則

この要綱は、平成12年4月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成25年2月1日から施行する。

付 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

様式1

No. \_\_\_\_\_

大阪市立自然史博物館 研究設備・機器、収蔵資料  
一時利用票

本票は当館の「外部研究者受入れに関する要綱」に基づき、当館の研究設備・機器あるいは収蔵資料の一時的な利用について、予め担当学芸員の内諾を得た者が、当日受付において配布を受けるものです。記入の上、担当学芸員に提出してください。

利 用 日	平成 年 月 日		
目 的			
利用する設備・機器、 収蔵資料			
利 用 者	氏 名	所 属 また は 住 所	電話連絡先
担当学芸員名			

決 裁	館 長	副 館 長	管理課長	学芸課長	庶務係長	係 員	学 芸 員

様式2

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(所属機関の長または指導教官)  
 所 属 機 関 \_\_\_\_\_  
 所 在 地 \_\_\_\_\_  
 電 話 \_\_\_\_\_  
 職 名 \_\_\_\_\_  
 氏 名 \_\_\_\_\_ 印  
 E-mail \_\_\_\_\_

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 (○で囲む)
研究 者	所属部局(教室)、職名(学年)、電話連絡先、E-mail
	氏 名
研究課題	
研究期間	
実施計画	
使用する 設備・機器、 収蔵資料	
研究歴・ 所属学会	

様式3

大阪市立自然史博物館 長期利用申請書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(本人)  
 住 所 \_\_\_\_\_  
 電 話 \_\_\_\_\_  
 氏 名 \_\_\_\_\_ 印  
 E-mail \_\_\_\_\_

貴館における研究を下記の通り実施させていただきたく、貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」により申請いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 (○で囲む)
研究課題	
利用期間	
実施計画	
使用する 設備・機 器、収蔵 資料	
研究歴・ 所属学会	

様式4

大阪市立自然史博物館 長期利用研究成果報告書

平成 年 月 日

大阪市立自然史博物館長 様

(本人)  
 住 所 \_\_\_\_\_  
 電 話 \_\_\_\_\_  
 氏 名 \_\_\_\_\_

貴館の「外部研究者の受入れに関する要綱」に基づき、研究成果を下記の通り報告いたします。

利用形態	外来研究員 ・ 研究生 (○で囲む)
研究課題	
利用期間	
実施結果	
公表された 報文等 (書式は 館報のリ ストになら う)	

## ○大阪市立自然史博物館科学研究費補助金等事務取扱要綱

平成25年4月1日制定

(趣旨)

**第1条** 大阪市立自然史博物館（以下「当館」という。）における文部科学省および独立行政法人日本学術振興会の科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金）（以下「科研費」という。）の取扱いについては、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律179号）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）、科学研究費補助金取扱規程（昭和40年文部省告示第110号）、独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業（科学研究費補助金）取扱要領（平成15年10月7日規程第17号）、独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）取扱要領（平成23年4月28日規程第19号）に定めるもののほか、この要綱の定めるところによる。

また、科研費と同じく外部委任経理金となる研究資金については、当該研究資金に係る法令・規定等に定めるもののほか、この要綱に定めるところによる。

(定義)

**第2条** この要項において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 最高管理責任者 館長
- (2) 統括管理責任者 学芸課長
- (3) 事務責任者 総務課長
- (4) 研究者 科研費の研究代表者、研究分担者および連携研究者をいう。
- (5) 直接経費 科研費の事業の遂行に必要な経費および研究成果のとりまとめに必要な経費をいう。
- (6) 間接経費 科研費の補助事業の実施に伴う研究機関における管理事務・研究環境の整備等に必要な経費をいう。

(責任と権限)

**第3条** 当館における科研費等を適正に運営及び管理するため、最高管理責任者、統括管理責任者、事務責任者は以下の責任と権限を有する。

- (1) 最高管理責任者は、当館全体を統括し、科研費等の運営及び管理について最終責任を負う。
- (2) 統括管理責任者は、最高管理責任者を補佐し科研費等の管理及び運営について、全体を統括する実質的な責任と権限をもつ。

(3) 事務責任者は、実質的に科研費等を管理する。  
(事務)

**第4条** 科研費の事務については総務課の所管とする。

- (1) 経理事務、金銭出納に関すること。
- (2) 直接経費により購入する備品、図書等の調達、委託契約等に関すること。
- (3) 応募書類、交付申請書、実績報告書及び成果報告書の取りまとめ及び提出に関すること。
- (4) 説明会等の開催、その他補助金に関する相談・通報等に関すること。

(科研費の管理)

**第5条** 交付された科研費は、当館指定口座に預金し、統括管理責任者および事務責任者の審議・指導・助言の下、適切に管理しなければならない。

(交付前の使用)

**第6条** 科研費の交付内定通知のあったもの又は前年度に継続が内約されているものについては、科研費の交付前に研究計画の遂行に係る使用ができるものとする。

(直接経費の経理)

**第7条** 直接経費の統括管理は、統括管理責任者がこれを行う。

- 2 総務課は、直接経費の受払について、収支簿を備え、常に経理の内容を明確にしておかなければならない。
- 3 直接経費の貯金により生じた利息は、間接経費として使用する。

(間接経費の取扱い)

**第8条** 研究者は、交付された間接経費を当館に譲渡しなければならない。

- 2 総務課は、間接経費の受払について、収支簿を備え、常に経理の内容を明確にしておかなければならない。
- 3 間接経費を譲渡した当該研究者が他の研究機関に転出等となる場合には、直接経費の残額の30%に相当する間接経費を当該研究者に返還するものとする。
- 4 前項の規定に関わらず、当該研究者が新たに所属することとなる研究機関が間接経費を受け入れないこととしている場合は間接経費の返還は行わない。

(不正防止)

**第9条** 科研費の適正な執行を確保するため、不正防止委員会（以下委員会という）を設置する。

- 2 委員会は最高管理責任者・統括管理責任者及び事務責任者で構成する。
- 3 委員会に不正通報窓口を設置する。不正に関する情報を受けたときは、遅滞無く最高管理責任者に報

告することとする。

- 4 委員会は科研費の適正な執行をはかるため、科研費の取扱いに関し必要な研修を実施する。
- 5 最高管理責任者を議長として不正防止推進会議を設置し、科研費の執行状況などについて報告を行う。
- 6 不正が疑われた場合は、統括管理責任者が中心となり調査を実施し、調査結果を最高管理責任者へ報告する。最高管理責任者は、必要な措置を実施する。職員の懲戒とその適用については、大阪市および公益財団法人大阪市博物館協会の職員及び当館外来研究員の懲戒に関する規程などに従う。

(監 査)

**第10条** 最高管理責任者の下に監査室を設置する。

- 2 監査室には公益財団法人大阪市博物館協会総務部総務課長及び大阪市経済戦略局博物館施設担当課長をあてる。
- 3 適時監査を実施し、その結果を不正防止推進会議に報告する。

(その他)

**第11条** この要綱に定めるもののほか、科研費等の取扱いに関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

## ○大阪市立自然史博物館科学研究費補助金等事務取扱要綱細則

平成25年4月1日制定

(総則)

**第1条** 本細則は、大阪市立自然史博物館科学研究費補助金事務取扱要綱（平成25年4月1日制定、以下、「取扱要綱」）第11条に基づき、科学研究費補助金（以下、科研費という）の執行に関して必要な事項を定めることを目的とする。

2 科研費事務の取扱については、取扱要綱第1条に示す法令・諸規定及び取扱要綱に基づき実施するが、これらに定められていない事項については、この細則によって定めるものとする。

(物品の購入)

**第2条** この細則において「物品」とは、備品、図書、消耗品、印刷物をいう。

2 物品の購入に際しては、その決裁を経なければならない。

3 原則として、1件の購入価格が5万円を超え、かつ通常の使用で耐用が1年以上の物品は備品として取り扱う。

4 物品の購入に際しては、特例支出を除き、見積書を徴した上で決裁を経なければならない。

5 10万円以上100万円以下の物品を購入しようとする場合には、原則として2社以上の比較見積を行い、購入業者の決定については、「業者決定決裁」を経なければならない。また、特名契約をしようとする場合は、「業者決定決裁」にその理由を明記し、決裁を経なければならない。

6 100万円を超える物品を購入しようとする場合には、公益財団法人大阪市博物館協会に対し、同法人の契約規程等に基づく物品買入契約を依頼する。

7 購入業者への発注は「業者決定決裁」に基づき、研究者もしくは科研費事務担当者が行う。

8 代金の支払いについては、科研費事務担当者が納品書、検査調書、請求書等に基づき「支出命令書」を作成し決裁を経ること。

(委託契約)

**第3条** 科研費において事業等を委託し契約をする際には、その決裁を経なければならない。なお、委託契約に関しては特例支出は認めない。

2 10万円以上100万円以下の委託契約をしようとする場合には、原則として2社以上の比較見積を行い、委託契約業者の決定については、「業者決定決裁」を経なければならない。また、特名契約をしようとする場合は、「業者決定決裁」にその理由を明記し、決裁を経なければならない。

3 100万円を超える委託契約をしようとする場合には、公益財団法人大阪市博物館協会に対し、同法人の契約規程等に基づく委託契約手続を依頼する。

4 業者への委託業務の依頼は「業者決定決裁」に基づき、研究者もしくは科研費事務担当者が行う。

5 代金の支払いについては、科研費事務担当者が業務完了報告書、検査調書、請求書等に基づき「支出命令書」を作成し決裁を経ること。

(特例支出)

**第4条** 研究者が、やむを得ない理由により緊急に科研費等の支出を必要とする場合、または第2項の規定による場合には、研究代表者等において「立替払」をすることができる。

2 研究者が「立替払」を行う際には、事前に事務責任者もしくは科研費事務担当者の承認を経なければならない。

3 立替払をすることができる経費は、次のいずれかの場合に限る。ただし、事前に経費の内容等が予測される場合は、資金前渡により行うものとする。

(1) 出張にかかる旅費

(2) 研究上の必要等から遠隔地で物品を購入する、又は役務提供を受ける場合

(3) 遠隔地での研究のための会議等で会場費、参加費等を支払いする場合

(4) 宅配便等で料金を負担しなければならない場合

(5) 物品又は役務等を提供する業者等が前払いを求めている場合

(6) (1) から (5) の規定によらず、支払い額が1万円以下の物品購入費又は役務提供費

4 研究者による立替払は現金（銀行振込を含む）で行うものとする。

5 研究者が立替払をする場合は、以下の手続きをとるものとする。

(1) 物品等においては速やかに検収担当者の検収を受けること。

(2) 研究者は品名、領収額、領収日、宛名の明記された領収書又はレシートを受け取り、科研費事務担当者に提出すること。

(3) 研究者は事業実施決裁、支出決裁を行い、科研費事務担当者は領収書等を添付した支出命令書を作成し、研究者に立替払額の支払いを行うこと。なお、資金前渡を行った場合は、立替払額の確定後、精算報告書を作成し、かかる精算を行うこと。

6 取扱要綱第6条に定める研究費交付前の使用においては、第2項によらず立替払ができるものとする。ただし、第2項に該当しない交付前の使用については、取扱要綱細則第2条に定める手続きに従う

ものとする。

(物品等の検収)

**第5条** 物品等の検収は検収担当者が行う。検収担当者は総務課もしくは学芸課から、事務責任者が指定する。

2 物品等の納品先は、原則として総務課とし、その場で検収担当者が検収を行う。ただし、常時温度管理を要するもの、保管に安全確保が必要なもの、又は大型・大量等の理由で総務課を納品先とすることが適当でない場合は、研究者が適切な納品先を指定し、その場所で検収担当者が検収を行う

3 以下のいずれかに該当する場合は、納品後速やかに検収担当者に物品等の現物または写真を提示して検収を受けるものとする。

- (1) 宅配便等により研究者に直接納品された場合
- (2) 遠隔地で購入した場合
- (3) 検収担当者の不在等の理由により納品時に検収できなかった場合

4 取扱要綱第9条に定める不正防止のため、不正防止委員会は、物品等の納品・検収後であっても、研究者に対して購入物品等の所在確認を求めることができる。

(備品・図書の管理)

**第6条** 科研費で購入された備品・図書については、研究者は速やかに譲渡に関する申出をおこない大阪市に譲渡すること。ただし、研究期間内に研究代表者が他の研究機関に移動し、返還の申出があった場合には返還しなければならない。

2 寄付を受けた備品は備品番号、備品名、管理者、保管場所などを大阪市立自然史博物館（以下、当館）の備品台帳に登録する。登録が完了した備品には登録シールを貼付しなければならない。

3 備品を当館以外（自宅・他機関など）へ持ち出して長期使用する場合、「備品借用願」（様式は自由。使用者、使用期間、主な使用場所、備品番号、備品名、付属品等内訳などが記載されたもの）を事務責任者に提出して、承諾を得なければならない。

4 図書については、当館の図書登録をしなければならない。ただし、登録後研究者は研究期間内においては、貸出手続きを経て継続的に優先して使用できるものとする。

(人件費・謝金)

**第7条** 人件費・謝金により、研究者の監督のもと継続的に研究補助などを行う者を雇用する場合は、当館が公募・採用した者を雇用しなければならない。

2 研究補助者の勤怠およびその経費は総務課が管理し、その出勤簿など勤怠を確認できる書類を総務課に備えるものとする。

3 分析、野外調査補助、文書入力作業など、研究補助業務が遠隔地で行われる場合は、その業務実態がわかる書類を提出しなければならない。

4 謝金等の支出は、銀行振込み等により研究補助者に直接支出することを原則とする。

5 履歴書・謝金単価等については別表に定める。  
(国内・外国出張)

**第8条** 出張旅費の額は原則として、大阪市及び公益財団法人大阪市博物館協会の「旅費規程」等を準用する。

2 研究者が出張しようとする場合は、「出張伺」を作成し、科研費事務担当者に提出しなければならない。科研費事務担当者は、「出張命令簿」を作成し決裁を経ること。なお、「出張伺」には研究者が研究者の出張に関する専決決裁権をもつ管理職の了承を受け、その押印があること。なお、外国出張の場合は、事前に外国出張にかかる必要な協議や手続きを経ること。

3 外国出張において、支度料は支給しない。また、外国出張時における査証取得費用や各種の予防接種および接種証明書発行手数料などの経費は直接経費から支出できる。なお、携帯用医薬品等の費用は支出できないものとする。

4 当館以外の連携研究者、研究協力者が出張する場合は、協力者側に出張依頼書を交付し、出張承諾書を受け取ったうえで決裁を受けること。出張後は出張報告書の提出を受けること。

5 旅行代理店を通して旅費を支出した場合は、第8条第1項の定める額を上限として、その実費を支出することができる。

6 航空機を利用した場合には、実費を支出する。ただし、航空会社等の領収書および搭乗券半券など搭乗を証明するものを提出しなければならない。なお、外国出張にかかる航空券の購入については、可能な限り同一便の見積を2社以上から取り、購入業者を決定すること。

7 出張帰還後、速やかに復命書を提出すること。

8 出張旅費の支給は原則前渡とし、出張者の口座に振込むことができる。出張に際し、精算の必要が生じた場合は、内訳がわかる領収書等を添付のうえ速やかに申告し、精算すること。

(不正の防止)

**第9条** 科研費事務担当者は、科研費の執行状況を少なくとも2ヶ月に1度、不正防止委員会に報告しなければならない。

附則

この細則は、平成25年4月1日から施行する。

(別表をのぞく)





## ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the fiscal year of 2013

Nagai Park, Higashi-sumiyoshi-ku, Osaka, 546-0034 JAPAN

Issued : June 4, 2014.